

湖北と息づく ながしんのあゆみ

長浜信用金庫100周年記念誌





発刊にあたって

私ども長浜信用金庫は、2023(令和5)年10月11日に創立100周年を迎えることができました。

1923(大正12)年、第一次世界大戦後の深刻な不況に加え、関東大震災の大混乱で、中小零細企業や金融機関が破たんした淵に立たされていたなか、地元の生活と産業を守るため設立されました。

当金庫の100年のあゆみは、会員をはじめとする地域の皆様との絆、関係各位のご指導やご助言、先輩役職員のたゆみない努力が紡いだ軌跡であります。この大きな節目に輝かしい歴史を受け継ぐにあたり、改めて多くの方々の温かいご理解とご厚情に衷心より感謝申し上げるとともに、諸先輩の辛労と功績に対し敬意を表する次第であります。

このたび、100周年を記念して当金庫を育てこられた先人の思考と努力の歩みを記録にとどめ、新たな第2世紀への一步を踏み出す礎とするため『長浜信用金庫100周年記念誌』を刊行いたしました。

振り返りますと、昭和金融恐慌、高度成長時代、バブル経済の崩壊、リーマン・ショックなど、とめどなく押し寄せる経済の荒波を地域の皆様と寄り添いながら、共に乗り越えてまいりました。現在は少子高齢化や人口減少、事業所減少など、とりわけ地域経済においては一層厳しさが増すことが予想されます。

このような状況のなか、今後もお客様や地域が抱える課題解決に尽力し、幸せづくりと地域社会全体の成長に貢献することを目指して努力していく所存でございます。

皆様におかれましては、本誌をご高覧賜り、当金庫へのご理解を深めていただくとともに、今後とも一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2024(令和6)年6月13日

会 長 田邊 功

理事長 池野 弘和

長浜信用金庫 創立100周年記念ロゴマーク



正方形は、地域と地域の人々、金庫と金庫の職員を表し、4辺の強い結びつきを表現しています。

〈ながしん〉のコーポレートカラーである、ながしんブルーとながしんライトブルーを用いて表す2色は、濃い色を過去の〈ながしん〉、淡い色は未来の〈ながしん〉を示し、100年の歴史とこれからの当金庫が折り重なり邁進していく様をシンボライズしています。

中央には、〈ながしん〉同様に愛され親しみやすいポップなフォントで、100th(100周年)を大きく配置しインパクトあるロゴマークとしています。

目次

発刊にあたって 田邊 功 会長
池野 弘和 理事長

長浜信用金庫 創立100周年記念ロゴマーク——2

〈ながしん〉の100年——7

歴史を語る「ながしん100年のあゆみ」——15

序章 事業の源流をたどる

豊かな歴史に彩られた長浜の地で——16

信用金庫の原点は相互扶助の精神——18

第1章 〈ながしん〉の誕生と事業の形成 1923～1950年（大正12～昭和25年）

有限責任長浜信用組合の創立——20

発足間もない経営危機と克服——22

戦時経済下での事業基盤形成——24

長浜市誕生、地域経済に即した金融機関に改組——26

戦後の混乱と危機を乗り越え再出発——28

第2章 戦後の再出発、湖北の代表的金融機関へ 1951～1972年（昭和26～47年）

長浜信用金庫に組織変更、営業地区拡大へ——30

本店移転、経営基盤の強化へ向かう——32

支店網を拡大、湖北を代表する地域金融機関へ——34

地域社会への継続的貢献に向けて——36

地域との結びつきを再確認する——38

第3章 地域経済の転換、さらに身近な〈ながしん〉へ 1973～1992年（昭和48～平成4年）

創立50周年を新本店で迎える——40

変化する地域と経済、質的充実の時代へ——42

店舗拡大とオンライン化、より身近な〈ながしん〉へ——44

地域に浸透、預金量1千億円達成——46

バブル景気に浮かれず堅実経営を貫く——48

第4章 地域に尽くすコミュニティバンクづくり 1993～2008年（平成5～20年）

創立70周年を迎える——50

世帯から個人へ、会員の組織化を図る——52

金融制度の大改革時代をあゆむ——54

より魅力的な〈ながしん〉へCIを導入——56

預金量2千億円を突破し創立80周年へ——58

経営ニーズへ広げる地域密着型金融——60

第5章 人と地域をつなぐ存在へ 2009～2022年（平成21～令和4年）

地域に必要とされる金融機関であり続ける——62

創立90周年、100周年へのチャレンジ——64

地域の信頼を得て預金量3千億円突破——66

コロナ禍における使命の遂行——68

地域経済活性化への支援——70

社会課題に応える商品・サービスの提供——72

次代へ向けた組織と人づくり——74

第6章 誇りを胸に第2世紀へ 2023年（令和5年）

創立100周年を迎える——76

トップインタビュー 100周年に感謝し、さらに強固な〈ながしん〉を目指します——80

使命を語る「まちとのあゆみ」——83

〈ながしん〉の原点「先人から受け継ぐ心」100周年の歴史に仰ぐ西島庄五郎精神——84

地域とのあゆみ1 商店街に賑わいを 街づくりに挑む伴走者として——86

地域とのあゆみ2 課題解決に挑む 地域の経済を次代へつなげる——88

地域とのあゆみ3 ボランティアとして 私たちも郷土の一員であるからこそ——90

信友会の活動——92

地域を語る「店舗のあゆみ」——95

本店営業部／市立長浜病院出張所／三ツ矢支店／木之本支店／七条支店／米原支店／醒井支店／南支店
／神照支店／高月支店／宮司支店／びわ支店／やわた中山支店／浅井支店／近江支店／本部

資料——113

概要／組織図——114

歴代組合長・理事長——115

役員——116

役員任期一覧——118

預金積金・貸出金の推移——121

当期利益・会員勘定の推移——122

会員数・役職員数の推移——123

年表——124

編集後記／参考文献・協力者一覧——132

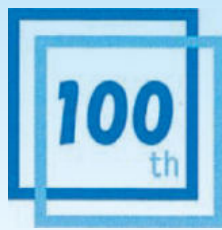
- 【凡例】
- (1) 本誌の記述対象期間は、長浜信用組合として発足した1923(大正12)年から2023(令和5)年までとしたが、事項によってはその後にわたった部分もある。
 - (2) 原則として西暦を優先し、項の初出で和暦を補足。再出以降は和暦を省略した。
ただし、元号が変わる場合、特筆すべき場合などはその限りではない。
 - (3) 用字用語は、原則として常用漢字および現代仮名遣いを用いたが、金融用語・慣用語・固有名詞などについては、これに準拠しないものもある。
 - (4) 人名は原則として当庫内人名については敬称を省略し、役職名は記述当時のものとした。
 - (5) 法人名・団体名は記述当時のものとし、原則として法人格名称は省略したが、必要に応じて記載した。
 - (6) 地名は記述当時のものとし、必要に応じて現在の名称を補足した。
 - (7) 本文に記載の数値について、原則として算用数字を使用し、適宜、万、億などの単位語を付した。また単位未満は切り捨てた。
 - (8) 周年は、長浜信用組合と称していた期間(産業組合法に基づく信用組合、中小企業等協同組合法に基づく市街地信用組合)も通算している。また本文においてもこれら期間を含めて長浜信用金庫、当金庫と記載する場合がある。



(写真は1956年現所在地に移転時の本店)

1923年
長浜町民の要請に応えて誕生





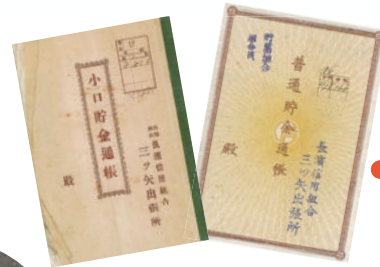
〈ながしん〉の100年 「共創力」を発揮する コミュニティバンクへ

1923年に地元長浜市で生まれた〈ながしん〉は、皆様に支えていただき100周年を迎えることができました。巻頭では、地域とともにあゆみ、発展・進歩を遂げることができたこれまでの歴史を、当時の写真で振り返ります。

長濱信用組合



- 1923(大正12)年8月 有限責任長浜信用組合 設立認可
- 1929(昭和4)年10月 三ツ矢出張所開設



- 1943(昭和18)年8月 市街地信用組合法による改組。名称を「長浜信用組合」に変更

1920~40s

地域と人々を守る 「長浜信用組合」 が創立

〈ながしん〉の前身・長浜信用組合は、地域経済が混迷する時代にあって、「町民が一丸となって、地域を支える金融機関をつくろう」と1,454人の熱意で誕生しました。

1923



情緒感じる長浜の水辺(明治ごろ)



湖北トピック

1943(昭和18)年 坂田郡長浜町と周辺6村が合併。長浜市発足。

- 1950(昭和25)年4月 中小企業等協同組合法による改組



- 1951(昭和26)年10月 信用金庫法による改組、「長浜信用金庫」と改称



- 1952(昭和27)年8月 木之本支店開設
- 1955(昭和30)年8月 七条支店開設



人が行き交う長浜駅(写真左)。自家用車は少なく、バスが主な移動の足だった(写真下、ともに1960年)

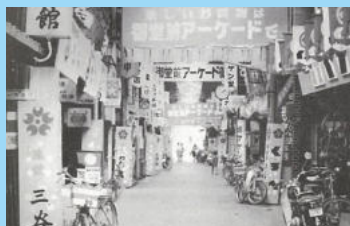
1950~60s

〈ながしん〉の営業地域を拡大

戦後復興期には、「長浜信用金庫」へと改組、地域ニーズに応え、湖北を代表する地域金融機関へと成長を遂げました。

湖北トピック

1960(昭和35)年ごろ 高度成長期に買い物客で混み合う商店街。湖北地域においても、浜ちりめんなどの繊維産業がピークを迎え、街も活気づいた。



当時から使われる襟章



- 1956(昭和31)年12月 本店を現在地に移転
- 1959(昭和34)年3月 米原支店開設
- 1960(昭和35)年3月 預金量10億円達成
- 1964(昭和39)年3月 醒井出張所開設(1972年9月支店昇格)
- 1965(昭和40)年12月 滋賀湖北福祉奉仕会設立

- 1969(昭和44)年12月 預金量100億円を達成



1970~80s

いつの時代にも 必要とされ続ける 〈ながしん〉

新本店にて創立50周年を迎えた〈ながしん〉は2度のオイル・ショックを乗り越え、地域経済を支え続けました。1984年には10支店となり、87年には預金量1,000億円を達成しました。

- 1973(昭和48)年10月 創立50周年

- 1973(昭和48)年11月 本店新築



建設前に描かれた本店の完成イメージ

- 1974(昭和49)年11月 日本銀行歳入代理店業務の取扱開始

- 1978(昭和53)年12月 CD導入、キャッシュカード発行開始

- 1978(昭和53)年12月 南支店開設

- 1979(昭和54)年3月 預金量500億円を達成

- 1979(昭和54)年9月 神照支店開設

- 1981(昭和56)年10月 長浜市役所に初の店外CD設置

夏祭りでにぎわう旧黒壁銀行前の街並み(1980年ごろ)



湖北トピック

1983(昭和58)年 長浜城が復興。内部は歴史博物館として、周辺は豊公園として整備され、市民の憩いの場となっている。





1987年ごろの商店街

- 1984(昭和59)年2月 高月支店開設
- 1984(昭和59)年4月 宮司支店開設
- 1985(昭和60)年4月 金融自由化3ヵ年計画スタート
- 1986(昭和61)年6月 大口定期預金の取扱開始

- 1990(平成2)年6月 ATM振込サービス開始
- 1991(平成3)年3月 びわ支店開設
- 1992(平成4)年3月 やわた中山支店開設
- 1993(平成5)年4月 浅井支店開設



- 1993(平成5)年10月 創立70周年

1990～2000s

金融の転換期に 高まる存在感

日本経済はバブル景気と直後の崩壊、業界の転換期ともいわれる金融制度改革に直面しながらも、〈ながしん〉は地域、お客様とともにあゆみ、さらに躍進を遂げました。



- 1999(平成11)年4月 CI(コーポレート・アイデンティティ)の導入
- 1999(平成11)年7月 投資信託の取扱開始(本店営業部)
- 2000(平成12)年6月 預金量2,000億円を達成
- 2006(平成18)年12月 営業エリアを滋賀一円に拡張



発展を遂げるJR長浜駅前



コンビニATMの案内板(2000年)

- 2008(平成20)年1月 ながしん経営塾開塾
- 2008(平成20)年3月 生体認証ICキャッシュカードの取扱開始
- 2009(平成21)年2月 ネット口座振替受付サービス開始

- 2013(平成25)年2月 電子債権記録サービスの取扱開始
- 2015(平成27)年2月 ATM入出金手数料無料化実施
- 2016(平成28)年5月 個人型確定拠出年金(iDeCo)の取扱開始
- 2017(平成29)年7月 ながしん創業助成金創設
- 2018(平成30)年8月 預金量3,000億円を達成
- 2019(令和元)年8月 「フリーローン【WEB完結型】」の取扱開始
- 2019(令和元)年9月 LINE公式アカウント開設
- 2020(令和2)年3月 「Hi-Co(ハイコ)通帳」取扱開始



テレビCM(2018年)

- 2020(令和2)年5月 新型コロナウイルス感染症対策のため長浜・米原両市に寄付
- 2021(令和3)年3月 ながしんSDGs宣言
- 2023(令和5)年10月 創立100周年
- 2023(令和5)年12月 預金量4,000億円を達成

2010～2020s

地域に貢献し、 預金量4,000億円 達成へ

世界同時不況、コロナ禍による生活様式の変容等、日々激しい変化を遂げるなか、〈ながしん〉は創立100周年を迎えました。新たな第2世紀へ〈ながしん〉の歴史は未来へと続きます。



長浜信用金庫
本店



- 1986(昭和61)年12月 預金量1,000億円を達成
- 1987(昭和62)年10月 第1回AIN(アート・イン・ナガハマ)に協賛、ボランティア参加
- 1989(平成元)年7月 資本参加する黒壁スクエアオープン



びわ湖長浜ソーデーマーチにボランティア参加

- 1996(平成8)年5月 本店営業部 市立長浜病院出張所開設

- 1998(平成10)年10月 近江支店開設

湖北トピック

- 1992(平成4)年 滋賀県立長浜ドームが完成。広さは1万200m²で、雨天時でも野球やサッカーなどスポーツイベントが開催できる。(写真は建設途中のドームとJR田村駅)



湖北トピック

- 2005(平成17)年 米原町・伊吹町・山東町が2月に合併し米原市が発足。10月には近江町も加わった。(写真は米原市発足に向けた協議会)



湖北トピック

- 2023(令和5)年 地域の皆様をお招きし、長年にわたって開催してきた「ながしん講演会」。創立100周年記念講演会では、400名以上のご参加をいただいた。(写真右)ほかにも少年野球大会(写真下)や地域イベントへの協賛などを通じ、〈ながしん〉は地域とともにあゆみ続ける。



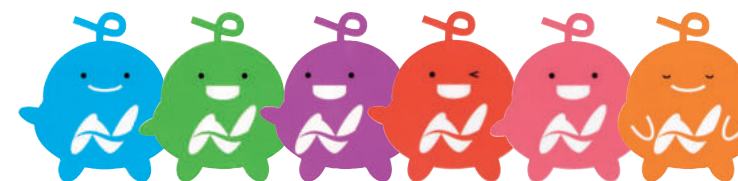
2023年

創立100周年。地域とともに次代へ飛翔

歴史を語る 「ながしん100年のあゆみ」

オリジナルキャラクター
「ながたん」について

長浜信用金庫では創立90周年を記念し、ひょうたんの6人兄弟「ながたん」をオリジナルキャラクターとして発表しました。本誌では序章を除く各章のタイトル周りに登場します。ぜひご覧ください。



豊かな歴史に彩られた長浜の地で

近世から近代にかけての長浜は、日本の歴史の表舞台にもたびたび登場する独自の地域性と経済力を形成し、大いなる興隆と発展を遂げた。

太閤秀吉が築いた楽市楽座の城下町

長浜信用金庫が営業基盤とする滋賀県湖北地域は、縄文時代の遺物が点在するように、古代から人々が住まい、暮らしを育んできた歴史豊かな土地柄である。

戦国時代後期には、後に天下人となる豊臣秀吉(当時羽柴秀吉)が初めて自らの城を築いた地となった。今浜と呼ばれた当地は「長浜」に改められ、商人が自由に商いのできる楽市楽座の町づくりが進められ、近世城下町の模範ともされた。後に長浜城は廃城になったが、1983(昭和58)年、長浜市民の熱意が集まり再建される。

先進の気風あふれ発展した長浜

明治維新を迎えると、地元の強い働きかけによって鉄道が敷設され、長浜駅が開業(1882年)。鉄道連絡船の運航と合わせ、関西と東海・関東、北陸を結ぶ交通の要衝として大いににぎわった。また学制公布に先駆け滋賀県下初の小学校が設立され(1871年)、その3年後には寄付金をもとに木造3階建ての開知学校が開設された。1877(明治10)年には地元の有力商人が発起人となり、県下で最初の国立銀行(第二十一国立銀行)も開業した。

長浜においてこうした先進的な取組みを可能とした背景には、県下随一を誇った経済力があつた。江戸時代から養蚕が盛んな湖北地方でつくられた生糸やちりめんが長浜に集まり、繊維工業が発展。大規模な製糸会社(近江製糸)が稼働し、高級絹織物である浜ちりめんや織物の一種のピロード(ベルベット)などの織物業も発展した。

先取の気風が満ちたこの地で、1923(大正12)年、長浜信用金庫が誕生することとなる。



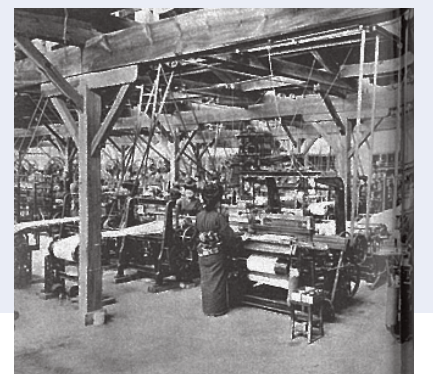
市民の熱意で再興された長浜城



JR長浜駅前に設置されている「秀吉公と石田三成公出逢いの像」。長浜は豊臣秀吉と関係が深い石田三成の出生地でもある



旧長浜駅舎



長浜は浜ちりめんの産地として大いに繁栄した(写真は
大正末期の工場の様子)



滋賀県下で最初に設立された開知学校。現在も保存活用される

信用金庫の原点は相互扶助の精神

明治期に創設された信用組合を前身とする信用金庫は、地域に住む人々が互いに助け合う協同の精神を基盤とし、地域の発展に尽くすことを目的として誕生した。

二宮尊徳につらなる精神を礎に

日本において発展した信用金庫の源流には、江戸後期の経世家として知られる二宮尊徳が組織した報徳社があるとされる。度重なる飢饉で疲弊した農村社会にあって、二宮尊徳は経済と道徳が調和する協同精神に基づく報徳主義を提唱。1843(天保14)年に最初的小田原報徳社を設立すると、各地で同様の組織が次々と結成された。博愛家や富豪が資金を抛出、これを産業振興の貸し付けや貧民救済に用いる結社であり、信用組合や協同組合、信用金庫の原型となった。

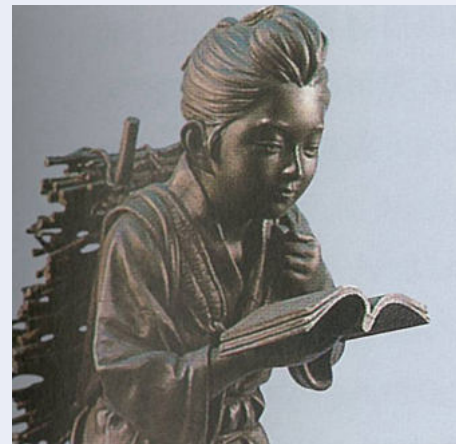
信用金庫の源流となる信用組合が誕生

明治維新を経て急速に近代化が進んだ日本では、貨幣経済が飛躍的に発展したものの、中小商工業者や農民の資金需要に応える金融機関は少なかった。この解決のため、近代的な協同組合の設立を求める動きが起こった。モデルとなったのは、ドイツの産業組合制度であり、報徳社などを基盤に次々と組合が設立された。しかし多くは資金不足で十分な事業を行えず、法律上も認められた存在ではなかった。

1900(明治33)年になると、ようやく農民救済を主目的とした産業組合法が制定され、信用組合が設立された。この後、幾度かの法改正を経て、戦後の1951(昭和26)年、信用金庫法が制定され現在へ至る信用金庫となった。

このような経緯で誕生した信用金庫は、地域に住む方々が会員・利用者となり、相互扶助を目的とした協同組織の金融機関であることを大きな特長とする。利益第一主義ではなく、会員すなわち地域社会の利益が優先され、資金は地域の発展に生かされる。

長浜信用金庫も、こうした使命のもとで生まれ、地域とともにあゆんでいく。



二宮尊徳の幼少(金次郎)像。貧しい暮らしにあって、薪を背負いながら学問に励んだ姿が模範とされ、かつては各地の小学校に設置された



二宮尊徳の教えを伝える大日本報徳社の正門(経済門と道徳門：静岡県掛川市)



二宮尊徳の教えをまとめた「報徳訓」。道徳と経済活動を一致させ、富国安民をはかるうとする教えであった



姉妹都市提携を結んだ際の歓迎レセプション(1959年)

長浜とドイツ・アウグスブルク市

日本に信用金庫が誕生する際にモデルとしたドイツと長浜には、実は深い関係がある。ドイツ南部に位置するアウグスブルク市と1959(昭和34)年に姉妹都市提携を結び、60年を超える友好関係を築いてきたからである。同市は人口約29万人、2000年の歴史を誇る古都であり、繊維産業などが盛んな商工業都市でもある。16世紀初頭、金融業を営んだ富豪フッガー家によって世界最古の社会福祉施設である「フッゲライ」が創設された地として、また音楽家モーツァルトや詩人ブレヒトゆかりの地としても知られている。



世界最古の社会福祉施設「フッゲライ」(ドイツ・アウグスブルク市)

第1章 〈ながしん〉の誕生と事業の形成



ながたんブルー
(琵琶湖)
母なる湖「琵琶湖」の
青を纏い未来にいい
風を送る長男

有限責任長浜信用組合の創立

大正時代の後期、第一次世界大戦後の反動不況と
関東大震災の混乱で揺れた日本。
苦境にあえぐ地域で、独自の金融機関をつくる動きが始まった。

1923～1950年(大正12～昭和25年)

地域の窮地を救うため町民に呼びかけ創立

日本が近代化を遂げた明治後期から大正期にかけ、長浜では本格的な製糸会社が稼働するとともに、浜ちりめん[※]に代表される多くの織物工場が誕生し地域の経済は活発化した。

しかし第一次世界大戦後、輸出の不振から余剰生産物が大量に発生、1920(大正9)年には株価が大暴落し、銀行の取り付け騒ぎが起き、休業に追い込まれる銀行もあった(戦後恐慌)。生糸相場は半値以下に暴落、製糸工場は操業短縮を余儀なくされた。

地域経済が大きな混乱に見舞われたこの時期、長浜町の吉田作平町長は「町民が一丸となって、地域を支える金融機関をつくろう」と、産業組合法[※]に基づく信用組合の設立を決意した。

町議会は満場一致で賛成、設立準備員のもと組合の人事・組織などを具体化し、町から500円の設立助成金を受け、1923年8月21日、知事から「有限責任長浜信用組合」として設立が認可された。

1,454人の熱意で誕生、吉田作平町長が組合長に

県への申請手続きの一方、吉田町長は「信用組合に就て」とした書面を町内各戸に配布、町民に加入するよう協力と呼びかけた。

業務開始へ向けた準備が進んだ1923(大正12)年9月1日、関東大震災が起こった。次第に被害の深刻さが明らかになり、日本社会に不安感が広がったが、組合への期待は高く、加入した1,454人の組合員により22万2,400円の出資金が集まった。

9月28日には設立総会を開催、10月11日から長浜町錦64番地(現・長浜市大宮町7番14号)で業務を開始した。初代組合長には吉田町長が就任、専務理事には組合設立に奔走した町会議員の西島庄五郎が指名され、経営実務を担う体制とした。

※産業組合法

1900(明治33)年公布。農民や中小商工業者の保護・救済を目的とした法令。所管は当時の農商務省。組合員への貯金・貸付を行う信用事業等を可能としたが、組合員以外からの預金が認められないなど制約も多く、都市部の商工業者や勤労者に応じた金融機関向け改正や単独法の制定が行われた。



長浜信用組合事業案内



長浜信用組合看板

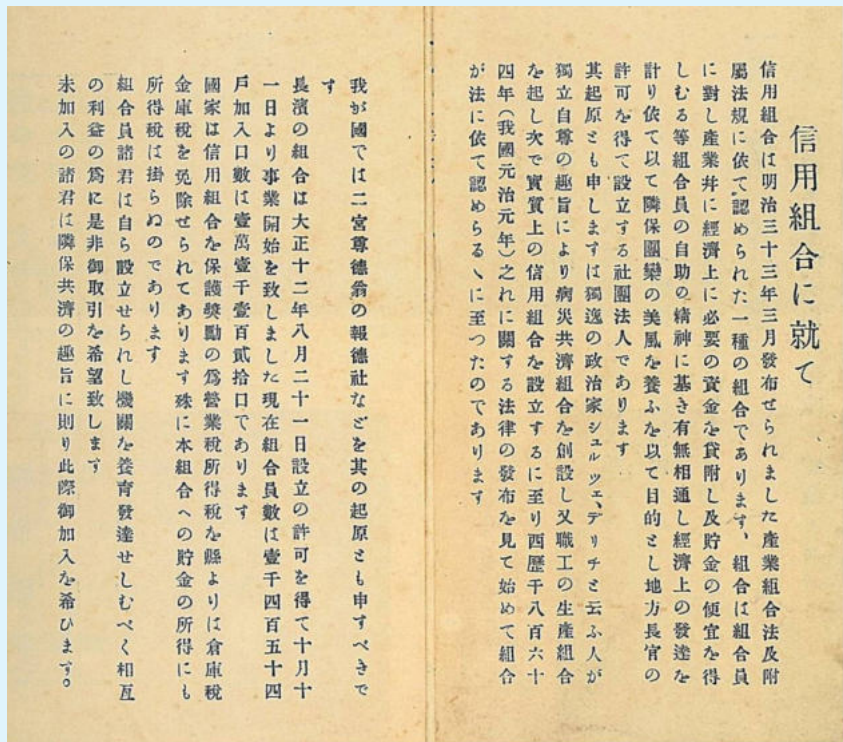


長浜信用組合の設立総会を開催した勸業館。現在の豊公園内に明治末期に建設された建物であった



初代組合長・長浜町長 吉田作平

1863(文久3)年、長浜に生まれる。教科書を販売する書店や新聞販売店を経営。1909(明治42)年に長浜町長となり、長浜城跡の公園化、町立実科高等女学校の創立などを進めた。長浜信用組合設立後は組合長を務め、1925(大正14)年逝去。



吉田町長が各戸に配布し加入を呼びかけた書面



創立当初の店舗(1923年ごろ)



出資証券

発足間もない経営危機と克服

創立から4年後のこと、長浜信用組合は取引銀行の経営破たんにより連鎖破たんを免れない事態に直面した。この危機を積極経営と懸命の努力で乗り越え、経営を維持した。

日比久太郎組合長の就任、手弁当での業務遂行

創立から1年半余りを経た1925(大正14)年4月、吉田作平組合長が逝去した。第2代組合長には長浜町の初代町長を務めた日比久太郎^{※1}が就任、専務理事は引き続き西島庄五郎が務めた。

同年9月、当組合に市街地信用組合制度が適用され、組合員以外の貯蓄も取り扱える金融機関として業務を拡大した。

時代が昭和へ移ると、1927(昭和2)年に金融恐慌^{※2}が起り、多くの銀行が休業、大手銀行の破たんも相次いだ。当組合と密接な取引関係にあった関西有数の近江銀行^{※3}(本店・大阪)も経営破たんに追い込まれた。当組合は同行に総預金額の半分強(37万円余)を預け入れていた。同行解散により払込出資金に匹敵する11万円余の預け金切捨てを被り、6万7,000円の赤字を計上することになった。

連鎖破たんを免れない事態のなかで、組合長、専務理事は手弁当・無報酬で再建に奔走。大半の取引先から支援を得て、また相互扶助精神の発揮により組合員数は減少することなく経営を維持した。

本店移転と出張所開設、必死の努力で黒字転換

経営危機打開に向けた施策の一環が、利便性を高める店舗移転と拡充であった。1928(昭和3)年5月、長浜町西本町4番地(現・長浜市元浜町2番9号)に本店事務所を移転、翌年10月には同町大字三ツ矢245番地(現・長浜市三ツ矢元町7番10号)に三ツ矢出張所を開設した。この積極策が功を奏し預金量は増加に転じ、黒字経営へ転換していく。1929年には米国の株価暴落に端を発し世界恐慌が発生、日本でも昭和恐慌が起こるが、当組合の預金量が減少することはなかった。

1933年に欠損金の補てんを完了、剰余金を計上し配当を復活させた。復配までの7年間、組合長、専務理事は無報酬を貰った。

※1 日比久太郎

長浜信用組合創立以来の理事。長浜町会議員、長浜町初代町長、滋賀県最初の県会議員、長浜銀行専務取締役などを歴任。

※2 金融恐慌

関東大震災後に発行された震災手形が不良債権化。東京渡辺銀行の支払い停止を機に預金などを引き出す取

り付け騒ぎが広がり、全国の銀行が休業したほか、破たんした銀行も少なくなかった。

※3 近江銀行

明治中期に滋賀県の有力者が大阪を本店として設立。長浜銀行、大津銀行などを合併、関東へも営業基盤を広げ、大正期には関西有数の銀行に成長。金融恐慌による取り付け不安で破たんし買収された。



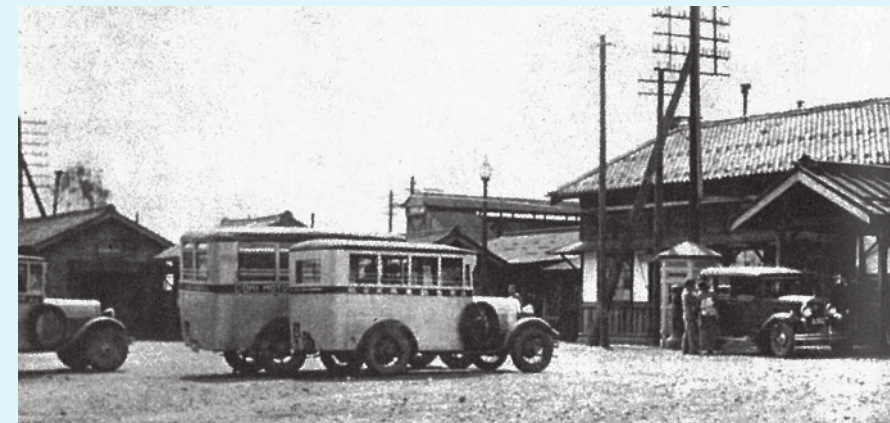
昭和初期の役職員



第2代組合長 日比久太郎



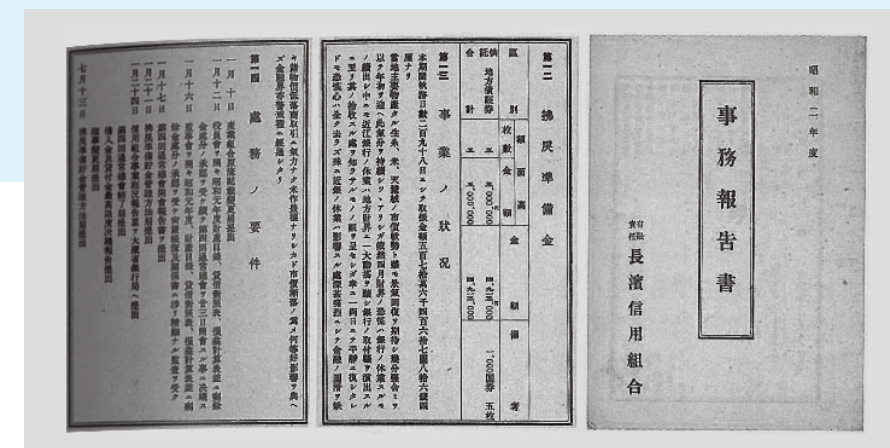
専務理事(後に第3代組合長)
西島庄五郎



昭和初期の長浜駅前



国内有数の銀行であった近江銀行の長浜支店(金融危機で経営破たん)



近江銀行休業による影響をまとめた報告書(1927年)

戦時経済下での事業基盤形成

日本が戦争の時代に突入し国家統制が強まった1930年代、西島庄五郎組合長が就任。金融恐慌以来の債務を返済し、困難な時代にあって事業基盤を固めていった。

第3代組合長に西島庄五郎就任

1936(昭和11)年3月、日比組合長は経営再建を見届けて逝去し、第3代組合長に専務理事の西島庄五郎が就任した。以降40年以上にわたり経営トップを務めることになる(西島庄五郎の足跡は84頁に詳細)。

世界恐慌後、軍部が実権を握る挙国一致内閣が発足した日本では、1937年7月の盧溝橋事件を機に日中戦争へ突入。同年9月には臨時資金調整法が施行され、軍需産業などへ優先的に融資する枠組みがつくられた。また翌年には国家総動員法が公布されるなか、当組合も戦時経済体制に組み込まれていった。

軍事費調達のため貯蓄の増強が叫ばれたこの時期、当組合においても預金量は増加し1936年末の157万円余が1940年末には320万円を超える規模となった。

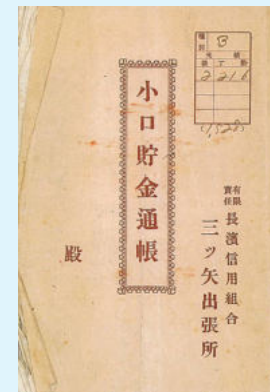
活発な営業活動で事業基盤を再構築

日本は1941(昭和16)年12月に太平洋戦争に突入すると、ますます戦時体制を強めていった。金融機関は軍需融資と国民貯蓄の奨励が最大の任務とされ、国策に従い活発な活動を展開した。当組合においても、全国市街地信用組合における貯蓄強調活動の一環として、貯蓄運動を実施した。また1942年には金融団体統制令が施行され、業態別・地区別など4本立ての統制団体が組織されるなど金融統制は一層強まった。

このような時代のなか、当組合の預金量は1942年に400万円を突破した。当期利益も1万7,000円となり、1927年の金融恐慌による近江銀行破たん以降の借入金を全額返済し、再建を果たした。



経営再建を果たした後の本店にて(1940年)



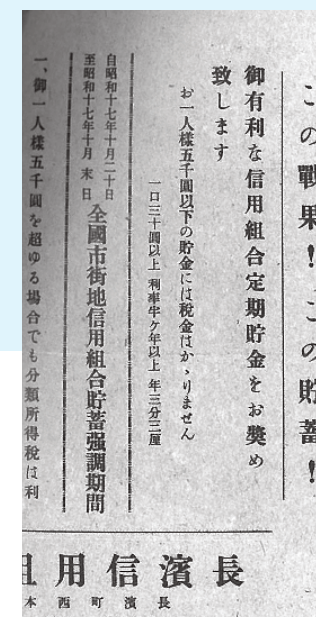
戦前の小口貯金通帳



昭和初期ごろと推測される長浜市街(豊公園内勸業館の屋根から望む)



長浜曳山祭長刀組の太刀渡り行列(長浜八幡宮・昭和初期)



戦時下での貯蓄運動ポスター(1942年)



豊国神社の「えびす講」(十日戎)の大売り出しでにぎわう通り(昭和初期)

長浜市誕生、地域経済に即した金融機関に改組

当組合が創立20周年を迎えた1943(昭和18)年、新法のもとで法人改組、激化する戦争の時代をあゆんだ。この年、1町6カ村が合併し長浜市が誕生した。

市街地金融機関として総代制を採用

1943(昭和18)年4月、市街地信用組合法^{※1}が施行され、当組合も同年8月、同法に基づく信用組合に改組、有限責任を外し「長浜信用組合」に名称を変更した。農村中心の産業組合体系から分離され、中小商工業者や庶民の金融機関として法整備されたのである。この時、総会制に代わり総代制の採用が決議され、45人の総代を選出した。

長浜市の誕生と創立20周年

長浜町は周辺6力村と深い結びつきがあり、域内産業の交流拡大とともに町村合併の機運が高まった。政治経済の激動期にあつて実現は困難を極めたが、1943(昭和18)年4月、全国203番目となる市制が施行され、長浜市^{※2}が誕生した。

当組合は、この年に創立20周年を迎えた。これを記念し、国民学校児童への教科書提供や寄付行為を行った。戦争激化に伴い学徒に勤労働員が促され、地方銀行では合併が盛んな時期であつた。

国策への協力を求められた戦時下の経営

1944(昭和19)年11月、東京が初めて米軍による空襲を受け、以降、全国の都市部で繰り返されることとなった。同年には戦時非常金融対策要綱が発表された。金融機関は軍需以外の融資は不要とされ、貯金獲得による公債や軍需・国策会社の社債買入れが求められた。召集や徴用により職員が不足し、当組合でも1944年に初めて女子職員を採用した。

終戦直前の1945年8月6日には、長浜市にも戦闘機が襲来、湖畔の鐘淵紡績(後に鐘紡)長浜工場に小型爆弾が投下された。その9日後の8月15日、長きに及んだ戦争が終結した。

※1 市街地信用組合法

信用組合は中小生産者の保護・救済を目的に制定された産業組合法に基づき創立された。同法は農村主体であつたことから市街地の信用組合は制約を受け、産業組合体系から分離する単独法の制定が要望されてきた。

※2 長浜市

1889(明治22)年の町村制施行で誕生した長浜町は、周辺の神照、六荘、南郷里、北郷里、西黒田、神田の6力村と深い結びつきがあつた。1943(昭和18)年4月の町村合併により発足した長浜市の人口は4万1,655人であつた。



長浜信用組合創立20周年記念式にて(1943年)



第1回長浜市議会(慶雲館にて・1943年)



長浜信用組合報国団旗



国民学校における戦時下の授業風景



軍事産業への資金投入を目的とした貯蓄国債の募集案内



戦時中、空襲に備え行われた消火訓練

戦後の混乱と危機を乗り越え再出発

長きに及んだ戦争が終わった日本では、政治経済の両面で極めて困難な時代を迎えた。金融機関は施策の転換によって存続の危機に立たされた。

混沌とする経済施策、金融機関の存続危機

戦後日本では、物不足から極端に物価が上昇した。通貨価値は下落、国民は預金を引き出し食糧や生活必需品などに換えた。インフレ抑制のため1946(昭和21)年2月、政府は預金封鎖と新円切替という非常措置を講じ、当組合も事態に対応した。

この措置を終えた7月、軍需補償の全面打ち切りが発表されると、戦時国債や国策会社の社債を数多く保有した金融機関は存続の危機に立たされた。当組合も預金量の64%を社債等の消化にあてていたことから、評価損は多額に上った。

経営危機を回避するため、当組合は1947年8月11日をもって出資金を旧勘定とし、以降の組合員の加入は新勘定とすることとした。そして多大な損失を補うため、預金(大口法人および一口3,000円以上の個人)の払戻しを停止、出資金全額を補てんにあてた。それでも損失の全額には至らず、不足分は新勘定から借り受け、追って受ける政府補償で弁済することとした。この一連の処理により1948年3月末をもって巨額の損失処理を完了、4月から新旧両勘定を合併し再出発を図った。

新たな出資を募り再出発

1948(昭和23)年4月の再出発時、当組合の出資金は実質的に皆無であり、新たな出資が必要であった。そのため総代の協力を得ながら従前より30円多い一口50円の出資加入運動を展開、1949年度末までに旧組合員の半数にあたる690人の加入を得て再出発した。

一方、1949年に施行された中小企業等協同組合法^{※1}にともない、当組合は1950年3月に定款を変更^{※2}、大蔵大臣の免許を受けて4月1日から同法に基づく信用組合に改組した。

※1 中小企業等協同組合法

一般経済事業を主体とする商工協同組合と、金融機関である市街地信用組合、準市街地信用組合を大蔵省監督のもと一本化する法律。

※2 定款変更

新定款で総代選挙規程を定め、長浜市を全5区に分割、各区の組合員数に応じて選出する体制とした。また経営陣の充実を図るため、河路精一を非常勤の専務理事に、北村常三を常務理事に選任した。



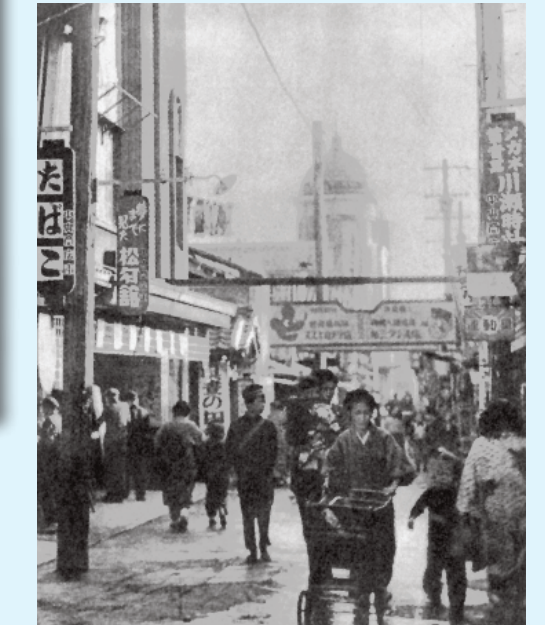
特別当座貯金通帳(左)
普通貯金通帳(右)



第1回長信割増定期貯金抽選会



戦後に行われた長浜曳山祭夕渡りの行事(長浜信用金庫店舗前にて)



1940年代の長浜駅前通り



当庫名義で発行した産業組合中央金庫(現・農林中央金庫)の通帳。中面には通帳繰越を行った昭和18年3月14日との記載がある。政府は当時、産業組合中央金庫を通じて各地の信用金庫へ融資などを行い、経済恐慌から農村部を守る施策を取っていた。

第2章 戦後の再出発、湖北の代表的金融機関へ

1951～1972年(昭和26～47年)



ながたんグリーン
(伊吹山)
日本百名山「伊吹山」
の緑を愛し湖北の自
然を守る次男

長浜信用金庫に組織変更、営業地区拡大へ

1951(昭和26)年、日本は独立を回復し国際社会に復帰した。
この年、待ち望まれていた信用金庫法が制定され、
「長浜信用金庫」としての新たなあゆみが始まった。

待ち望まれた「信用金庫」の誕生

戦後の困難な時代をあゆんだ日本は、1950(昭和25)年に勃発した朝鮮戦争による特需景気を機に復興が加速、資金需要は活発になった。しかし市街地信用組合には制約も多く、中小企業者や商工業者を中心に、国民の期待に応える協同組織による金融機関の設立を求める声が高まった。そして1951年6月、信用金庫法が公布・施行され、市街地信用組合に代わる金融機関として“信用金庫”が誕生した。

組織変更[※]が可能となった同年10月20日、当組合も「長浜信用金庫」として新たなスタートを切った。法改正にともない、組合長は理事長に、組合員は会員に呼称が変更された。

改組時(1952年3月期)の組織は、西島庄五郎理事長のもと役職員21人、会員数1,149人、預金量は1億円強であった。

木之本支店開設、湖北1市3郡へ営業地区を拡大

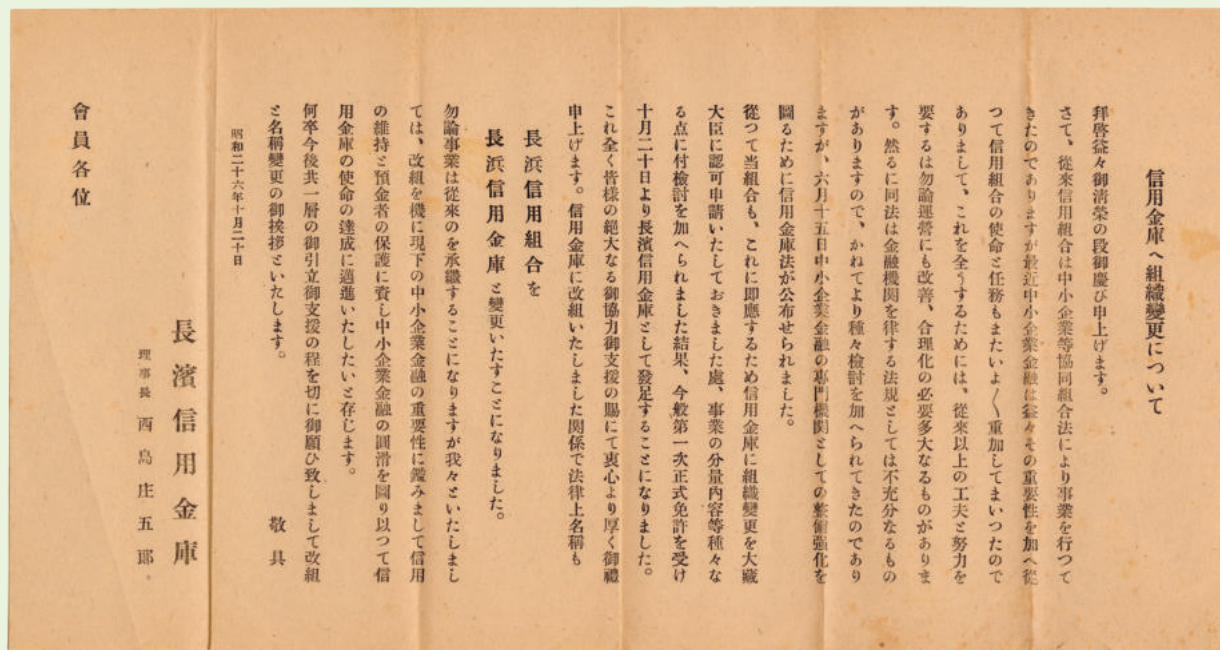
信用金庫は、認可を受けた営業地区に住所や事業所を有する会員を対象として預金や融資業務が営まれた。このため当金庫には、対象外であった地区から拡大を望む声が数多く寄せられた。

1952(昭和27)年6月における営業地区は、当時の長浜市、坂田郡(米原町、坂田村など)、伊香郡(木之本町、余呉村など)および東浅井郡であり、坂田・伊香の両郡に関しては全域を網羅したものではなかった。このため、1953年6月に杉野村などを加えた伊香郡全域、1954年7月には伊吹村や醒井村を加えた坂田郡全域へと拡大し、湖北1市3郡を営業地区とした。

また1952年8月、地元の要望を受け、2番目の支店として伊香郡内に木之本支店(伊香郡木之本町大字木之本966番地)を開設した。

※組織変更

信用金庫法成立時の信用組合数は653。信用金庫への組織変更が可能となった1951(昭和26)年10月20日に改組したのは226金庫であった。



信用金庫への組織変更をお知らせする案内状(1951年)



木之本支店(1952年)にて。信用金庫への改組翌年、伊香郡木之本町に開設。地元の要望を受け、初めて長浜市外に開設した支店であった



戦後復興は朝鮮戦争による特需景気で加速した。鐘紡長浜工場でも生産に追われた(1950年ごろ)

「信用金庫」の名称の由来

信用組合に代わる新たな組織名称としては、「信用銀行」や「庶民銀行」などさまざまな案が検討されたが、「銀行」の名称は用いないこととなった。一方、当時の政府系金融機関には「庶民金庫」「復興金融金庫」などがあり、非営利の金融機関の名称として金庫が認知されていた。こうした背景から、「信用金庫」の名称にいたった。



滋賀県信用金庫大会にて(近江神宮・1954年)



会員を募り善光寺へ参拝(1954年)

本店移転、経営基盤の強化へ向かう

1950年代後半から日本経済は本格的な成長過程へ入った。湖北地域でも繊維産業が興隆するなか、長浜信用金庫は本店を移転・拡充し経営基盤の強化に取り組み始めた。

3番目の支店として七条支店開設

当金庫は1953(昭和28)年に創立30周年を迎えた。その後程なく神武景気が始まり、高度経済成長時代が幕を開ける。経済白書に「もはや戦後ではない」と記されたのもこの時期であった。

当金庫の営業地区でも繊維産業が活況を呈し、長浜市東部の七条町では紡績大手の近江絹絲紡績が操業し周辺地域はにぎわった。1955年8月、当金庫は3番目の支店として七条支店(長浜市七条町690番地)を開設、隣接する坂田郡山東町方面からの利便性向上にも寄与した。

経営基盤の近代化と強化のため、本店を移転

当金庫は、経済成長のもとで営業地区を広げ業容を拡大していった。1955(昭和30)年には預金量が3億円を突破、信用金庫への改組からわずか3年余りで3倍以上に伸長したことになる。

成長に応じた庫内体制を整備するため、職員の採用を進める一方、手狭となった本店移転を検討した。ちょうどこの時期、日本勧業銀行長浜支店が統合により廃止されることになった。同行と取引関係にあった当金庫はこの建物を購入、一部を改装して本店とし、1956年12月、長浜市東本町9番地(現・元浜町3番3号)に移転した。改造した民家を本店としてから約30年、当金庫はようやく金融業務にふさわしい環境を整えることができた。

翌1957年、全国信用金庫協会※では、「経営基盤の確立、近代経営体制の確立、中小企業金融機関としての機能発揮」という3点を軸とした3ヵ年計画を策定した。当金庫も計画に沿って出資金増加や預金獲得に取り組んだ。その結果、1959年3月末の出資金は3,700万円と前年同期の2倍相当となり、預金量は8億円近くに達した。

※全国信用金庫協会

信用金庫を会員とする全国組織。信用金庫業界の長期経営計画を策定するなどの活動に取り組む。詳細は右頁「全国組織・中央金融機関の形成」参照。



移転した本店(1956年)。事業規模の拡大に伴い現在地に移転。日本勧業銀行長浜支店の建物を改装したもので、大正後期に建設されドーム型の尖塔がユニークな建物であった



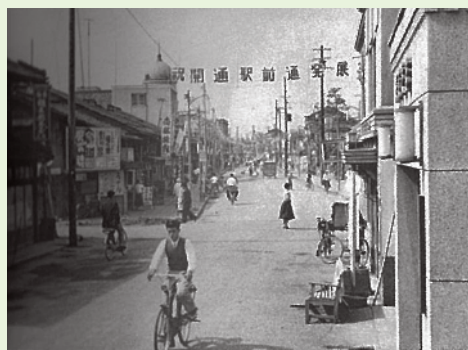
移転した本店での営業風景(1956年ごろ)



新設した七条市店(1955年)。繊維産業が活況を呈するなか、紡績大手が操業した長浜市七条町に開設。坂田郡山東町方面の会員の利便性も向上した



1950年代中ごろの長浜駅前



第1次拡張が完成した長浜駅前通り(1950年代中ごろ)

全国組織・中央金融機関の形成

信用金庫の全国組織として、一般社団法人全国信用金庫協会(略称:全信協)がある。1945(昭和20)年の創立以降、信用金庫の健全な発展と社会的使命を果たすことを目的に、金融政策・行政に対する意見具申、信用金庫業界の長期経営計画の策定、経営・金融資料の収集・提供などに取

り組んだ。

信用金庫の中央金融機関としては、信金中央金庫(略称:信金中金)がある。1950年に創立し、2000(平成12)年に現名称に変更された。金融商品・サービスの提供とともに、全国の信用金庫から預け入れられた資金を運用する。加えて業界独自のセーフティネットを運営するなど、信用金庫の秩序維持を図る機関でもある。

支店網を拡大、湖北を代表する地域金融機関へ

日本の戦後復興を世界に示した東京オリンピック。開催前年の1963（昭和38）年に創立40周年を迎えた長浜信用金庫は、金融機関の利用が飛躍的に増すなかで、地域での存在感を高めた。

米原へ支店網を拡大し、木之本支店を新築移転

坂田郡の中核都市である米原町に米原支店（坂田郡米原町米原544番地）を開設したのは1959（昭和34）年3月であった。ほどなく手狭になり、1962年6月に米原町549番地に移転した。米原支店は広い営業地区をカバーしたため、これを補完する拠点として、1964年3月、醒井出張所（坂田郡米原町醒井）を開設した。なお米原支店開設の前年、1958年9月には木之本支店を伊香郡木之本町大字木之本924番地に新築移転している。

この時期の日本は岩戸景気に沸き、とりわけ家電や自動車などの分野が目覚ましく発展、各企業では設備投資が盛んに行われた。家庭では1959年の皇太子さま（現・上皇陛下）ご成婚を機に白黒テレビが飛躍的に普及し、電気冷蔵庫、洗濯機と共に「三種の神器」として庶民の憧れの家電となった。

各金融機関では個人を対象としたさまざまな金融商品が出現、クレジットやローンも開発された。また公共料金の口座振替や給与の口座振込が普及し、金融機関の利用機会は大幅に増大した。

創立40周年に預金量30億円を突破

当金庫は1963（昭和38）年10月、創立40周年を迎え、長浜商工会議所で記念式典を挙行了。また、「創立40周年記念定期積金」キャンペーンを展開し、積金をしながら旅行を楽しめる観光預金として支持を集めた。預金量は1963年12月に30億円を突破。地域金融機関として、幅広く浸透、認知された結果であった。

翌1964年にはアジア初となる東京オリンピックが開催され、東海道新幹線が開業した。信用金庫業界では、オリンピック協賛割増金付定期預金を開発。割増金とオリンピック入場券引換券が当たるイベント性から、大いに評判を呼んだ。



創立40周年記念式典で挨拶する西島庄五郎理事長（1963年）



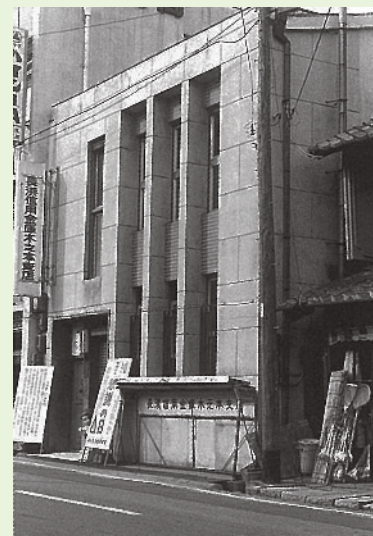
創立40周年記念式典にて（1963年）



本店屋上にて職員の記念撮影（1960年ごろ）



アジア初の東京オリンピックで全国を走った聖火リレー（長浜市にて：1964年）



新築移転した木之本支店（1958年）



全国の信用金庫のマスコットとして登場した「信ちゃん」（1959年）

新しい金融商品の提供

信用金庫業界では、定期預金と定期積金*を組み合わせたオートメーション預金（1959年）、日本信販株式会社と業務提携したチェーン・クレジット（1961年）、マイカーローン（1963年）などの金融商品を開発した。業界初の統一商品としては、信用金庫のマスコット名を用いた「信ちゃん預金」（進学ローンの預金）があり、1963（昭和38）年から提供した。

※定期積金

信用金庫や信用組合等が取扱う金融商品。毎月一定額を積み立て、満期日に決まった給付金を受け取れる。一方、定期預金は一定のまとまった額を預け入れる預金。

地域社会への継続的貢献に向けて

急激な経済成長を遂げた日本は、世界第2位の経済大国となった。中小企業や庶民の金融機関として信用金庫への期待が高まるなか、長浜信用金庫は、その使命と役割を再確認し躍進を続けた。

預金100億円突破、躍進5ヵ年計画推進

1960年代の日本経済は諸外国に例をみない急速な成長を遂げた。国民総生産（GNP）は1968（昭和43）年に世界第2位となり、国民所得は向上した。金融環境も変化し、1968年6月に金融2法^{※1}が公布施行されると、信用金庫には中小企業金融機関としての役割が期待される一方、経営基盤の強化が求められることとなった。

全国信用金庫協会では、1968年10月、全国大会を開催するとともに、信用金庫ビジョンの確立などを掲げた躍進5ヵ年計画を策定した。

当金庫でもこの計画に沿い、全戸加入・取引の推進、営業地区・店舗の拡張といった積極経営策とともに、事務機械化促進などから成る長期事業計画を策定、業務部を新設計画を推進した。

当金庫の預金量は高度経済成長とともに伸長、1966年9月末に50億円に達したが、その3年後の1969年12月31日、県下信用金庫では初めて100億円の大台を突破した。

社会福祉への貢献、北村常三理事長の就任

当金庫は地域の社会福祉に継続的に貢献するため、1965（昭和40）年12月、滋賀湖北福祉奉仕会（現・ながしん福祉奉仕会）を設立、管内の福祉事業への寄付活動を開始した。

奉仕会の会則は、西島庄五郎理事長自らが起案したものであった。しかし2年後の1967年8月、西島は病に倒れ逝去した。80歳であった。後任の第4代理事長には専務理事の北村常三^{※2}が就任した。

この時期、手狭となった支店の移転拡充も行った。まず1968年11月、三ツ矢支店を現在地の三ツ矢元町8番26号に新築移転した。醒井出張所は貸付や為替の扱いを開始し、1969年3月に移転（坂田郡米原町醒井612番地7）、1972年9月に支店に昇格した。



創立45周年を迎えて。45周年を告知する本店と同時期の本店内部。手狭となり、吹き抜け部分に天井を設け事務室に改造するなどして営業を続けた



第4代理事長に就任した北村常三（右から2人目・1967年）



新築移転した三ツ矢支店本店（1968年）。現在地（三ツ矢元町8番26号）に移転、敷地面積は628㎡、鉄筋コンクリート造2階建てとした



醒井出張所を1969年に改築移転。1972年に支店に昇格した



高度経済成長と国民生活

年平均10%を超える急速な経済成長を遂げた1960年代の日本。それは技術革新と工業化、輸出主導の経済によってもたらされた。国民所得は向上しカラーテレビやクーラーが普及、マイカー時代が訪れ、スーパーマーケットが登場した。1970年には高度成長期を象徴する大阪万博が開催され、6,400万人を超える人々が押し寄せた。湖北地域においても浜ちりめんなどの繊維産業がピーク期を迎え、商店街も賑わいを見せた。

信用金庫ビジョン

金融機関における信用金庫の存在意義が問われるなか、1968（昭和43）年10月、全国信用金庫協会は全国大会を開催し「今後の信用金庫のあり方」として次のビジョンが採択された。「信用金庫は協同組織の長所を生かしつつ、地

域内の対象企業および国民大衆のすべての産業経済の発展に寄与する専門地域金融機関である」。このビジョンは「中小企業の健全な発展」「豊かな国民生活の実現」「地域社会繁栄への奉仕」として簡潔にまとめられ、すべての信用金庫における経営指針となった。

地域との結びつきを再確認する

1970年代に入り戦後の日本経済が転換点を迎えるなか、長浜信用金庫は営業地区の拡大と事務合理化を図りながら、会員や地域社会との結びつきを強めていった。

営業地区の拡大と事務電算化スタート

当金庫が長期事業計画に掲げた営業地区の拡張は、拡大する地域経済への対応でもあった。当金庫は、湖西線開通を控え発展が見込まれる高島郡を1970(昭和45)年10月に、経済圏として関係が深い彦根市と犬上郡を1971年7月に、それぞれ営業地区に加えた。

重要課題とした事務機械化について、当金庫では1960年代初頭から部分的な機械化^{*}を進めていたが、1969年に大型コンピュータシステムの導入を決定した。そして、1971年8月に業務部に事務管理課を新設、コンピュータ室を設け導入準備を進め、1972年2月に始動式を行った。支店には端末機を配置し、同年12月までにほとんどの業務で、オフラインシステム(各端末機のデータを集めて処理する方式)による勘定処理が可能になった。

地域協調しんきん運動を推進

1971(昭和46)年8月のドルショックにより、円は1ドル360円の固定相場から変動相場に移行した。輸出産業を基軸に成長した日本経済にとって大きな転換点であり、中小企業経営にも多大な影響が生じることから、全国信用金庫協会では1972年4月、地域密着を強化する「地域協調しんきん運動」を提唱した。

当金庫もこれに連動して営業地区内の全戸訪問を実施し、さまざまな相談に応じる取組みを進めた。また地区ごとの総代懇談会の開催、地域公共団体や商工団体との連携強化を推進した。女優の北林谷栄を起用した「お買い物は地元で」のポスターを作成し、商店街振興に寄与したのもこの時期であった。このほか、湖北地域のスクールゾーン700ヵ所に標識板「こどもに注意」を設置、地域に根ざした交通事故防止の取組みも行った。

※機械化

当金庫は1962(昭和37)年から単機能会計機やテラーズマシン(紙幣計算機)、フルーフマシン(小切手分類照合機)を導入、こうした部分的な機械化のほか記帳・集計・検印事務の合理化を進めていた。



毎月17日を感謝の日と定めプレゼントを実施(1970年ごろ)



1970年代に前後して業務のコンピュータ化を推進。本店移転の前に三ツ矢支店にコンピュータ室を設置



コンピュータ始動(1972年)。ほとんどの業務でオフラインシステムによる勘定科目処理が可能となった



営業に出動する渉外担当者(1970年ごろ)



1970年ごろの本店周辺。建物のドームはよく目立ち、近隣の目印となった 拡張工事が行われる前の長浜駅前(1970年ごろ)



高度経済成長と日本社会の変化

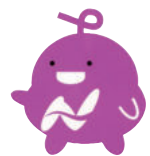
高度経済成長は日本の社会を大きく変えた。戦後間もない1950(昭和25)年の日本では、働く人の半数が1次産業(農業・林業・漁業)に就き、総人口の半数以上が農村で暮らした。20年を経た1970年には1次産業就業者は2割を切り、雇用手(会社勤め)が6割以上となった。

これは工業化で働き手を求めた都市部の製造業などへ、農村から多数の新規学卒者が移動した結果であった。農村では伝統的に3世代が同居していたが、都市部へ移った若者は単身世帯となり、核家族世帯を構え、世帯数は大幅に増加した。これにともない住まいの形や生活スタイルのみならず家父長的価値観なども大きく変わった。

高度経済成長とは、日本の歴史上かつてなかった農村から都市への人口移動と農村部の過疎化を進めたものでもあった。

第3章 地域経済の転換、さらに身近な〈ながしん〉へ

1973～1992年(昭和48～平成4年)



ながたんパープル
(歴史)
連綿と繋がる湖北の
「歴史」から学び明
日を考える三男

創立50周年を新本店で迎える

大正時代末期に創立した長浜信用金庫は、戦中戦後の混乱を乗り越え、
確かな事業基盤と信頼を築いてきた。
迎えた50周年、初めて自前で建設した本店ビルを竣工させた。

本店を近代的ビルに新築

当金庫は1973(昭和48)年に創立50周年という大きな節目を迎えるにあたり、本店の新築を構想した。大正末期に建設された銀行支店を引き継いだ建物は老朽化していた上に、業務量の大幅増大から営業室や事務室が手狭となり、新本店の建設は急務であった。このため1972年に具体的構想をまとめ、倉庫にしていた旧本店を仮店舗とし、同年8月に起工式を挙行了した。

新本店は5階建て(一部地下1階)とし、実用性を重んじた設計とした。1階を営業室、2階以上を事務室や会議室、電算機室などとし、集会室や食堂なども備えた。

決意新たに迎えた創立50周年

新本店の定礎式は1973(昭和48)年10月25日に開催され、併せて竣工記念式典を挙行了した。式には長浜市長はじめ近畿財務局、滋賀県などから来賓を招き、総代など総勢220人の出席を得たほか、後日、役職員家族や退職者を招待した懇親会も実施した。また記念事業の一環として、湖北地域の13市町へ社会福祉事業資金(計500万円)を寄贈した。

新本店は11月5日に営業を開始し、3日間にわたり「本店新築ご愛顧感謝デー」を実施した。延べ7,500人におよぶ会員や取引先が来店され、この時の預金額は10億円を超えた。ロビーは来店客であふれ、職員は連日、応対に追われた。北村常三理事長以下役職員一同は、当金庫への期待の高さを実感し、使命の重みを改めて自覚することとなった。

創立50周年時(1974年3月期)の組織は、会員5,279人、役職員220人で、預金量は251億円であった。40周年時と比べると会員数・役職員数とも約2倍、預金量は8倍強に達した。



新本店の完成イメージ



竣工した新本店全景(1973年)



創立50周年および新本店竣工記念式典(1973年)



創立50周年記念披露パーティ(1973年)

大規模商業ビルのオープン

長浜駅前や長浜市の中心商店街に大型商業施設がオープンしたのは、1970(昭和45)年前後であった。長浜駅前には「長浜ショッピングスクエア」(1969年)が開店した。総合スーパーの平和堂が開設したもので3号店にあたった。中心商店街では「パワース」(1970年)がオープン。地元の60商店が出資して設立された共同店舗であった。



庫内報「雄飛」創刊(1972年)。創立50周年に向けて創刊。1年間で7号を発刊したが、記念事業を終えていったん休刊。1977年に復刊し、以降、継続的に発行して庫内情報の発信と共有に努めている

変化する経済と地域、質的充実の時代へ

1970年代を迎えた日本経済は安定成長へと転換していった。
長浜信用金庫は、地域社会との結びつきを強めながら、
さらに信頼される金融機関づくりを進めた。

高度経済成長の終わりと新産業育成への貢献

1973(昭和48)年10月、第1次オイル・ショックが起こった。当金庫が創立50周年事業を進めていた、まさに最中の出来事である。経済は大きく混乱し、翌年度の日本経済は戦後初のマイナス成長となり、高度経済成長は終わりを迎えた。

湖北地域に関係の深い繊維産業も、製造コストの増大と消費の減少に加え、輸入自由化により大量の繊維製品が流入し始めたことから大きな打撃を受けた。当金庫はオイル・ショックで苦しむ企業への支援と並行し、行政と連携した金融支援に積極的に取り組み、地域の金融機関としての役割を担った。

なお当金庫は1973年12月、県内信用金庫としては初めて日本銀行と当座取引を開始、翌年には歳入代理店の指定も受けた。

量的拡大から質的充実の追求へ

オイル・ショック後の日本の産業構造は、鉄鋼などエネルギー多消費型から、自動車やエレクトロニクス産業などへシフトしていった。一方、発展途上国の成長を受け、繊維など労働集約的な産業の優位性が低下した。経済構造が転換し雇用情勢が悪化するなかで、全国信用金庫協会では1976(昭和51)年度に安定成長3ヵ年計画を策定、「地域金融機関に徹する」とした。

当金庫もこの計画に基づき、「地縁・人縁の輪を広げよう」をテーマに掲げ、特別預金増強運動を展開するなど地域に密着した営業活動で、身近なニーズにマッチするサービスの提供に努めた。併せて、地域ネットワークの強化やコスト削減などを推進した。こうした取り組みにより地域の皆様からの信頼を集め、当金庫の預金量は400億円(1978年3月期)を超えた。

高砂積金 創立50周年

明るい未来の資金づくりに…

“日本の伝統”をシリーズでプレゼント

「高砂積金」ではみなさまへの華社と商賈の心をこめて日本伝統美術を表現した「飛騨高山一刀彫・漆・髷の彫人形」をみなさまにプレゼントする「高砂積金」を始めました。(恒し契約額20万以上)
どうぞお地さまもこの機会にご契約いただきますようお願いいたします。
ご契約の方法は下頁のとおりです。

あなたのコースは？	1年契約	2年契約	3年契約	3年満ちて以降	4年契約	5年契約	5年満ちて以降
1,000円アップ	2,000	3,000	4,000		5,000	6,000	259,600円
	5,000	6,000	7,000	228,360円			
2,000円アップ	5,000	7,000	9,000	265,620円			
3,000円アップ	3,000	6,000	9,000	226,440円			

※表の外(ご契約20万以上)いかほどでもお取願いたします。

“しあわせをあなたと共に考えます。”

長浜信用金庫

高砂積金(1973年)。第1次預金増強運動として、「高砂積金」の取扱いを開始。飛騨高山の特産品(一刀彫の高砂人形)をシリーズでプレゼントする定期積金で、縁起物の人形とともに人気を集めた



営業を開始した新本店1階(1973年)



滋賀県で全国植樹祭が行われた際、天皇皇后両陛下が長浜をご訪問(写真上)。街は奉迎ムードであふれた(写真下、ともに1975年)

オイル・ショックと買いだめ騒ぎ

第4次中東戦争を機にOPEC(石油輸出機構)が石油の供給を制限、輸出価格を大幅に引き上げたことから第1次オイル・ショックが起こった。原油価格は3ヵ月で約4倍にも高騰した。世界経済は大きく混乱した。とりわけエネルギー

の大部分を輸入原油に頼った日本への影響は大きく、ガソリンなど石油関連製品の値上げにより物価は上昇、急激なインフレとなった。また、一部企業が原材料の買い占めや商品の売り惜しみ、便乗値上げを行ったため、国民の間にパニックを引き起こし、トイレトペーパーや洗剤などの買いだめ騒ぎも発生した。

店舗拡大とオンライン化、より身近な〈ながしん〉へ

長らく保護・規制のもとにあった金融業界は競争の時代に入った。1970年代後半から1980年代初頭にかけての長浜信用金庫は、2店舗を新設するとともに、オンライン化を進め利便性を高めた。

南支店・神照支店を開設、8店舗体制へ

1970年代に入り金融行政は、いわゆる護送船団方式[※]による保護・規制から競争を促す方向へ転じた。店舗についても、きめ細やかな整備が認められるようになった。

当金庫は1980年代初頭にかけて長浜市内に2支店を開設。8店舗体制にするとともに、3支店を新築移転した。

新設では、1978（昭和53）年12月に南支店（長浜市平方町892番地の3）、1981年9月に神照支店（長浜市神照町696番地の3）を開設した。いずれも店舗や宅地の開発が進む地域であった。

既存支店では、1978年5月に木之本支店（伊香郡木之本町大字木之本1557番地）、1979年12月に醒井支店（坂田郡米原町醒井560番地）、1980年10月に七条支店（長浜市七条町447番地）を新築移転した。

オンライン化の開始、CD／ATMの設置開始

信用金庫業界では1970年代から各地区に信金共同事務センターを設立し、オンラインシステムの導入を進めた。システム開発に必要な膨大な投資と人材を共同化したものであった。

当金庫では1977（昭和52）年10月、同センターに加盟して普通・納税預金のオンライン処理を開始し、対象分野を拡大していった。

この時期、金融機関では現金自動支払機（CD）の設置が進んだ。当金庫では1979年11月の本店設置を皮切りに、各支店および長浜市民病院など店外にも設置を開始した。入金や振込なども可能な現金自動預払機（ATM）は、1981年10月、長浜市役所への設置が最初となり、商業施設などでの設置を進めた。



新規開店した南支店営業フロア（1978年）

※護送船団方式

金融機関の保護政策のこと。戦前は金融恐慌により金融機関の破たん・淘汰が相次ぎ混乱を招いた。そのため戦後の金融行政は安定化を第一として、過度の競争を避けるため他産業と比べ多くの行政指導や監督がなされた。この一例が金融分野の調整、店舗や新商品の規制、一律の貸出・預金利率などであった。



新設した南支店（1978年）。国道8号線（後に県道に変更）沿いに開設。周辺地域には多くの事業所や住宅があった



新築移転した木之本支店とロビー（1978年）



新築移転した醒井支店（1979年）



新築移転した七条支店（1980年）



新設した神照支店（1981年）。国道8号線バイパス（後に国道8号に指定）沿いに開設。農村地帯であったが、道路整備とともに宅地・商業開発が進み、市内でも際立った活況を呈した



北村常三理事長叙勲（1977年）。秋の叙勲において中小企業金融功労者として勲五等瑞宝章を受章。全国および近畿地区信用金庫協会理事、滋賀県信用金庫協会会長ならびに長浜商工会議所副会頭などとして、業界・地域の振興に尽力したことが受章理由であった。当金庫では叙勲祝賀会を催し、これを祝した

オンラインシステムの発展

金融機関業務に密接に関わるオンラインシステムは、第1次から第3次の3段階にかけて構築された。

第1次では普通預金や融資など単科目のオンライン化を中心とした勘定系（基幹）システムを構築。本店と支店をオンラインで結び、ATM等で

の預入れ・引出し、振込みなどが可能になった。第2次では複数科目を同時に処理する総合オンラインシステムとして構築。CD/ATMが相互利用できる金融機関相互ネットワークの構築もこの時期から始まった。

第3次では金融商品の開発や情報技術の革新に対応し、システムを抜本的に見直しつつ、柔軟性や拡張性を備えた新たなシステムとして構築

された。これにより当金庫では1985（昭和60）年に勘定系全科目のオンライン一元化を果たし、1988年に第3次オンラインシステムを稼働させた。

地域に浸透、預金量1千億円達成

1980年代に入り金融機関は互いに切磋琢磨する時代を迎えた。長浜信用金庫は提供する商品・サービスを拡大しながら、地域金融機関として、さらなる成長を遂げていった。



湖北地域では、1972年、暫定2車線で国道8号バイパス（1987年に国道8号線）が開通。4車線化が進むにつれ、ロードサイド店や大規模商業施設が開設された。特に1988年にオープンした長浜市は、ドライビングシアターや洋蘭園などを備えたショッピングセンターであり、地元商店による協同組合と西友との共同開発であったことも高い関心を集めた（写真は1980年に開通した北陸自動車道長浜インターチェンジ）

商品と業務を多様化、高月・宮司支店を開設

1979（昭和54）年、第2次オイル・ショックが起こった。第1次に比べ影響は軽微であったが、この時期から金融システムは本格的な自由化・国際化・証券化^{※1}へと進んでいった。金融行政も自由化・弾力化が図られ、信用金庫でも提供可能な商品が広がった。

当金庫では1981年に期日指定定期預金を発売したほか、業界独自の「しんきんVISAカード」の取扱いを開始した。翌年以降、金地金の売買業務、外貨両替業務、国債の窓口販売なども開始した。

店舗面では1984年4月、高月・湖北町を営業エリアとする高月支店（伊香郡高月町大字高月598番地）を開設。同年10月には宮司支店（長浜市宮司町913番地の1）を開設し10店舗体制とした。

全国信用金庫協会は、1982年度から独自性発揮3ヵ年計画を推進した。当金庫も地域密着を重視した長期計画に基づき事業推進委員会を設置。経営効率、地域密着など4委員会を設置して取り組んだ。

森忠雄理事長就任、千成運動で預金量1,000億円達成

1985（昭和60）年4月、北村常三理事長が相談役となり、森忠雄専務理事が第5代理事長に就任した。この年、ドル高を是正するブラザ合意^{※2}により円高が急速に進むなか、大口定期性預金から金利の自由化が始まった。全国信用金庫協会では1985年度から2期6年に及ぶ金融自由化対応3ヵ年計画を実施、業界の意識醸成と環境変化への対応を促した。

当金庫でも同計画に呼応した事業計画の細目を策定。金庫存続のボーダーラインとされた預金量1,000億円の達成に向けた「千成運動」を1986年から展開、役職員一丸となった取組みによって1987年3月31日にこれを達成した。なお1986年11月、老朽化した米原支店を新築移転（坂田郡米原町下多良一丁目100番地）した。

※1 証券化

大手企業などの資金調達、銀行借入れから、有価証券発行による市場からの調達へシフトすること。銀行離れが進み、都市・地方銀行は中小企業金融や個人向け住宅金融を積極化させ、競争が激化した。

※2 ブラザ合意

1985（昭和60）年9月、ドル高は正を目的とした先進5カ国の合意事項。合意前は1ドル240円前後であったが、翌年に170円を切り、1987年には120円近くまで円高が進んだ。



創立60周年（1983年）。この年の10月、本店5階大ホールで記念式典を挙行政した。これに先立ち1月には創立60周年躍進総決起大会を開催した。金融機関ではこの年の8月から第2土曜日が一斉に休みとなった。完全週休2日制となるのは1989年2月からであった



森忠雄理事長就任披露（1985年）



1,000億円必達総決起大会（1986年）

長浜城の再興

豊臣秀吉が築いた長浜城は江戸時代前期に廃城となり、跡地には石垣と井戸だけが残された。明治末期、当金庫の創設者でもある長浜町の吉田作平町長の提案によって一帯が買収され、大正期に「豊公園」として整備されていった。昭和後期、長浜市制40周年記念事業として資

料館建設構想が浮上。これに付随して長浜城再興の機運が盛り上がり、市民から多くの寄付金が寄せられた。築城時の姿を知る手がかりはなかったことから、安土桃山時代の城郭を想定し、1983（昭和58）年、昭和の長浜城として再興され、内部は長浜城歴史博物館となった。当金庫もこの時、1,000万円を寄贈した。再興を記念して開催された「長浜出世まつり」に



新設した高月支店（1984年）。高月町内で初の支店として開設。製造業が多く集積する高月町と湖北町を営業地区とした



新設した宮司支店（1984年）。長浜市街地東部で形成された商業集積地の近くに開設。営業エリアには県の総合庁舎などがあり、住宅開発も進んでいた



新築移転した米原支店（1986年）



は10日間で延べ52万人が集まり、市民の誇りと自信を高めた。

バブル景気に浮かれず堅実経営を貫く

1980年代後半、株や土地が高騰しバブル景気が起こった。
長浜信用金庫は地域金融の担い手として堅実経営を貫き、
本格的に始まった金融自由化時代に対応していった。

金利自由化時代の到来

内需拡大を目的とした超低金利政策から派生した過剰資金は、土地や株への投機に向かった。1980年代後半に株価や地価は高騰※、これに支えられる形で他産業へ波及し景気は拡大した。しかしこの好景気は、実体経済からかけ離れたバブル(泡)景気でもあった。

昭和から平成へ改元された1989(平成元)年6月、信用金庫業界にも大きく関係する小口MMC(市場金利連動型定期預金。最低預入金額300万円)が創設され、自由金利預金の取扱いが本格化した。また顧客から資産・資金運用に対する情報提供が求められるため、当金庫でも相談に適切に対応できる情報・知識のレベルアップに努めた。金融機関にとっては、自らの責任によるリスク管理が求められる時代の到来でもあった。

びわ支店・やわた中山支店を開設、12店舗体制へ

バブル景気によって活況を呈す国内経済であったが、一方で円高を受け製造業を中心に海外進出が始まった。国内工場の空洞化は雇用の悪化をはじめとして地方経済に大きな影響を与えていく。

経済環境が変化するなかで全国信用金庫協会は、1990(平成2)年、「しんきんHOP21～変革と創造の3ヵ年計画」を示した。

当金庫も1991年度から3ヵ年計画「ながしんHOP21」を推進した。計画の大きな目標は、地方都市の金融機関が生存できる最低ラインの目安となった預金量2,000億円の達成であった。

この時期、当金庫は2支店を新設した。1991年3月にびわ支店(東浅井郡びわ町大字曾根1284番地の1)、翌1992年3月にやわた中山支店(長浜市八幡中山町146番地)を開設し、湖北一帯で12店舗体制とした。



「スーパーウイングクラブ」の発足(1990年)。預金者へのサービス充実のため会員制の「スーパーウイングクラブ」を発足させた。総合口座や預金等の複合取引を条件に、コンサートの優待、地元取引先を中心とした加盟店での割引、情報誌の発刊などのサービスが受けられる組織であり、各方面から注目された。コンサートには森高千里やシャ乱Qなどを招き、当金庫のイメージを大きく変えた(写真左は発足案内、右はメンバーズプレス創刊号)

※株価や地価は高騰

日経平均株価をみると、1983(昭和58)年の平均8,800円が1989(平成元)年12月末に3万8,918円と4倍以上に上昇。地価も首都圏住宅地の公示地価が1986年からの2年間で2倍以上、東京都区部では3倍近く上昇し、大阪圏・名古屋圏に波及した。



西島庄五郎元理事長の胸像建立(1989年)。当金庫創立65周年記念事業の一環として役職員から浄財を募り、西島庄五郎元理事長の胸像を制作し除幕式を行った。作者は長浜市出身の著名な造形作家・土田隆生氏(京都女子大学教授)。長浜市民会館や駅前通りなどにも氏の作品が展示されていた(写真右は作者へ感謝状を渡す北村相談役)



新設したびわ支店(1991年)。東浅井郡初の店舗として国道8号線沿いに開設。この時期、びわ町では大規模な工業団地の造成が進んでいた(写真右は開店当日の様子)



新設したやわた中山支店(1992年)。狭いエリアで高密度取引を推進するとの新たな位置付けで開設。ロードサイド型ビジネスが集積する地域であった(写真左はロビー)



ハンディ・ターミナルの運用

1990年代はIT(情報技術)が急速に進展し、後半からはパソコンやインターネット、携帯電話が企業や家庭に普及し始めた。当金庫では1992(平成4)年、渉外活動の効率化

とサービス向上を図るため、ハンディ・ターミナル(携帯端末)による渉外支援システムを稼働させた。集金カードや訪問票などで対処してきた業務を一新するものであり、各種取引データの正確な把握に加え、満期情報などの迅速な提供が可能になった。

第4章 地域に尽くすコミュニティバンクづくり

1993～2008年(平成5～20年)



ながたんレド
(活気)
多くの人が行き交う
「活気」ある湖北を
応援する熱血漢の四
男

創立70周年を迎える

バブル経済が崩壊し、日本の金融システムは不安定な時代を迎えた。
創立70周年を迎えた長浜信用金庫は、
金融業務にとどまらない地域貢献に取り組み始めた。



70周年の感謝をお伝えするチラシ

新たな地域貢献活動を展開

実体経済からかけ離れて高騰した地価・株価は、1990年代に入り暴落、バブル経済は崩壊^{※1}した。不良債権の処理問題が長引き、日本経済は長期低迷に陥る。個人消費は縮小し、中小企業は取引先からの値下げ要請、海外移転による国内産業の空洞化等の諸問題に直面した。

信用金庫ではバブル崩壊の直接的な影響は小さかったが、金融機関全体では銀行再編を促す契機となり、信用金庫でも合併等^{※2}が進んだ。

こうした時代にあって、当金庫は1993(平成5)年に創立70周年を迎えた。この年、地域経済の振興および貸し渋り問題^{※3}などに対応するため、預金量1,700億円、貸出金970億円を目指すとした計画を推進した。また70周年を記念したキャンペーンや各種行事を展開したが、寄付にとどまらない貢献活動に積極的に取り組み始めたことは特徴的であった。

記念事業の実施、浅井支店の開設

1993(平成5)年11月、当金庫は創立70周年記念式典を挙行了た。この席で森理事長は、「なお愛され、親しまれ、信頼される信用金庫となる懸命の努力と、血の通った取引を進めなければなりません」と挨拶した。

当金庫では70周年時から、地域の多様な催しへの支援や協賛を開始し、これを継続した。初開催されたびわ湖長浜ソーデーマーチへの協賛はその一例であり、職員40人が大会運営に携わった。また少年野球、珠算・暗算、ゲートボール、後にバレーボールの各大会を協賛事業として支援し、児童から主婦・高齢者層に広がる多彩な活動を応援した。

70周年を終えた1994年3月期の当金庫は、預金量1,639億円、貸出金958億円となり、計画をほぼ達成した。また1993年4月、13番目の店舗として浅井支店(東浅井郡浅井町大字内保732番地1)を開設した。

※1 バブル経済は崩壊

不動産融資の総量規制などを契機として、株価や地価の下落が続いた結果、企業の再編・法的整理が増加し、金融機関には多額の不良債権が発生した。

※2 信用金庫の合併等

信用金庫数は1990(平成2)年3月末の454金庫から、1997年3月末に410金庫となった。1992年の信用金庫法改正により、普通銀行への転換や異業態間合併が可能になったことも背景にある。

※3 貸し渋り問題

不良債権を抱えた金融機関では自らの経営安定を優先し、必要以上に融資を控え社会の批判を集めた。



創立70周年記念式典(1993年)



70周年を迎え記念特別講演会を開催。5月に経済学者の加藤寛氏、10月にジャーナリストの櫻井よしこ氏を講師に招いた(1993年)



当金庫70周年に際し、社会福祉事業資金として滋賀湖北福祉奉仕会を通じ、1市12町に2,000万円を超える額を寄贈された市立長浜病院のモニュメント制作費に充当。追加費用も寄贈し、1996年に完成した新病院の正面玄関に、作品(深田充夫氏作「無辺の愛」)が設置された。



新設した浅井支店。浅井町役場に隣接して開設、周囲の景観に配慮しライトグリーンの建物とした(1993年)



1993年から始まったびわ湖長浜ソーデーマーチに協賛するとともに運営にもボランティア参加(写真は2009年開催時)



黒壁スクエアの開業

平成の時代に入り、長浜の街づくりの象徴ともなった「黒壁スクエア」が開業した。中心市街地にあった明治後期竣工の建物(黒漆喰であったことから通称・黒壁銀行)を保存活用するため、第3セクターの株式会社黒壁が設立され、1989(平成元)

年7月、黒壁ガラス館などとしてオープンしたのである。当金庫も参画したこのプロジェクトは点から面へと広がり、開業から10年ほどで年間200万人もが訪れる観光地に生まれ変わった。(詳細は使命を語る「まちのあゆみ」(86ページ)に掲載。写真は2009年撮影)

世帯から個人へ、会員の組織化を図る

1990年代半ばから、日本の金融制度は大きな改革期を迎えた。混迷する時代のなか長浜信用金庫は、経営体制の強化に努める一方、地域社会の変化に対応した施策を推進した。

金融制度改革と経営計画の推進

バブル経済崩壊の後遺症として不良債権問題が深刻化し、金融機関の破たん^{※1}が顕在化するとともに金融システムは不安定化した。1996(平成8)年11月、政府は日本版金融ビッグバン^{※2}構想を打ち出し、金融制度は大幅な改革の時代に入った。この目的は競争を柱とする金融システムへ移行し、国際金融市場に再生することにあった。各種規制は撤廃・緩和される一方、経営の自己責任が強く問われる時代を迎えた。

当金庫では1994年度から「ながしんSTEP21」、1997年度から「しんきんJUMP21」の各計画を推進した。いずれの計画も、金融機関の垣根が取り払われようとするなか、地域金融の担い手である信用金庫の使命と役割を再確認し、実践することをテーマとした。そのためにも経営基盤の強化が必要であり、自己資本の充実、リスク管理の徹底などを推進する一方、経営情報の開示にも取り組み始めた。

会員の組織化とウイングクラブの拡大

日本社会では核家族化が加速し単身世帯も増加した。取引形態も世帯単位から個人へと変化するなか、顧客の組織化が課題であった。

当金庫では1990(平成2)年に「スーパーウイングクラブ」を、1992年に「ザ・ウイングクラブ」という世代別の会員組織を発足させた。さらに、1995年に「グランドウイング年金サークル」を発足させた。ウイング会員には各種特典を付し好評を博した。県内3金庫からはウイングクラブを自金庫へ導入したいとの声上がり、1999年からは県下全域へ広がった。

一方、金利自由化の流れのなかで、1995年には懸賞金付き定期預金やグルメプレゼント付き定期積金を発売し完売した。店舗面では1996年5月、市立長浜病院出張所(長浜市大戌亥町313番地)を開設し、本店営業部の所属とした。



ウイングクラブ会員証



世代別会員組織「ウイング」を紹介するリーフレット

※1 金融機関の破たん

1997(平成9)年に北海道拓殖銀行、翌年に日本長期信用銀行、日本債券信用銀行の大手が経営破たん。大手証券会社(三洋証券、山一証券)も1997年に経営破たんした。一方、銀行救済のため公的資金が注入された。

※2 日本版金融ビッグバン

英国の金融自由化政策(金融ビッグバン)に由来。「フリー、フェア、グローバル」が理念とされ、銀行・証券・保険といった垣根規制が解かれていった。



ウイングクラブが県下4信用金庫の共通商品となったことをお知らせするチラシ(1999年)。加盟店は1,400店へ広がった



開設した市立長浜病院出張所。市立長浜病院移転にともない1996年5月、当金庫の出張所を1階ロビーに開設。加熱殺菌機能を施したATMも設置した。移転前は窓口業務に職員2人を派遣していた

大河ドラマと「北近江秀吉博」

豊臣秀吉の出世城(長浜城)、合戦の地(姉川、小谷城、賤ヶ岳)など、戦国の歴史と深く関わる湖北地方は、数々のドラマや映画の舞台となってきた。1996(平成8)年に放送されたNHK大河ドラマ「秀吉」では、これと連動した地元初の「北近江秀吉博覧会」が開催され、7ヵ月ほどの会期で80万

人を超える来場者を集めた。映画館と商家を改造した中央会場、大通寺、長浜城歴史博物館の3会場で開催されたこの博覧会では、会場の案内係としてシルバーコンパニオンが活躍したほか、「秀吉青春大学」という講座も開催された。当金庫では懸賞金付き定期預金「秀吉」を発売し好評を得た。(写真は人気を博した定期預金「秀吉」チラシ)



各地のグルメをプレゼントするなどの特典付き商品を発売(1995年)



金融制度の大改革時代をあゆむ

金融制度改革が本格化し、金融業界は大きな転換期を迎えた。この時期、長浜信用金庫は湖北一円を網羅する支店網を整え、地域金融機関の要としての存在感を高めた。

金融ビッグバンの到来

1998(平成10)年12月、金融システム改革法が施行された。金融市場改革(日本版金融ビッグバン)を具体的に進める上での包括的な法律であり、銀行・証券・保険業の相互参入や新規参入が促進された。この一方で金融機関の再編^{※1}も進んだ。また金融行政も事前指導型から事後監視型へ大きく変わり、この年、金融監督庁(2000年に金融庁^{※2})が発足した。

信用金庫業界も経営の自己責任を強く求められ、経営体質の一層の強化が迫られた。すなわちガバナンス(組織統治)およびコンプライアンス(法令遵守)態勢の確立、経営内容のディスクロージャー(情報開示)、自己資本の充実であった。

第6代理事長に西島喜紹就任、近江支店の開設

金融業界が新たな時代に入った1998(平成10)年6月、森忠雄理事長が理事相談役となり、第6代理事長に西島喜紹専務理事が就任した。西島理事長は就任披露式で、「自己責任経営の徹底と利用者の利便向上、21世紀を担う地元中小企業のお手伝い、地域活性化への支援と社会貢献活動の推進」の3点を経営の柱に据えると挨拶した。

この年は当金庫創立75周年にあたり、これを記念し本支店では9月に各種イベントを開催した。また10月には近江支店(坂田郡近江町大字宇賀野21番地14)を開設した。当金庫15番目の店舗であり、湖北一円を網羅する現在の店舗網はこの年に整った。

一方、金融自由化時代にあって、当金庫における商品・サービスの提供もさらに多様化した。本店営業部では投資信託^{※3}の取扱いを、各支店では宝くじの取扱いを開始した。やわた中山支店では、日曜日に相談コーナー「サンデープラザ」を開設した。

※1 金融機関の再編

1970～1980年代に「都銀13行」「大手20行」などと呼ばれた銀行業界では、1990年代後半から段階的な合併が繰り返され、2006(平成18)年に3大メガバンク(三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行)に集約された。

※2 金融庁

2001(平成13)年1月、中央省庁が再編され、1府22省庁から1府12省庁へ移行。大蔵省は財務省となり、金融行政は金融庁が担う体制となった。

※3 投資信託

投資家から資金を集め、専門家が株式や債券などで運用して成果を分配する商品。当金庫では投資におけるメリットとデメリットの十分な説明を果たすため、当初は本店営業部のみの扱いとした。



創立75周年を記念し、本支店では9月に、抽選会や地元企業物産展、チャリティバザーなど趣向を凝らしたイベントを19日間開催した(1998年)写真はその一例。上:本店営業部(抽選会)、右上:三ツ矢支店(職員作成壁画の展示)、右中:米原支店(似顔絵展)、右下:南支店(クラフト教室)



西島喜紹理事長就任披露(1998年)



1998年10月に新設した近江支店。時計を組み込んだ外観、ユニバーサルデザインの採用、当金庫初のドライブスルー式ATMの設置など、新たな時代に対応した店舗とした



「ほのぼのロダン」の登場

当金庫のイメージキャラクターとして、1996(平成8)年10月から「ほのぼのロダン」が登場した。佃公彦氏の新聞連載漫画「ほのぼの君」で人気のあった飼い犬(ロダン)を起用したものであった。この時期、競争激化を反映し、各金融機関ではスヌーピーやディズニーなどのキャラクター採用が始まった。



より魅力的な「ながしん」へCIを導入

地域との共感・信頼を大切にする姿勢を伝え、理解いただくため、長浜信用金庫は金庫イメージの一新を図った。一方、インターネット時代を迎え先進サービスの提供を開始した。

「地域・金庫・未来」をシンボライズ

21世紀を間近に控えた1999(平成11)年4月、当金庫はCI(コーポレート・アイデンティティ)を導入、理念体系を整理するとともにシンボルマークをはじめ視覚的デザインを一新した。

CI導入の目的は、当金庫が培ってきた理念や理想を役職員一同が改めて共有し、会員の皆様にもお伝えすることにあった。この趣旨から理念体系を整理し、「地域と地域の人々との共感と信頼を大切に」などの文言からなる基本理念、健全経営に徹するなど3項からなる経営理念として明文化し、繰り返し確認することとした。

財務体質の健全性を証明

金融自由化のもとで増大したリスクを事前に把握し対応するため、1998(平成10)年、金融機関に早期是正措置が導入された。経営の健全性を示す指標として、国内で業務を行う金融機関は自己資本比率※1 4%以上が求められ、これを満たさない場合は監督官庁からは是正措置が発動されることになったのである。

当金庫では資本増強に努め、1999年度における自己資本比率を14.75%まで高め、財務体質が健全であることを証明した。

他方、企業や家庭へのパソコンの普及にともない、1990年代後半から金融情報通信革命とも言える時代を迎えた。インターネット(情報通信網)を通じて利用可能な各種システムが構築され、2000年代にかけて店舗へ行かなくても取引可能なサービスが広がった。

当金庫では、このインターネットバンキングを1999年7月から開始した。口座残高や入出金明細の照会、振込み等について、個人や企業のパソコンから行える仕組みを構築したものであった。続いて9月からは、携帯電話※2でも同様のモバイルバンキングサービスをスタートさせた。



2000年代に入るとモバイルサービスを拡大。ウィングクラブ加盟店も携帯電話で検索可能とした

※1 自己資本比率

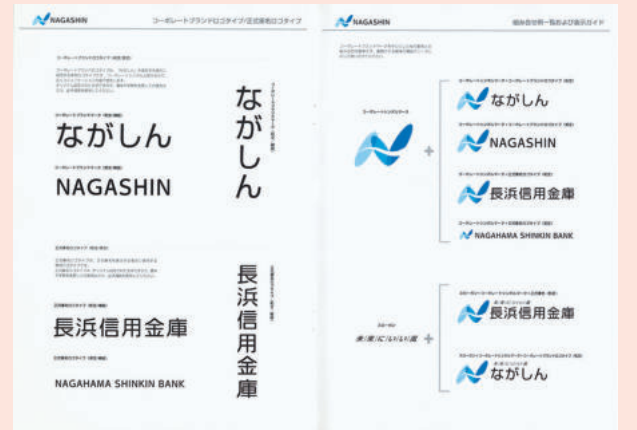
自己資本(出資金や積立金等)を分子、リスク・アセット(損失が発生する可能性のあるリスク資産)を分母に算出。指標が高いほど財務体質の健全性・安全性を示す。

※2 携帯電話

1993(平成5)年は普及率3%台であったが、2003年に90%超まで急増。スマートフォンの普及は2010年代からとなる。



新たに制作したシンボルマークは、「地域・金庫・未来」を表す3つの楕円(だえん)で構成、NAGASHINのNをシンボライズした。中央の白抜き箇所は当金庫のスローガン「未来にいい風」を表し、地域に吹く風をフォローしたいとの願いを込めた(1999年)



コンビニATMを案内する当金庫の看板(2000年)。金融IT化の一環として、2000年7月、2つのコンビニ店にマルチメディアキiosk(情報端末機)を設置、以後、コンビニATMの利用を拡大した。セブン-イレブン(セブン銀行)とのATM提携は2006年から。信用金庫間のCD/ATMの手数料を、2000年12月から無料化(ゼロネットサービス)した



ホームページを開設(1999年)。当金庫ではこの時期、インターネットバンキングやモバイルバンキングサービスを開始した



ひきやま 曳山博物館の開館

安土桃山時代に始まり、長きにわたり継承されてきた長浜曳山祭を紹介する博物館として、2000(平成12)年、「曳山博物館」が開館した。祭りが重要無形民俗文化財に指定された1979(昭和54)年ごろから博物館建設に向けた議論が重ねられ、「創造し発展する地域博物館」をコンセプト

に建設されたものであった。博物館では本物の曳山の展示や企画展などを通じ、長浜曳山祭の魅力とともに、祭りを護り、伝えていく大切さも発信している。博物館建設にあたり当金庫から500万円、当金庫が主宰する滋賀湖北福祉奉仕会を通じ1,000万円を長浜市へ寄贈した。(写真は2023年撮影)

預金量2千億円を突破し創立80周年へ

信用金庫業界では合併等を通じた再編と経営基盤の強化が進んだ。
長浜信用金庫は2千億円台の預金量を達成し、
単独での経営を維持・発展させる確かな基盤を築いていった。

合併が進む信金業界で預金量2,000億円を突破

不良債権問題などを巡り金融システムの不安定化が続くなか、1998（平成10）年に金融再生関連法が成立した。これにより、破たんした金融機関の処理方法（一時国有化など）が定められるとともに、破たんを未然に防ぐ公的資金の注入が可能になり、金融業界の再編が進んだ。

信用金庫業界でも合併や事業譲渡などが急速に進み、1997年3月末の410金庫が2001年3月末には371金庫^{※1}となった。再編の目的は事業規模拡大による経営安定化にあり、預金量が2,000億円未満では単独での存続が難しいとの見方もあった。当金庫は2001年3月期に預金量を2,033億円とするとともに、自己資本比率を高め経営基盤を強化した。

他方、経営の健全性を確保するため監査体制の充実が求められるなか、当金庫は1997年に常勤監事と員外監事を選任するとともに外部監査制を導入し、2000年3月期から監査法人トーマツによる監査を受ける体制とした。

創立80周年、地域の皆様の負託に応える

次節で詳述するように、2003（平成15）年は地域金融機関にとって大きな変化が始まった年となった。当金庫は3ヵ年計画「ながしんチャレンジ21^{※2}」をスタートさせ、新たな信用金庫像を創生する取組みを進めた。

この年、当金庫は創立80周年を迎え、4月、西島理事長は役職員を前に「創立の精神に立脚し地域の皆様の負託に応えよう」と訓示した。特別な記念行事は行わず、記念誌『地域と共に80年』を発刊したほか、寄付行為や地域貢献活動を実施した。80周年時（2004年3月期）の組織は、会員1万3,287人、役職員260人で、預金量は2,121億円であった。



80周年を迎え記念誌『地域と共に80年』を刊行

※1 371金庫

この後も再編は進み、2005（平成17）年3月末には298金庫となった。滋賀県下では2004年7月、彦根信用金庫と近江八幡信用金庫が合併し、滋賀中央信用金庫が誕生した。これにより県下では同金庫と湖東信用金庫ならびに当金庫の3金庫となった。

※2 ながしんチャレンジ21

地域社会の再生・活性化に向け当金庫がリード役となるために、強い信用金庫の構築を目指すとした。



80周年を記念し福祉車両15台をながしん福祉奉仕会を通じ長浜市および12町に寄贈（2003年）。また、交通事故・犯罪被害者遺児育英基金「ほうこう会」へ、当金庫から100万円、信友会から50万円を寄付した。信友会は職員相互の親睦融和や福利厚生、地域貢献活動等を主な事業内容とする当金庫の従業員組織である。なお、2003（平成15）年7月、滋賀湖北福祉奉仕会を「ながしん福祉奉仕会」に名称変更した



80周年を記念し、2003年5月に元三和総合研究所理事・原田和明氏による経済講演会、同年10月に服飾評論家・市田ひろみ氏による文化講演会を開催



地域貢献活動の一環としてさまざまなスポーツ・文化イベントに協賛（写真左から長浜信用金庫理事長杯争奪少年野球大会、湖北地区親善ゲートボール大会、湖北珠算暗算競技大会、湖北ママさんバレーボール大会。いずれも2003年開催時）



経営ニーズへ広げる地域密着型金融

21世紀における地域金融機関の使命と役割。
その方向性を公的に示したアクションプログラムが発表された。
長浜信用金庫は地域経済に貢献する新たな段階をあゆみ始めた。

地域密着型金融の新たな展開

2003(平成15)年度以降、当金庫をはじめ地域金融機関にとって大きな変革の時代となった。リレーションシップバンキング(地域密着型金融)を強化し、資金ニーズだけにとどまらない経営ニーズに対応した取組みを広げたからである。

「失われた10年」と言われ低迷した国内経済は、2002年から回復^{※1}し始めたが、デフレ(物価の継続的下落)状態を抜け出せないまま景気回復の実感は希薄であった。2003年3月、地域金融機関に対して、金融庁から「アクションプログラム」が公表^{※2}された。地域金融機関の機能(地域密着型金融)強化によって、地域企業の再生と地域経済の活性化を図り、同時に不良債権問題を解決しようとするものであった。

2003年度からの2年間で集中改善期間^{※3}とされ、各金融機関には地域特性を踏まえた機能強化計画の提出と進捗報告が求められた。

「三方よし」の好循環経営の実践

当金庫では、2006(平成18)年度から3ヵ年計画「ながしんルネッサンス2006」を推進した。人口減少社会^{※4}の到来など、これまでの延長線上ではない外部環境の変化を踏まえ、信用金庫の原点である人間尊重の経営を実践し、当金庫とお取引先、地域社会が互いに資源を出し合い、地域ならではの価値を創り出す“協創”を目指すものであった。すなわち「お取引先よし、地域社会よし、ながしんよし」(三方よし)という好循環経営の実践であり、真の意味での共存共栄の追求であった。当金庫では課題解決型金融の機能を強化する一方、安定的な収益確保に努めた。

なおこの時期、ペイオフ^{※5}解禁に対応した取組みを進めたほか、2006年には営業エリアを滋賀県全域に拡張した。また2008年1月に「ながしん経営塾」を開塾した。



当金庫の取引先である若手経営者を主な対象として、2008年度から「ながしん経営塾」を開塾した。各種研修や視察を通じた経営知見の拡大に加え異業種交流の場としても活用された(写真は2008年度および2009年度)



西島喜昭理事長が2013年秋の叙勲で旭日双光章を受章



この時期、新商品として住宅ローン契約者向け長期火災保険(2001年)、個人年金保険(2002年)などの取扱い、個人向け国債の募集(2003年)などを開始した。2008年4月からは、当金庫独自の創業支援サポートローン「近江翔人」を発売した



この時期、各店舗では社会保険労務士による年金相談会を開催したほか、やわた中山支店では各種ローンのご相談会(ながしんプラザ)を開催。またインターネットの普及に対応して、法人インターネットバンキングサービス(2003年)、24時間ローン仮審査申込受付サービス(2005年)などを開始していた



JR長浜駅が改築され橋上駅舎としてオープン。当金庫はながしん福祉奉仕会を通じて大型液晶ディスプレイを寄贈、改札口付近に設置され、観光・イベント情報の発信に活用されている(2006年、写真左・右上)。なお1882年開業の旧長浜駅舎は長浜鉄道スクエアとして保存され、現存する最古の駅舎とされる(写真右下、2023年撮影)



※5 ペイオフ

預金等が全額保護から定額保護に移行すること。日本では預金の全額保護が維持されてきたが、2002(平成14)年4月に定期性預金、2005年4月に普通預金についてペイオフが解禁された。金融機関が破たんした場合、保護(払い戻し)される金額は、1金融機関につき預金者1人あたり元金1,000万円とその利息が上限となった。

地域密着型金融の新たな実践

地域密着型金融とは、顧客との長期継続的な取引関係に基づく金融サービスを意味し、当金庫でも長年にわたり実践してきた。すなわち訪問活動をベースにしたフェイス・トゥ・フェイスの取組みであり、資金ニーズに重きが置かれた。新たに求められたことは、営業支援や企業再生



2005年から地域イベント「灯りの森」が豊公園で開催され、当金庫職員もサポーターとして参加した(写真は2009年開催時)

のノウハウをベースに、経営ニーズにまで対応した機能の強化であった。この一例が創業や経営改善への支援、商店街活性化への協力などである。当金庫では専門機関との提携、経営サポートセンターの設置、人材育成などを進め、経営相談や経営支援機能の強化に継続的に取り組んだ。

第5章 人と地域をつなぐ存在へ



ながたんピンク
(優しさ)
自然や人への「優しさ」を大切に持続可能な社会を目指す
末娘

2000年代後半、米国の住宅バブル崩壊を背景として、世界的な金融・経済危機が起こった。
長浜信用金庫は深刻化する地域経済の支援に全力で取り組んだ。

地域に必要なとされる金融機関であり続ける



金利優遇定期預金「お江」を発売
(2011年)

2009～2022年(平成21～令和4年)

金融危機のもと「つなぐ力」の発揮へ

2008(平成20)年9月のリーマン・ショック※1を引き金に、「100年に一度」と言われた金融危機が起こり、実態経済に波及し世界同時不況と呼ぶべき事態となった。日本経済も大きなダメージを受け、とりわけ中小企業の業績が悪化したことから、地域経済の停滞は深刻化した。

政府は積極的な財政政策を展開し、日本銀行も前例のない金融緩和政策を進めた。矢継ぎ早に金融対策※2も打ち出され、中小企業金融円滑化法※3などの下、当金庫も地域の金融円滑化に積極的に取り組んだ。

こうした経済環境のなか、当金庫は2009年度から経営計画「ながしん『つなぐ力』発揮2009」を推進した。地域の多様な主体を結びつけ、新たな価値を生み出す当金庫の「つなぐ力」をさらに進化させ、地域の持続的な発展を目指す趣旨であった。

この取組みの渦中、2011年3月に東日本大震災が発生。甚大な被害に対し、信用金庫業界を挙げて支援に取り組んだ。

地域との結びつきを深耕する

当金庫は地域密着型金融を事業活動の根幹と捉え、具体的計画を策定し活動を展開した。信用金庫業界全体でも、初の統一事業「商店街応援キャンペーン」を2008(平成20)年に実施。当金庫も地域との強い絆を生かし、商店街振興組合などと連携したイベントを推進した。

長浜市では2009年、市街地の活性化を目的として長浜まちづくり株式会社が設立され、当金庫も発起人として参画し出資した。同年12月に開催された地域密着型金融に関するシンポジウム(近畿財務局大津財務事務所主催)では、上記計画への参画が顕彰された。

なおコラムで記すように、この時期、平成の大合併により新米原市、新長浜市が発足し、当金庫の関係支店も所在地住所を変更した。

※1 リーマン・ショック

米国の大手証券・投資銀行リーマン・ブラザーズの経営破たん。住宅ローンを証券化した商品が住宅バブル崩壊により不良債権化、信用不安が世界中に拡大した。米国は深刻な消費減退に陥り、対米輸出不振から日本経済は大きな影響を受けた。

※2 金融対策

緊急保証付き融資の有利な取扱い、金融機能強化法による地域金融機関への資本注入、金融検査マニュアルの改訂など。

※3 中小企業金融円滑化法

中小企業や住宅ローンの借り手が返済猶予や軽減を求めた場合、金融機関は融資条件変更にも努めることが明記された。



厳しい経済環境を受けて開催された地域密着型金融に関するシンポジウムにおいて、当金庫の取組みが顕彰され、事例を発表した(2009年)



「経営改善とキャッシュフロー経営を目指して」と題して開催した経営革新セミナー(2009年)



経営コンサル会社(船井総研)から講師を招き実施した経営塾(2009年)



中小企業金融円滑化法に基づき相談機能を強化(写真は2010年の本店)



休日に各種ローン等の相談会を定期的に開催(2009年)

東日本大震災への支援、地域の災害対策強化にも貢献

国内観測史上最大規模となった東日本大震災では、避難者への払戻しや企業を含む被災者への借入金返済猶予、いわゆるつなぎ資金への対応、被災地など信用金庫間の相互支援規定の制定などを迅速に進めるとともに、右記7件について寄付を行った。
また2013年4月末までに、本店営業部市立長浜病院出張所を除く全14支店で「LPガスバルクシステム」を設置。これは環境配慮型の冷暖房システムだが、耐震性や安全性に優れ、災害時には暖房だけでなく非常用発電機の電源、炊出しでのガス利用ができるようになっており、地域の災害対策強化にも貢献する取組みとして業界紙でも報じられた。



寄付金名	寄付日	金額
被災信用金庫支援見舞金	2011年3月	2,000,000円
東北地方太平洋沖地震 義援金	2011年3月	長浜信用金庫5,000,000円 信友会500,000円
被災信用金庫に対する支援物資	2011年3月30日	110,880円(相当)
東日本大震災義援金	2011年3月31日	6,575,616円
東北地方太平洋沖地震二千万募金	2011年4月25日	役職員586,000円 信友会500,000円
募金箱での義援金	2011年9月30日	269,138円
東北復興支援カタログ	2011年10月31日	318,565円

創立90周年、100周年へのチャレンジ

デフレ経済からの脱却を目指し、大規模な金融緩和策が開始された。創立90周年を迎えた長浜信用金庫は、厳しさを増す事業環境にあつて100周年へのチャレンジを進めた。



創立90周年記念定期預金を発売(2013年)

超低金利時代に突入、創立90周年を迎える

当金庫は2013(平成25)年、創立90周年を迎えた。この年、デフレ脱却を目指す経済政策(アベノミクス^{※1})が開始され、金融面では従来とは次元を異にする金融緩和策が推進された。超低金利策も継続され、各金融機関は従来型の経営モデル^{※2}のあり方が問われる時代ともなった。

当金庫は2013年4月に創立90周年決起大会を開催し、100周年へ向けた一里塚とした。特別な記念行事は実施しなかったものの、90周年事業の一環として寄付や寄贈^{※3}を行ったほか、金利優遇定期預金「益梅」などを発売した。90周年を終えた時点(2014年3月末)の当金庫は、預金量2,583億円、会員数1万2,613人、役職員226人であった。

横田幸造理事長の就任、独自性を発揮し地域を支援

2014(平成26)年6月、西島理事長が会長となり、横田幸造専務理事が第7代理事長に就任した。横田理事長は就任にあたり「信用金庫の原型とされ、報徳思想を唱えた二宮尊徳翁の“報恩感謝”の精神を大切に、“育てる”金融を実践していく」と抱負を語った。当金庫の方針として「育てる金融」との言葉が登場するのは、この時期からであった。

2015年度からは新経営計画「ながしんスクラム強化3ヵ年計画」を推進した。独自性を発揮し地域社会に必要とされる金融機関であり続けるため、当金庫は課題解決型金融の取組みを一層、推進するとともに、地域の文化的・社会的活動にも積極的に取り組んでいった。

この時期、日本銀行はマイナス金利政策を導入した。金融機関が日銀に預ける当座預金の金利をマイナスにする(資金を預けたままだと金利を支払う)ことで、金融機関が企業等への貸出や投資に資金を回すことを促すものであった。経済活性化とデフレ脱却を目指した施策であったが、金融機関の収益環境はさらに厳しさを増した。

※1 アベノミクス

2012(平成24)年末に発足した安倍晋三内閣における経済政策の通称(造語)。物価上昇率目標(2%)を設定した量的金融緩和、大規模な公共投資(国土強靱化計画)、各種規制緩和など。

※2 経営モデル

各金融機関は集めた預金を企業などへ貸し出すことで得られる「利ざや」を収益の柱としてきたが、低金利になると貸出金利が縮小し経営基盤に大きな影響を与えた。

※3 寄付や寄贈

新築移転された長浜市役所に黒壁製時計寄贈、米原市に福祉車両購入資金の寄付、育英資金(交通遺児など)の寄付。



第90回通常総代会(2013年)



90周年記念事業として米原市へ福祉車両購入資金を寄付(2013年)



90周年記念事業として、長浜市の新庁舎に株式会社黒壁制作のガラス大時計「輪」を寄贈[贈呈式(写真左:2013年)と、新庁舎並びに設置された時計(写真左・右:2014年)]



三日月大造滋賀県知事が当金庫を訪問され、納税願功法人の感謝状が贈呈されるとともに、対談会が行われた(2015年)



オリジナルキャラクター「ながたん」誕生(2013年)



横田幸造理事長就任(2014年)



ユネスコ無形文化遺産登録記念式典(2016年)



長浜曳山文化協会へ当金庫から寄付(2016年)

長浜曳山祭、ユネスコ無形文化遺産に登録

毎年4月に開催される長浜曳山祭は、地元の方々により400年以上、脈々と受け継がれてきた。動く美術館と呼ばれる曳山で、子ども歌舞伎が披露される稀有な祭りである。長浜曳山祭は2016(平成28)年12月、ユネスコ無形文化遺産に登録された。人々が祭りを護り、伝

えてきたことが高く評価されたもので、長浜曳山祭の伝統と美が世界に認められた証ともなった。2017年には、登録を記念し曳山13基が勢揃いして披露された。当金庫でも2016年に登録応援定期預金「曳山〜湖北から世界へ〜」を発売、募集金額の一部を寄付したほか、2017年の祭りには総勢44人がボランティア参加した。

地域の信頼を得て預金量3千億円突破

日本経済は回復基調をたどったが、地域での実感は乏しかった。
この時期、預金量3千億円に達した長浜信用金庫は、
改めて協同組織金融機関の原点に立ち、「共創力」の発揮を目指した。

田邊功理事長の就任、預金量3,000億円達成

日本経済は回復基調をたどり、2017(平成29)年9月にはいざなぎ景気を超える戦後2番目の景気回復期間(58ヵ月)を記録した。要因の一つに訪日観光客の増加が挙げられたが、地域経済の担い手である中小企業は依然として厳しい経営環境が続き、景気回復の実感は乏しかった。

金融機関では収益環境が厳しさを増す一方、求められる課題も多岐にわたる時代となった。人口減少・高齢化や地域経済の縮小を見据えた持続可能なビジネスモデルの構築、金融サービスと情報技術への対応、サイバーセキュリティ対策の強化、金融犯罪防止など課題は山積みであった。地方の金融機関では統合や再編[※]も進んだ。

難しさが増す時代にあって、2018年6月、横田理事長が会長に、田邊功専務理事が第8代理事長に就任した。田邊理事長は就任にあたり、「地域との共存共栄を第一に、“育てる”金融の継続発展により中小零細企業支援強化を図る」と抱負を述べた。すなわち「つなげる金融」の推進であった。当金庫はこの年の8月、預金量3,000億円を達成した。役員一同は、これを地域の皆様からの信頼の証として受け止め、協同組織金融機関としての使命を再確認した。

“共創力発揮”へ経営計画推進

2018(平成30)年度から当金庫は、新たな経営計画「〈ながしん〉『共創力』発揮3ヵ年計画」を推進した。共創とは「お客様と共に豊かな地域の未来を創り上げていくこと」を意味し、厳しさを増す事業環境であるものの、地域に信頼され必要とされる協同組織金融機関として、持続可能なビジネスモデルの構築を目指すものであった。

この計画では地域密着型金融を推し進める一方、同時に支店機能や営業体制の見直しを含む経営の合理化、効率化の強化が不可欠とした。



2018年から放送したテレビCM

※統合や再編

滋賀県下でも2010(平成22)年、びわこ銀行が解散し、関西アーバン銀行(現・関西みらい銀行)となった。



外交ジャーナリスト・作家の手嶋龍一氏を講師に迎えながしん講演会を開催(2017年)



若手経営者の会(2017年)



ながはまこほく創業塾スピノフ会に参加(2017年)



米原ドリーム創業塾に参加(2017年)



創業助成金制度を創設(2017年)



田邊功理事長就任(2018年)



三ツ矢支店が開設50周年を迎え関連イベントを実施(2018年)



びわ湖環境ビジネス
メッセ(写真は2010年)



環境先進県・滋賀にて

日本一の面積と貯水量を有する琵琶湖は、“Mother Lake”とも呼ばれ県民に親しまれてきた。また早くから水質保全や生態系維持に関する取組みが展開され、滋賀県は環境先進県^{※1}と言われてきた。環境産業の総合見本市「びわ湖環境ビジネスメッセ」も、長浜市の県立長浜ドームを会場に20年以上にわたり開催され、全国から多くの来場者が訪れた。滋賀県に基盤を置く金融機関として、当金庫は

2004(平成16)年、環境マネジメントシステム「エコアクション21」を認証取得し、環境負荷の低減に取り組んできた。2007年には信用金庫業界全体で環境自主行動計画も策定された。2009年には滋賀県と経済界が協働で、低炭素社会の実現へ向け「しが炭素基金^{※2}」が創設され、当金庫もこれに参加した。

- ※1 環境先進県＝1980(昭和55)年、全国に先駆け湖の富栄養化を防止する琵琶湖条例が施行され、1984年には初の世界湖沼会議が開催されるなどしてきた。
- ※2 しが炭素基金＝企業が提出した基金によって、経済効果と温室効果ガス削減の同時達成を目指す。県単位の炭素基金の実施は国内初。



しが炭素基金 参加証

コロナ禍における使命の遂行

2020年代に入ると世界の様相は一変した。
 コロナ禍が世界を覆い、経験のない経済悪化に苦しめられた。
 長浜信用金庫は疲弊感を強める地域経済の支援に全力を尽くした。

みぞう 未曾有の事態に立ち向かう

2019(令和元)年5月、平成が終わり令和の時代が始まった。この年の秋、ラグビーW杯日本大会が開催され大きな関心を集めたが、平時の様相は2020年になると一変した。新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大、3年余りにわたり大きな混乱※をもたらしただからである。日本では2023年春に至り平時に戻りつつあるが、終息には至っていない。

この間、世界経済は戦後最悪の危機(コロナショック)に直面した。危機の本質は対面での活動制限にあり、世界各国で人やモノの動き、経済活動が強く規制され、生産や物流が停滞した。とりわけ観光や宿泊、飲食などの業界では極端に需要が縮小し、雇用面で大きな影響を与えた。

国は財政・金融・税制を総動員する大規模な緊急経済対策を実施、全国民に一時金が給付され持続化給付金も創設された。実質無利子・無担保で企業に融資する制度(ゼロゼロ融資)も実施された。

当金庫では対面営業の自粛など感染予防に留意しながら、緊急融資に積極的に対応したほか経営相談を行うなど、資金面と事業面の両面から地域経済の支援に全力を挙げて取り組んだ。当金庫で扱った実質無利子・無担保融資は1,100件(2020年度)を超えた。

支援力のさらなる強化を目指して

コロナ禍の渦中であって当金庫は、2021(令和3)年度から「ながしん『支援力の強化と変革への挑戦』3ヵ年計画」を開始した。この計画のねらいは、課題解決に向けた価値ある提案や円滑な資金供給を通じた地域経済の回復支援にあった。当金庫では外部専門機関や業界ネットワークを活用しながら計画推進に全力を尽くした。

同時に継続的な業務運営が可能な筋肉質の組織とするため、当金庫始まって以来とも言える業務改革に取り組んだ。

※大きな混乱

多くの国で都市封鎖や外出制限が行われ、日本では4度にわたり全国規模で緊急事態宣言が発出された。新型コロナウイルスの累計感染者は世界で6億7,000万人を超え、死者は688万人に達したとされる。(2023年3月時点、米ジョンズ・ホプキンス大学集計)



2020年3月から「新型コロナウイルス感染症対策資金」を取扱うとともに全店舗に相談窓口を設置。休日相談も実施した(やわた中山支店・2020年)



新型コロナウイルス感染症対策のため長浜市と米原市に寄付(当金庫および信友会・2020年)



2020年秋の叙勲において、前理事長の横田幸造理事相談役が旭日双光章を受章(コロナ禍のため当金庫にて叙勲伝達式を実施)



ながしんSDGs宣言

2021(令和3)年3月、当金庫は国連が提唱する「持続可能な開発目標」(SDGs)に呼応し「ながしんSDGs宣言」を行った。
 事業性を鑑み、当金庫では地域(魅力ある地域づくり)、信頼(地域を大切に)、繁栄(人を大切に)の3点を重要テーマに抽出し、地域の持続的発展に寄与する方針を改めて宣言した。



当金庫でのSDGs研修(2020年)

地域経済活性化への支援

地域経済が持続していくためのバトンをつなぐ。
長浜信用金庫は支援メニューを広げながら、
事業承継や創業の支援にあたった。

コンサルティング機能の発揮1…事業承継支援

当金庫は2013(平成25)年、国が認定する「経営革新等支援機関」の資格を取得、以降もコンサルティング機能を高め、さまざまな機関と連携を図ることで支援体制の強化に努めてきた。

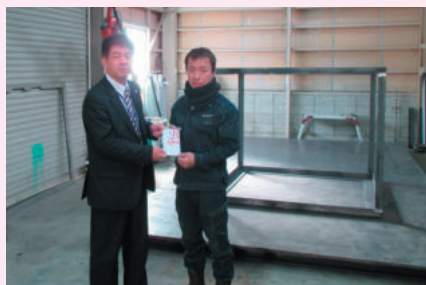
日本企業の大部分を占める中小企業は、雇用や技術の担い手として日本社会を支えてきた。しかし高齢化等による事業承継^{※1}が大きな課題とされる。当金庫では親族・従業員等による承継支援とともに、第三者による承継(M&A)にも積極的に取り組んできた。2019年には信金キャピタル株式会社^{※2}と提携、専門機関のノウハウを活用する仕組みを整えた。

M&A(合併や株式取得・事業譲渡など)について、当金庫は地域経済の維持・発展を第一として地域内での完了を大原則とする。また相談・紹介等をフィービジネス化するのではなく一切の手数料を無料化してきた。2021(令和3)年11月には滋賀県と県内3信用金庫が事業承継を促進する協定を提携、相談会の共催や人材交流を進め連携を強化した。

コンサルティング機能の発揮2…創業支援

創業分野では2013(平成25)年に日本政策金融公庫と連携を開始、各種制度を活用した創業計画の策定、協調融資等を通じ支援を強化してきた。また創業支援サポートローン「近江翔人」を商品化したほか、農業者に対する支援資金「農業応援ローン」の取扱いも開始した。2021(令和3)年には事業者の将来性に着目した支援策として、無担保資金供給を円滑化するCLO融資(貸付債権担保証券)の取扱いも開始した。

こうした地域支援を行うにあたり、当金庫に不足する機能は他機関との連携で補い支援メニューを増やしてきたほか、地域の金融機関が連携して支援にあたる独自の体制も整えてきた。また2017年に「ながしん創業助成金制度」を創設、2022年度までに計70件を超える助成を行った。



2017年度から創業助成金制度を設け、さまざまな業種の創業を支援(写真は一例。左上から時計回りにクリニック、製缶業、土産物店、観光農園、木材伐出業)



2020年度の若手経営者の会



「長浜市の次世代を担う人材育成講演会」に協賛。市出身で免疫学の世界的権威である大阪大学名誉教授・坂口志文氏の講演会が開催された(2020年)



弁護士でタレントのセント・ギルバート氏を講師に迎えたながしん講演会(2018年)



長浜市にSCBふるさと応援団寄付金を贈呈(2021年)

※1 事業承継

経営権や資産だけでなく、経営者の想いや経営理念、企業文化なども引き継ぐこと。これに対し事業継承は、身分や権利、義務、財産などを引き継ぐこととされる。

※2 信金キャピタル株式会社

信用金庫業界の中央金融機関である信金中央金庫の100%子会社。事業承継M&Aなどに関する専門的な業務を行う。

地域の面的再生への参画・支援

当金庫が営業エリアとする湖北地方は、全国の地方都市と同様、人口減少が大きな課題とされてきた。当金庫では長浜市や米原市と連携し、長年にわたり地域活性化計画の策定に参画するとともに、情報やノウハウ、人材の提供等を通じて活性化を支援してきた。

2021(令和3)年には、長浜市の移住・定住事業「MONDEKONSEながはまプロジェクト」について、信金中央金庫の「SCBふるさと応援団」対象事業として推薦、同市に1,000万円が寄付された。信金中金の事業は企業版ふるさと納税制度を活用し、自治体の地方創成の取組みに対し寄付するもので、全国で選定された103事業の1つであった。なお長浜市のプロジェクトは、体

験型観光や田舎暮らし体験などを通じ、移住や定住、交流人口の増加を目指す取組みである。このほか当金庫では、移住者への支援や、「長浜町家応援ローン」などの取扱いも開始した。

社会課題に応える商品・サービスの提供

複雑さを増す社会にあって長浜信用金庫は、地域金融機関の責務として社会の課題に応えるべく、新たな商品やサービスの提供に努めてきた。



ながしん後見支援預金

時代の要請に応える新商品・新サービスの提供

日本社会が大きく変容するなかで、当金庫は時代に対応したさまざまな商品を提供した。この一例として2018(平成30)年、後見人制度の支援を受ける方の財産を安全・適切に管理できる「後見支援預金」の取扱いを開始した。相続や贈与に関するニーズに対しては、2017年からしきん相続信託「こころのバトン」などの取扱いを開始した。

所有不動産の活用にあたっては、2015年から「資産活用応援ローン」の取扱いを始めた。また地方では導入が難しいとされたリバースモーゲージローン^{※1}についても、県内3信金と共同することで2020(令和2)年から「おうみのくらし」の取扱いを開始した。

こうした一方、特殊詐欺など金融犯罪の増加に対しては、70歳以上のお客様のATMでの振込み制限^{※2}を2017年から開始したほか、警察と連携したキャンペーン等も積極的に展開している。

利便性の向上に向けて

スマートフォンを使った送金が日常化するなど、金融サービスは情報通信技術との融合(フィンテック)により日進月歩で革新されてきた。一方では、情報の盗難といった犯罪も増加し、サイバーセキュリティ対策の強化が必要とされる時代となった。当金庫では2014(平成26)年にスマートフォン専用ホームページを開設、2019(令和元)年にLINE公式アカウントを開設するなど、モバイル機器の普及に対応してきた。またスマートフォン等が強い磁力を発生し通帳に影響を与えることから、2020年にはこれに対応したHi-Co通帳の取扱いを開始した。

フィンテックの進展に対応しては、信用金庫業界のネットワークシステムの活用を図り、来店不要で手続き可能なWEB完結型ローンの取扱いを2019年から開始した。



ライン公式アカウントを開設(2020年)

※1 リバースモーゲージローン

自宅を担保にした資金調達方法。取扱いは大都市圏が多かったが、サポートの仕組みを構築することで導入を実現した。

※2 振込み制限

過去1年以上、キャッシュカードでATM振込の利用がない方を対象に、1日あたり振込限度額を10万円に引き下げ。



2021年度までに全支店をローカウンター型店舗に改装。お話いただきやすい店舗環境について議論を重ねて実現した。複数のお客様と対面できるベンチ式の椅子も導入(写真は上から本店、2段目七条支店、神照支店、3段目南支店、4段目高月支店、浅井支店、5段目びわ支店)



各士業との無料相談会は現在も継続して開催している



年金相談会を定期的に開催(三ツ矢支店・2020年)



2013年には県内金融機関でサイバー犯罪に対する共同対処協定を調印



警察と連携し特殊詐欺(振り込め詐欺等)防止の啓発活動を定期的に行う。ソフトバンクロボティクスのPepperを活用し当金庫が独自に実施した(2017年)

※「Pepper」はソフトバンクロボティクスの登録商標です

キャッシュレス社会の進展

紙幣や硬貨の現金通貨を使用せずとも日常の支払いができる社会(キャッシュレス社会)が、急速に広がってきた。日本では交通系ICカードによる支払いが先行していたが、スマートフォンを活用した決済にも広がりを見せる。当金庫で2000(平成12)年から開

始したデビットカードサービスも、キャッシュカードで支払いが可能で、口座に直結した金融機関ならではのサービスである。また当金庫は、キャッシュレス決済の導入を支援するため、2018年、「Origami Pay(オリガミペイ)」と業務提携し加盟店を募集するなど普及に努めた。同サービスは2020(令和2)年、メルペイに移行した。

次代へ向けた組織と人づくり

コロナ禍を経た日本社会が、どのような道筋をあゆむか予測は難しい。いかなる時代を迎えても地域を支え続ける金融機関であるために、長浜信用金庫は次の100年へ向けた改革を推進した。

持続可能なビジネスモデルの構築へ

当金庫はコロナ禍にあって取り組んだ経営計画の重点課題の一つとして業務改革を掲げ、100年の歴史においても分岐点となる大胆な改革を推進した。すなわち各支店で取り扱ってきた融資業務の本部集中化であり、対話型店舗への大きな転換であった。

創立以来、原則としてきた体制変更にあたっては、2年余りをかけて準備し、2023(令和5)年4月から実行に移した。いかなる困難が生じても地域経済を支援するため、当金庫内で議論を重ねた末の決断であった。

改革実施にあたって2023年4月、業務本部を改編し3本部制とした。営業統括部と事務部を統合、事務集中センターやアシストセンターを設置したものである。これは支店事務の本部集中化とともに支店業務の効率化と機能向上を図るため、支店の支援や指導にあたる組織を新設したものであった。一連の改革によって、支店におけるお客様との対話機会を増やし、対話から生まれる相談・支援業務に注力する体制を整えた。

働き方改革のもとで人材力を強化

少子高齢化による労働力不足を背景に、2010年代半ばから政府主導で働き方改革が推進され、多様で柔軟な働き方の実現へ向けた取り組みが活発化し女性活躍推進法も制定された。

当金庫では2018(平成30)年に滋賀県・滋賀労働局と「働き方改革推進のための包括連携協定」を締結した。女性活躍の推進に関しては、前項で記した融資事務の本部集中化もこの一環であり、並行して営業活動を担う女性渉外リーダー※の育成にも取り組んだ。

職員の育成面でも、2023(令和5)年度から新入職員のオペレーション研修をアシストセンターが行う体制をスタートさせたほか、実践型の研修を活発化させるなど、従来とは異なる試みにチャレンジしている。



びわ湖長浜ツーデーマーチへの貢献に対し感謝状が授与される(2017年)

※女性渉外リーダー
ブロックごとに配置し、地域の皆様の相談相手としての役割を担う。管理職を任命。



入庫式(2020年)



上司が部下のワーク・ライフ・バランスを応援する事業所として「イクボス宣言」(2016年)



2023年2月、ストライプのスカーフとグレーの制服に更新。数々のアイテムを用意し、自由な組み合わせを可能とした



当金庫における大規模地震を想定した初動対応訓練を実施(2019年)



職員向けに認知症サポーター養成講座を開催(2019年)

地域と一体となった貢献活動

当金庫では地域貢献活動を重要な取り組みと位置付け、寄付活動を継続する一方、地域イベントなどにも積極的に参加してきた。近年では、以下のような動きがあった。
初開催以来、支援を続けてきたびわ湖長浜ツーデーマーチについては、2017(平成29)年の第25

回記念式典で長浜市より感謝状が授与された。2021(令和3)年には、全国信用金庫協会による第24回信用金庫社会貢献賞(個人賞)を受賞した。当金庫職員(田川豊)が長年にわたり少年柔道の指導に携わってきた活動が認められたものであった。
また2021年の米原市役所新庁舎竣工にあたっては、木彫「石橋の獅子」を寄贈した。



当金庫職員が信用金庫社会貢献賞(個人賞)を受賞(2021年)

第6章 誇りを胸に第2世紀へ

2023年(令和5年)



ながたんオレンジ
(温かさ)
湖北に住む人々の
「温かさ」に包まれて
地域のつながりを大
切にする長女

創立100周年を迎える

当金庫は2023年10月、
創立から数え100周年という記念すべき年を迎えた。
この1年間を通じて、地域とお客様への感謝を込めた記念事業を展開した。

地域とともに～感謝をこめて、これからも

当金庫は2023(令和5)年10月11日、100周年の節目を迎えた。この日、田邊理事長は役職員に向け、次のようなメッセージを発した。

「当金庫は地域の金融支援にかかる強い願いのなか誕生した。その負託に応えようと、先人達は幾多の困難を乗り越え使命を連綿と引き継いでこられた。これよりは当金庫の良き伝統と精神を大切に、当地にあり続ける存在意義をより高め、皆さんと共に変革への挑戦を続けていきたい」。

1923(大正12)年、1,454人の会員とともに発足した当金庫は、100年目の2023年度末時点で、会員数1万1,676人、預金量3,968億円の金融機関へと成長した。これも偏に、地域の皆様のご支援の賜であった。

地域の方々をお招きし記念講演会を開催

当金庫は2023(令和5)年11月22日、400人にのぼる地域の皆様などをお迎えし「ながしん講演会」を開催した。コロナ禍を経て5年ぶりの開催であった。

この冒頭、挨拶に立った田邊理事長は、100年への感謝とともに「当地の発展と皆様のお役にたてる金融機関であり続けるために、堅実な経営を継続し、役職員全員が精励と尽力を重ねてまいります」と決意を述べた。

講演会の講師には、国際ジャーナリストでタレントのモーリー・ロバートソン氏を迎え、メディアでは報道されない世界・国内情勢に関する話題が展開された。なお終了後、総代懇談会を開催した。

●総代懇談会



歓談する総代の皆様



●ながしん講演会



たくさんの祝花が贈られた会場入口



挨拶する田邊理事長と役員ならびに部店長



講演に聞き入る参加者



熱弁をふるうモーリー・ロバートソン氏



閉会後には寄贈の花々を参加者へプレゼント



100周年記念ロゴマーク



県産の間伐材を使用したベンチを各自治体へ寄贈



100周年記念CM「次の100年へ」篇

地域の皆様への恩返し

当金庫は支えていただいた地域の皆様への感謝の心を表すべく、100周年記念事業を実施した。

●100周年記念マークの作成

お客様に感謝の思いを伝えるため記念マークを作成。ワッペンを全職員が胸に付けるとともに様々な広報物を通じた告知で活用した。「地域とともに～感謝をこめて これからも」とのスローガンは職員から公募した。

●木製ベンチの製作と寄贈

地域の皆様に直接、感謝をお伝えしたいとの目的のもと、県内の間伐材を使用した木製ベンチを製作し、長浜市・米原市の計530自治会に寄贈。豊かな琵琶湖を育ててきた森林を大切にしたいとの願いを込めた事業でもあった。

●地域への寄付活動

創立100周年記念事業の一環として、市立長浜病院におけるがん医療向上、図書館充実など地域の発展を願った各種の寄付を下表のように行った。当金庫による寄付総額は600万円となり、他にながしん福祉奉仕会から計100万円、信友会から計100万円を寄付した。

寄付先	寄付日	寄付額
西田天香生誕150年・杉本哲郎生誕123年記念事業	2022年9月	長浜信用金庫1,000,000円
市立長浜病院放射線治療装置更新事業	2022年12月	長浜信用金庫1,000,000円 信友会500,000円
長浜曳山祭全山出場	2023年2月	長浜信用金庫1,000,000円
公益財団法人江北図書館修繕事業	2023年2月	長浜信用金庫1,000,000円
交通事故犯罪被害遺児育英基金ほうこう会	2023年6月	ながしん福祉奉仕会1,000,000円 信友会500,000円
長浜開町四百五十年祭奉賛事業	2023年8月	長浜信用金庫1,000,000円
長浜市6図書館	2023年9月	長浜信用金庫700,000円 信友会300,000円寄付
米原市2図書館	2023年9月	長浜信用金庫300,000円 信友会200,000円



交通事故犯罪被害遺児育英基金ほうこう会への寄付



市立長浜病院への寄付



令和5年度長浜曳山祭では協賛寄付も実施



AIN(アート・イン・ナガハマ)の様子



100周年を記念して作成したボールペン



公益財団法人江北図書館への寄付



長浜市図書館への寄付

●長浜曳山祭など地域行事へのボランティア参加

2023年4月に開催の長浜曳山祭には、本店がある地区の春日山の曳き手として40人を超える職員が参加。また同年11月開催のAIN(アート・イン・ナガハマ)など地域行事にもボランティア参加し、地域貢献を行った。

●記念商品の発売

プレゼント付定期積金「感謝」(2023年4月～2024年3月)、金利優遇定期預金「あゆみ」(2023年)を発売した。



100周年を記念した商品

〉〉〉 トップインタビュー 〈〈〈

100周年に感謝し、 さらに強固な〈ながしん〉を目指します

長浜信用金庫は2023(令和5)年10月、創立から100周年の記念すべき節目を迎えた。

101年目への道のりを歩み始めた当金庫において、
新たに経営トップに就任した田邊功会長、池野弘和理事長が、
1世紀への感謝と向かうべき未来への道筋を語る。



会長 田邊 功

理事長 池野 弘和

100年の歴史から教わってきた 堅実経営の実践

田邊:改めて当金庫の歴史を振り返りますと、長浜町長の吉田作平氏が地域のための金融機関が必要だとして、1923(大正12)年に創立されたのが当金庫です。この地域では繊維産業が中心でしたが、輸出品が売れなくなり厳しい事態となり、互いに助け合って乗り越えようと当金庫が誕生したのです。

戦争に向かう時代でもありました。金融業界にも波乱が起こり、大銀行であった近江銀行の破たんにより当金庫も存続を危ぶまれるほどの影響を受け、後に理事長となる西島庄五郎専務理事らは、私財を投げ打ってでも事業を存続させるという強い気持ちを持ち、7年間無報酬で金庫存続に尽力いただきました。また戦後の混乱期にも深刻な事態に直面しましたので、当金庫は2度にわたり経営危機を経験したことになります。

私たちはこのような話を先輩から聞いて育ち、とりわけ金融機関としての責務を全うするには、経営基盤を確かにすることが如何に大事であるかを教わってきました。

諸先輩が営々と築いてこられた基盤を引き継いでの100年です。大変な努力の積み重ねがあり今があることを忘れてはならないと思っています。同時に当金庫が今も存続していることは、地域の皆様のご信頼の証であり深く感謝している次第です。

池野:地域があって私たちがあるということは先輩から徹底的に教え込まれました。私が入庫後の四十数年で、当金庫の支店数は倍近くになり、預金量も4倍ほどになった一方、地域の経済も大きく変わりました。しかし変わらないものは、お客様とFace to Faceで相対する姿勢です。

私は先般、理事長職を拝命した次第ですが、歴代の役職員の皆さんが苦勞してバトンを渡してくださり今があることを忘れてはならないと思っています。

田邊:信用金庫には全国信用金庫協会や信金中央金庫という中央組織・機関があり、統一した考え方や行動をとってきたからこそ存在感を高めてきた側面があります。

その上で、都市部と地方では経済の仕組みや規模が異なり、当金庫なりの堅実な経営に徹してきました。この一例が過大なご融資はしない、無理に支店数を増やさず、業容拡大のみを是としないといったことであり、内部的には経営基盤の充実を重視するということです。

池野:堅実経営という観点で言えば、新型コロナ禍での経済対策としてゼロゼロ融資(実質無利子・無担保での融資)がありました。預金・貸出金が一時的に伸びますから他金融機関では積極的に対応されましたが、「ご利用者に過大な負担を強いる融資はしない」という姿勢に努めたことは、当金庫の根底にある経営精神を

現す一例であり、またお客様に寄り添うことを積み重ねてきたからこそ、可能だったと思います。

地域の未来に貢献し続ける 金融機関であるために

田邊:私たちが営業エリアとする湖北地方は、少子高齢化によって人口が減少し、地域を支える産業も縮小する時代を迎えていると思います。

こうした時代にあって、私たちはどのような道をあゆむべきかを考えた時、「手間暇かける経営」という言葉に出会いました。ある信用金庫のスローガンですが、「もっとお客様に近づきその実態の理解を深めつつ、お役に立てることは何かを徹底的に考えよう」という趣旨です。

私もこの考え方に共感し職員にも紹介しているのですが、これは何も目新しい考え方ではなく、当金庫のこれまでの実践を言い換えたものとも言えます。多少お節介と言われようとも、お客様に親身に寄り添い行動することが信用金庫の存在意義です。効率の悪いやり方ですが、手間暇かける経営こそ、これからの時代でもお客様とのコミュニケーションを深める大切な指針だと思います。

池野:私たちは地域と共にあり、この地域を離れないわけですが、地域の生産人口が減るこれからの時代は、今までの100年とは異なるステージに立つことになります。2023(令和5)年度は融資業務の一元化等の組織改革も実施しましたが、人的戦略や店舗戦略といった面をさらに考える必要もあるかもしれません。

しかし私たちの営業活動の基本がFace to Faceの対面活動にあることは間違いありません。地域にもっと根を張り、地域を深掘りしていくことにしか進むべき道はないと考えています。

田邊:地域に貢献できる金融機関であるために最も大事なことは、多少のことがあっても経営危機に陥ら

ないだけの経営体質を築くこと、すなわち自己資本の充実です。

当金庫の中長期的な指標としては、自己資本500億円の達成および地域の皆様からの信頼の証である預金量5,000億円の達成があります。これまでの経営姿勢を続けることができれば、そう遠くない時期に達成できると考えています。

池野:他の金融機関はお客様のもとへ集金に伺うことをやめていますが、当金庫では職員を再配置して地域の皆様との絆を深めていこうとしています。その結果、お預かりする預金量も伸びているのだと思います

が、一方で責任も大きくなっているわけですから、経営の安定、自己資本の充実は私も重要な課題と捉えています。

私が経営のバトンをお預かりする時間は長い歴史の中では短い期間です。しかし「経営の健全性を高め、地域と共に生きる」という使命に象徴されるバトンを、次の世代にしっかり渡すことが101年目からの私の仕事だと思っています。

地域の皆様、お取引先の皆様には、改めてご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

使命を語る 「まちとのあゆみ」



100年の歴史に仰ぐ 西島庄五郎精神

無私の精神で金庫経営を支えて

長浜信用金庫の発足時、初代理事長(当時は組合長)には吉田作平長浜町長が就いたが、
実質的に経営の舵取りを担ったのは専務理事の西島庄五郎であった。
庄五郎翁は大正から昭和にかけ44年の長きにわたり当金庫の経営を担い、
その生き様と精神は、役職員の範となり語り継がれている。

西島庄五郎翁の生涯

1886(明治19)年11月、西島庄五郎は現在の長浜市元浜町で生まれた。生家は素封家として知られ、1917(大正6)年には、32歳の若さで長浜町の議員となった。

1923年、当金庫が有限責任長浜信用組合として創立された当初から専務理事を務め、1936(昭和11)年に第3代組合長に就任。戦後の信用金庫への改組後も一貫して経営の重責を担い、1967年に逝去するまで理事長の要職にあった。

在職期間は44年に及び、この間、30年以上にわたり理事長(組合長)を務めた。とりわけ昭和初期の金融恐慌時、当金庫が経営危機に瀕した際は献身的に経営にあたり再生を成し遂げた。この業績は戦後の発展



緑綬褒章受章祝賀会(前列右から3人目:1952年)

に導いた手腕とともに長く語り継がれ、当金庫が100周年を迎えるにあたり特に記憶される所以である。

創立間もなく迎えた経営危機

「西島庄五郎翁は背が高く、長きにわたり和服姿を通し、夏でも絹の羽織を着ておられた」。これは36年もの間、庄五郎翁に接した北村常三第4代理事長の回顧談[※]であるが、一度も怒られた記憶はなく、極めて公正な判断をし、義理固く忍耐強く、公私の別をはっきりする人柄であったと記されている。このことは、戦後の動乱期に推されて、公安委員長を務めて、当地の治安維持に尽力し市民の暮らしを守られたことにも現れている。

庄五郎翁は37歳で当組合の専務理事となったが、その4年後の1927(昭和2)年に金融恐慌が起こった。当組合と密接な取引関係にあった近江銀行が休業したことから、当組合でも同年4月、預金などを引き出す取り付け騒ぎが起こった。総預金額の半分強を資金運用のため同行に預け入れており、連鎖破たんが懸念されたからであった。当組合で支払うことができる現金もわずかになり、「決してご迷惑をかけないから、しばらく待ってほしいと預金者をお願いした」とは庄五郎翁の回想である。

近江銀行は1928年に解散に追い込まれ、当組合は払込出資金に匹敵する額の預金切捨^{こうむ}を被り、大きな赤字を計上した。また多額の預金引き出しを受け、経営存続が危ぶまれる事態となった。厳しい言葉で言



第3代組合長・理事長 西島庄五郎

えば、破産に等しい状態であった。

経営危機を無私の精神で乗り越える

先行きが見えないなか、専務理事だった庄五郎翁は日比久太郎第2代組合長とともに、資金運用を誤り組合に損失をかけたとして私財の提供を申し出た。翁の子息は母から「奉公に行くようになるかもわからないから、その覚悟をしなさい」と言い渡されたとの逸話も残ることから、庄五郎翁は私財の全てを提供する心づもりであった。

申し出を受けた役員会では1929(昭和4)年1月に総会を開き、組合員から委員を選出して協議した。この結果、熱誠(ひたむきな真心)なる申し出は深謝するものの辞退し、引き続きの尽力を要請した。近江銀行の預金切捨で損失を被った滋賀県下の組合は80余にのぼり、「私財補てんが先例となれば収拾のつかない事態となっただけに、極めて賢明な判断であった」と北村元理事長も述べている。



大通寺における長浜市との合同葬(1967年)

金融危機の収拾にあたっては、役員全員による連帯保証のもと政府から資金が融通された。当組合の借入資金は次第に増え40万円余にも達したが、庄五郎翁はこれを貸付に回し、また有利な債権を買い入れ補てんにあてるなど経営手腕を発揮し、当組合は経営再建を果たすことができた。

再建までは7年の期間を要した。この間、組合長、専務理事は手弁当・無報酬を貫き、無配当であったものの払込出資金を切捨てることはなかった。庄五郎翁の無私の精神が当金庫の危機を救ったのであった。

地域への貢献、その想いを継承する

当組合は1943(昭和18)年、創立20周年記念事業として長浜国民学校の児童に教科書を寄贈した。発案者は庄五郎翁であった。金融危機で組合員に多大な迷惑をかけたことにお報いしたいとの考えからであり、この報恩感謝の思いは1965年の滋賀湖北福祉奉仕会設立も同じ考えに基づくものであった。

庄五郎翁は当金庫の理事長を務めたばかりでなく、長浜市議会議長や業界団体の長、多数の公職を歴任した。こうした功績から緑綬褒章や藍綬褒章、勲五等双光旭日章などを受章し、長浜市功労者にも選ばれた。

晩年まで意気軒昂であったが、1967年8月逝去。享年80歳であった。葬儀は当金庫と長浜市の合同葬として大通寺(東本願寺別院)で執り行われた。

当金庫では創立65周年記念事業の一環として庄五郎翁の胸像を製作し、1989(平成元)年3月、本店で除幕式を行った。全て役職員の浄財により製作したものであった。

「地域の皆様にお報いしたい」との庄五郎翁の精神は、当金庫経営の柱として生き続けている。

※回顧談:『温故知新〜創立50周年をむかえて〜』(長浜信用金庫 1976年)より「近江銀行の休業と後日譚」(北村常三)



胸像除幕式に列席した関係者(1989年)



多くの観光客で賑わう黒壁スクエア周辺

街づくりに挑む伴走者として

全国に名を馳せた中心市街地の活性化

滋賀県長浜市。関西の北東部に位置するこの地方都市が紹介される時、必ずと言ってよいほど「黒壁」という言葉とともに街づくりの成功例が語られる。曰く「昭和の後半、シャッター通りであった商店街が、平成の時代になり“黒壁”を軸に年間200万人もが訪れる観光地に生まれ変わった」。全国的に注目され、また現在も継続される街づくりにおいて、長浜信用金庫は言わば“黒子”として多様な計画に参画し支援してきた。



歴史的価値があるも、老朽化が進んでいた(1988年)

伝統と新しい文化をミックスした街づくり

JR長浜駅の近くに広がる中心商店街。人々が行き交った通りも、1980年代に入ると商圈が郊外に移り空洞化が進んだ。1988(昭和63)年に大型ショッピングセンター(長浜楽市)が幹線道路沿いにオープンすると、先行きへの不安がさらに広がった。

同じ頃、商店街にあった明治期建設の建物(旧第百三十銀行長浜支店。壁が黒漆喰であったことから通称「黒壁銀行」)の解体・売却案が浮上した。街のランドマーク的存在がなくなることは、中心商店街の衰退にもつながる。保存を望む強い声がかかるなか、長浜市は民間8社とともに第三セクター(株式会社黒壁)を設立、黒壁銀行の保



長く地元を支えてきた商店街(1988年)

存と商店街活性化を図る事業を検討した。当金庫も出資者の1社であった。

日曜午後でも黒壁前の人通りはずかで事業環境は厳しかった。しかし、商店街と競合しないガラス工芸を軸とした事業が構想され、1989(平成元)年、黒壁銀行を改装した黒壁ガラス館など4施設がオープンした。この後、ギャラリーや郷土料理など多彩な店舗からなる「黒壁スクエア」が形成され、エリア内の空き家や空き店舗の再生・活用へと波及した。中心市街地への来街者は黒壁開業の翌年(1990年)は30万人弱であったが、1995年に100万人、2001年に200万人を突破した。

商店街でも工夫を凝らしたアーケード大改修(大手通り商店街)など歴史や文化を活かした街並みが形成され、長浜全体も活性化していった。当金庫もこうした街づくりを積極的に支援した。

黒壁の展開は商店街活性化の先進事例として全国的に注目されたが、偶然、開花したものではなかった。



スタイリッシュに改装した「黒壁スクエア」

本誌でも触れているように、“町衆”と呼ぶにふさわしい市民が中心となった活動がベースとなり黒壁スクエアが生まれたのである。

信頼関係から生まれる地域づくり

「中心市街地でのハード・ソフト両面にわたる幅広い事業展開は、地元企業の資金支援、人的な協力関係があつてこそ成り立つものである。その中で地元の金融機関としての長浜信用金庫にはさまざまな支援を受けてきた」。長浜商工会議所の理事を務めた吉井茂人氏は、当金庫の80周年記念誌への寄稿でこのように記された。

当金庫は長浜の街づくりにおいて、長浜市の各種委員会に企画段階から参画してきた。また新長浜駅舎の建設や駅前整備事業における資金支援や出資・運営協力、商店街ファサード整備や個店への協力などに見られるように、街づくりの一翼を担ってきた。先述の吉井氏も「長浜信用金庫は企画段階からの参加が多く、それだけ、地元の多くの人たちとの信頼関係が構築されているといえる」と評価いただいた。

近年の中心商店街では、観光客向けの店舗は増加し活性化したもの、居住者や地元来街者の減少といった課題も鮮明となった。長浜市では2期にわたり中心市街地活性化基本計画を推進し、当金庫も計画策定に参画するとともに、市街地のマネジメントを推進する長浜まちづくり株式会社に出資・参画するなどしてきた。

街づくりは目に見えて成果が表れるものではない。当金庫はこれからも、いつまでも、地元の皆様との信頼関係を広げ、深めることで、街の活性化に寄与し続けていく。



ガラス工芸やオルゴールなどの店、カフェなどが集まり、活気ある街並みに



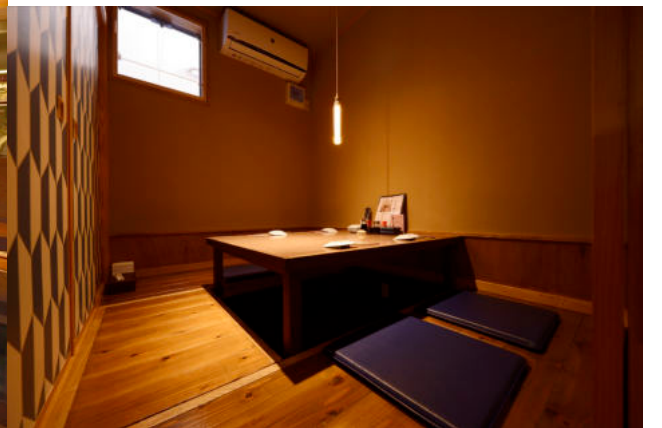
伊吹典子さん：お酒菜処「季咲」を開業。敦賀まで魚類を仕入れに行くなど素材を活かした旬のメニューが人気。フレンチレストランで勤めた経験を持つ。店舗は観葉植物があふれる隠れ家的存在。



米田真平さん：「合同会社ひといき」代表社員。店舗として「和乃リトリートひといき」(薬草サウナ付きなどタイプが異なる町屋ホテル3棟)、発酵バル「コナレル」などを開設。地域情報を発信するWEBマガジンも編集する。



お酒菜処「季咲」(写真左、右)



務体質の改善に寄与することができた。

地域での創業を支援し応援する

地域経済の活性化に当たっては事業が円滑に引き継がれていくとともに、新たな事業が興ることも重要である。当金庫は2017(平成29)年度から創業助成金制度を設け、飲食業や美容業、建設業、福祉業など多様な業種の創業支援に携わってきた。その数は2022(令和4)年度までに70件を超える。

初めての助成金贈呈者となった伊吹典子さんは地元出身、長浜中心街で料理店を営む。開店に当たっての事業計画づくりでは、当金庫からの指摘もあり見通しの甘さを痛感し、改善することができたと話す。コロナ禍では店を閉めざるを得ず、ひたすら店内を磨き上げる日々も経験したが、開店6年目のいま、9人のスタッフで切り盛りする繁盛店となった。常連客によると、豊富なメニューの美味しさに加え、気配りにあふれた伊吹さんの人柄も人気の秘密だという。

古刹である大通寺の門前町で、伝統的町屋を保存・

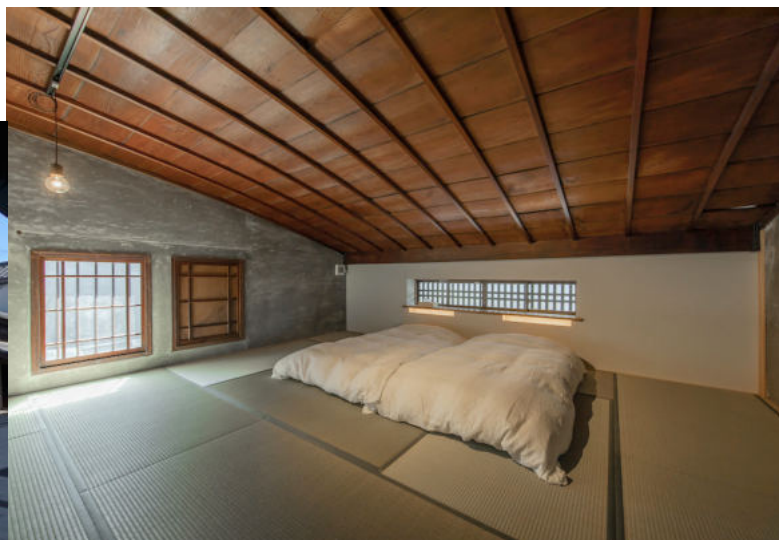


町屋ホテル「和乃リトリートひといき」(写真左、右)

改装したホテル業を営む米田真平さんは、公務員や大手企業で旅行ビジネスを経験した移住者でもある。合同会社を2022年に設立し、ホテルのほか湖北の地域資源(鮎ずしや薬草など)を活用した事業を観光庁・文化庁支援のもとプロデュースする。長浜の魅力は“町衆”の自治力にあると語り、伝統行事である長浜曳山祭にも町内会の一員として参加する。長浜は奥が深く、貴重な文化や資源・財産が残る地域だが、後継者不在で存続が難しいものもあると話す。

信用金庫の営業エリアは限定した地域に定められる。だからこそ当金庫は、この地域の皆様と顔の見える関係を築き、その縁を深めるべく努めてきた。他の金融機関にはない強みをもとに、これからも当金庫は湖北地域の末永き発展のため心血を注いでいく。

※予測：中小企業庁「中小M&Aガイドライン」(2020年)では、2025年までに平均引退年齢の70歳を超える中小企業・小規模事業者の経営者は約245万人、うち約半数の127万人が後継者未定と見込まれるとした。



地域の経済を次代へつなげる

未来に向けたコンサルティング機能の発揮

「中小企業の健全な発展」「地域社会繁栄への奉仕」「豊かな国民生活の実現」。

信用金庫が50年以上にわたり脈々と受け継いできた3つのビジョンである。

地域経済の要となる中小企業や事業者が持続した発展を遂げるために、
長浜信用金庫は課題解決に向けたコンサル機能の強化に努めてきた。

事業の円滑な引き継ぎを支援する

日本経済を支える中小企業や小規模事業者は、経営者の高齢化により後継者が決まらず“大廃業時代”を迎えるとも予測^{*}される。廃業となれば雇用が失われ取引関係が断絶し、ひいては地域経済に大きな影響を与える。また優良な経営資源が活用されないまま喪失することにもなるため、事業承継は大きな社会課題とされる。

当金庫でも事業承継に関する取組みに注力してきた。営業エリアには独自技術や蓄積した専門技術によって全国区で活躍する事業所も多い。その1社であるA社(本社・長浜市)は、異種金属を接合する技術によって先端分野で注目を集めている。同社社長は後継者不在のため事業承継を模索されていたが、複数の選択肢があ

るなかで事業譲渡を選択された。従業員の継続雇用と取引先の継続を絶対条件として相談を受けた当金庫では、あくまでも地域内での承継を追求し譲渡先の選定に当たった。そして信用金庫業界のM&A専門会社である信金キャピタルと連携し、2023(令和5)年に事業承継を実現させた。同社社長からは「非常に迅速に動いてもらった」との言葉もいただき、優れた技術を絶やすことなく地域内で引き継ぐことができた。

食品加工技術を蓄積し、世界から原料を仕入れ全国へ販売してきたB社(本社・長浜市)の事業承継に当たっては、当金庫は同時に事業の磨きあげ(経営改善)にも関わった。高齢化による経営者の社内交代にともなうものであり、策定した事業承継計画書には課題・問題の抽出、計画の基本方針、具体的戦略を盛り込み、経営・財



郷土が誇る「長浜曳山祭」では、曳き手として参加

私たちも郷土の一員であるからこそ 金融業務にとどまらない地域への貢献

長浜信用金庫は1960年代に滋賀湖北福祉奉仕会（現・ながしん福祉奉仕会）を設立、
基金を積み立て地域福祉の向上を願って寄付活動が続けてきた。

一方では、さまざまな地域活動やイベントを支援・協賛するとともに、ボランティアとしても積極的に参加してきた。
地域を元気にする活動に励む、その源には郷土への誇りと愛着がある。

街に賑わいを興すイベントの創出

当金庫が100周年を迎えた2023(令和5)年、春には
長浜曳山祭の曳き手として、秋には長浜出世まつりなど



浜ちりめんのふるさとを彩る「長浜きもの大園遊会」

の案内役などとして、多数の当金庫職員がボランティア
活動に参加した。これは一例に過ぎず、当金庫の職員は
長年にわたりさまざまな活動に携わってきた。

当金庫職員が本格的にボランティアに取り組む契機
ともなったのが、1987(昭和62)年に始まったアート・イ
ン・ナガハマ(略称AIN:アイン)である。秋の2日間、全国か
らアーティストが集まり、市街地一帯を会場として作品
を展示し、来街者と交流する。37回目となった2023年
は130組を超えるアーティストが参加、ライブイベントな
ども実施され多くの来街者を集めた。

AINは市民による手づくりイベントとして始まり、当初
は長浜城がある豊公園自由広場を会場として開催され
た(1993年から市街地に変更)。米国の青空芸術市をヒント
に、「秀吉公時代の楽市楽座を、芸術の視点で再興でき



AIN期間中はアーティストや観客が全国から訪れる

ないか」といった発想から生まれたとされる。AINの別
名でもある「長浜芸術版楽市楽座」の所以である。

この構想に関わり実現に向けて奔走したのは、街づく
り勉強会に自主的に参加した市民であった。自営業主、
商店主、市の職員、教員など、さまざまな職業を有するメ
ンバーから構成され、当金庫の職員も参加し、中心メン
バーの1人として運営に継続的に参加してきた。当金庫
も協賛者として大きな役割を担ってきた。

地域での活動を促す意識の醸成

AINの大きな特徴は、官製イベントではないだけに多
くの市民が関わっていることにある。広い会場の設営、
参加アーティストとの交流会での郷土料理の提供、閉
会後の片付けや清掃など、イベント実施時には200人を
超える市民が関わるという。当金庫でも早期から多くの
職員が運営に参加してきた。近年は職員の2割に相当す
る40人ほどが参加し、受付や案内などの役割を担って
いる。

AINの立ち上げ段階から参加し、現在も運営メン
バーとして携わる当金庫の元職員で常務理事を務めた
山崎俊男氏は、「地域に役立つことには積極的に参加す
るようにとの理事長の奨励があったことが大きかった」
と振り返る。第1回AIN開催時は森忠雄理事長であつ
たが、地域活動への参画は歴代理事長に受け継がれる
大きな経営方針でもある。各地域における自治会活動
にも、当金庫職員は積極的に参加している。



運営など中心メンバーとして携わる(2012年)

郷土への誇りと愛着を胸に

長浜の街づくりの原動力は、多様な人々が自らの得
意分野で協力し合い、それを市民の力が支えてきたこと
にあった。こうした活動が人と人を結び付け、世代をつ
なぐ新たな交流を生み出してきた。

全国には2023年9月現在254の信用金庫がある。地
域の繁栄という同じ使命のもとで誕生した信用金庫で
はあるが、地域の歴史、風土、経済が異なるように、それ
ぞれ独自の信金文化を育んできた。

当金庫が育んできた“ながしん文化”の背景には、地
域の皆様と培ってきた郷土への強い思いがある。信用
金庫は地域と共に存在する。長浜信用金庫はこの郷土
を誇りとし、これからも地域の皆様と共にあゆみ続ける。



ボランティアとして様々な地域活動に関わる

信友会の活動

信友会は1963(昭和38)年、職員の総意を反映し、当金庫の健全で民主的な発展を助長し、併せて職員相互の親睦を図るとともに人格の陶冶と識見の向上を目的として設立された金庫内組織です。2023(令和5)年に60周年を迎えました。

当金庫は創立以来、一貫して健全経営を旨とし、地域金融機関として地元に奉仕するとともに顧客との信頼関係を築き伝統を育むことに努めてきました。

信友会においても明るい職場づくりに努めることは無論のこと、地域社会との連帯を強めるため自主的な地域貢献活動を推進するほか募金活動や寄付活動を行っています。また当金庫内の各種クラブ活動に助成金を支給し、職員の親睦を深めるとともに研鑽を図っています。

主な行事と地域貢献活動

1963(昭和38)年

信友会設立

1965(昭和40)年

秋季体育大会開催
大阪・中座への観劇旅行

1967(昭和42)年

親睦野球大会開催
大阪・梅田コマ劇場へ観劇旅行

1969(昭和44)年

この年から「さよならパーティー(忘年会)」を開催

1970(昭和45)年

ボウリング大会実施

1972(昭和47)年

宇治平等院・奈良ドリームランド旅行

1974(昭和49)年

ひらかたパーク旅行

1978(昭和53)年

設立15周年記念パーティー開催

1981(昭和56)年

お笑いバラエティショー&歌謡ショー観劇

1985(昭和60)年

長年の募金活動に対し滋賀県共同募金会より感謝状授与
長浜市立長浜北小学校にて大運動会を開催

1989(平成元)年

設立25周年記念パーティー開催



さよならパーティー



ボウリング大会



野球部



献血ボランティア

1989(平成元)年

北村常三元相談役より1,000万円が寄贈され信友会特別基金設立

1993(平成5)年

設立30周年記念パーティー開催
30周年を記念し、1市3郡の交通安全協会に対し横断旗1,000本、横断旗収納筒100本を寄贈
ドッジボール、グランドゴルフ大会実施

1994(平成6)年

サマーフェスティバル開催

1995(平成7)年

阪神・淡路大震災の被害に対して義援金を寄付

1996(平成8)年

手話教室開催

1997(平成9)年

豊公園の空き缶拾い活動実施

1999(平成11)年

この年から「AIN(アート・イン・ナガハマ)」にボランティア参加

2001(平成13)年

滋賀県主催の琵琶湖一斉清掃に参加
この年から「びわ湖長浜ツーデーマーチ」にボランティア参加

2002(平成14)年

森忠雄元相談役より500万円寄贈
全店舗周辺一斉清掃
よしもとバラエティショー観劇

2003(平成15)年

信友会40周年記念パーティー開催
交通事故被害者遺児育英基金「ほうこう会」に50万円寄付
映画鑑賞会開催

2004(平成16)年

新春よしもとバラエティショー観劇

2006(平成18)年

びわ湖・水ルネッサンス水環境市民の集いにボランティア参加
さよならパーティー開催

2008(平成20)年

豊公園で開催の「灯りの森」にボランティア参加(翌年も参加)

2009(平成21)年

長浜きもの大園遊会にボランティア参加



サマーフェスティバル



救急救命講習



AIN(アート・イン・ナガハマ)



手話教室



映画鑑賞会



びわ湖長浜ツーデーマーチ



信友会40周年記念パーティー

信友会の活動

2010(平成22)年

琵琶湖一斉清掃参加

2011(平成23年)年～2014(平成26年)年

ボウリング大会および映画鑑賞券配布

2015(平成27)年

「木下大サーカス」京都公演の前売券助成

2016(平成28)年

「ダイナランドゆり園」の入場無料券配付

2017(平成29)年

長浜市放課後児童クラブへ本を寄贈

2018(平成30)年

新春ボウリング大会・新春食事会実施

長浜きもの大園遊会にボランティア参加

2020(令和2)年

新型コロナ禍でイベントなど中止

地元事業者支援を兼ねて特別給付金を支給(会員一人あたり3回計3万5,000円支給)

2021(令和3)年

特別給付金を支給(会員一人あたり3回計3万円支給)

2022(令和4)年

市立長浜病院へ50万円、ほうこう会へ50万円を寄付(計100万円)

長浜曳山祭にボランティア参加

2023(令和5)年

信友会設立60周年を記念し長浜市立図書館へ30万円と図書92冊、米原市立図書館へ20万円と図書76冊を寄付(計50万円、図書168冊寄付)

図書館主催のおはなし会やイベントスタッフにボランティア参加

第1回草野川の郷ティラノサウルスレースに参加

60周年記念ボウリング大会・食事会実施

長浜開町450周年記念長浜曳山祭

全山出場にかかり山曳きボランティア参加

2024(令和6)年

全国山鉾屋台保存連合総会 長浜大会開催にかかりボランティア参加



琵琶湖一斉清掃



長浜きもの大園遊会



ながしんランナース



全国山鉾屋台保存連合総会



茶摘みボランティア



第51回近畿地区信用金庫野球大会(2022年10月16日)出場



ながしん お箏クラブ

地域を語る「店舗のあゆみ」

(情報は2023年10月11日現在)

本店営業部	店舗コード:002 開設:1923(大正12)年10月 所在地:長浜市元浜町3番3号 TEL:0749-63-3321
市立長浜病院出張所	店舗コード:015 開設:1996(平成8)年5月 所在地:長浜市大成亥町313番地 TEL:0749-65-7755

地域の持続的な発展に向け、母店の使命を果たす

当部は旧市街中心部13町の事業所および約4,000世帯を営業エリアとするとともに、地区外の数多くの事業所とも取引しています。

当金庫の営業店15店舗(出張所含む)の母店であることを

認識し、狭域での高密度営業を展開しています。地元密着の金融仲介機能を発揮するなど最善を尽くし、地域経済の発展・活性化に向けた社会的使命を果たしていきます。



当部のあゆみ

- 1923.10 ●有限責任長浜信用組合として長浜市大宮町にて事業開始
- 1927. 5 ●事務所を元浜町(旧西本町)に移転
- 1956.12 ●本店を現在地に移転
- 1973.11 ●本店新築
- 1979.11 ●CD一号機設置
- 1981. 3 ●最初の店外CD(市立長浜病院)開設
- 1981.10 ●店外ATM(長浜市役所)開設
- 1996. 5 ●市立長浜病院出張所開設
- 1999. 7 ●投資信託の取扱開始
- 2012.11 ●本店耐震工事完了
●マルチビジョン設置
- 2014.12 ●市役所新庁舎店外ATMオープン
- 2022. 7 ●ローカウンターに改装、ロビーをリニューアル
- 2023. 6 ●当部預金量800億円達成

歴代営業部長

北川勘次(1963.7～)／森忠雄(1967.10～)／山内一好(1969.11～)／飯田與史雄(1972.5～)／岩脇俊雄(1985.5～)／清水善之(1991.4～)／川瀬九平(1997.5～)／松村義美(1999.2～)／安賀正男(2001.4～)／野中孝雄(2003.6～)／梅本哲男(2005.6～)／高橋利幸(2009.5～)／北川直之(2010.7～)／藤居正一(2016.7～)／安野重幸(2020.7～)

歴代出張所長

福永礎(1996.3～)／杉野榮一(1998.4～)／児玉嘉明(1999.2～)／赤堀美智雄(2002.2～)／大音辰治郎(2004.7～)／松田良憲(2005.6～)／川部孝(2008.7～)／池田宗弘(2009.5～)／久保寺哲也(2011.4～)／梅原敦司(2012.7～)／前川正行(2014.7～)／宇治原隆(2018.7～)／平居孝太郎(2019.7～)／田中伸一(2020.7～)

エリア探訪

長浜曳山祭や黒壁スクエアが地元中心商店街の活性化に貢献を果たし、近年ではマンション兼用の商業施設も建設されるなど市街地再生が図られています。

当部では長浜曳山祭にボランティア参加するほか、町内の河川清掃活動や交通安全指導に参加するなど、地域事業への人材投入も積極的に実施しています。



長浜曳山祭



本店営業部



市立長浜病院出張所



三ツ矢支店

店舗コード:003 開設:1929(昭和4)年10月
所在地:長浜市三ツ矢元町8番26号 TEL:0749-62-6070

さらに地域で信頼され、必要とされる金融機関に

当店は長浜市西北部の約4,700世帯(人口12,000人弱)を対象に営業展開しています。近年は郊外へ移転される事業所も増え、個人を中心とした取引が増えるなか、祇園町方面では分譲宅地開発が盛んに行われるなど住宅新築も進んでいます。

当店は信用金庫の強みである「Face to Face」の実践に努め“信金ファン”を増やしていきます。



支店のあゆみ

1929.10●三ツ矢出張所開設
1951. 4●三ツ矢支店に昇格
1968.11●現在地に新築移転
1984. 2●店外ATMをフタバヤ長浜店に設置
2018. 9●店舗改装
2018.11●新築移転50周年運動を実施

歴代支店長

山下俊雄(1962.10～)／浅山芳久(1963.7～)／飯田與史雄(1969.7～)／浅山芳久(1972.5～)／奥田孝(1976.6～)／清水善之(1979.7～)／浅山芳久(1981.4～)／川瀬九平(1985.5～)／川村義夫(1987.4～)／中澤正実(1991.4～)／桂田全啓(1994.2～)／松村義美(1997.5～)／安賀正男(1999.2～)／武藤清和(2001.4～)／藤居伝逸(2002.7～)／高橋利幸(2003.6～)／竹中滋祥(2006.6～)／北川直之(2009.5～)／矢野三知夫(2010.7～)／下村裕彦(2013.5～)／雨森則雄(2015.5～)／角田峰治(2017.6～)／井上豊治(2019.7～)



エリア探訪

浄土真宗大谷派別院大通寺、天台宗真盛派知善院、1000年の歴史がある長浜八幡宮など由緒ある寺院や神社があり、年間を通じ多数の観光客が拝観されます。

一方、湖岸道路が拡張整備されたほか、大手スーパーなどの新規出店や既存スーパーの新築改装などが進み、さらなる活性化が期待されています。



長浜八幡宮

木之本支店

店舗コード:004 開設:1952(昭和27)年8月
所在地:長浜市木之本町木之本1557番地 TEL:0749-82-3424

地域とともに、感謝をこめて、これからも

開設から70年余を経て、営業エリアは木之本町から余呉町、西浅井町へ広がりました。近年はエリア全体で人口減少や後継者不足などが課題とされるなか、木之本町の若手経営者を主体に様々な地域の盛り上げイベントが企画さ

れ、また余呉町で始まった新たな活性化事業も注目されます。

当店は地域の盛り上げに職員が積極的に参画するほか、これまで以上に地域に必要とされる金融機関を目指し全員参加型営業を実践します。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1952. 8●木之本支店開設
1978. 5●現在地に移転
1998.11○高月町に北近江リゾートオープン
2002. 8●支店開設50周年
2010. 1○木之本町など長浜市と合併
2014.11○椿坂バイパス全線開通
2021. 4○木之本町に長浜伊香ツインアリーナグラウンドオープン

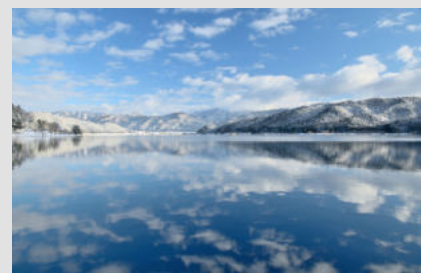
歴代支店長

山内一好(1962.10～)／川口陸郎(1963.7～)／山下俊雄(1967.7～)／飯田與史雄(1968.2～)／奥田孝(1969.7～)／清水善之(1974.4～)／岩脇俊雄(1979.7～)／川村義夫(1984.2～)／桂田全啓(1987.4～)／中澤正実(1989.4～)／川瀬九平(1991.4～)／川村隆司(1995.2～)／武藤清和(1997.5～)／青井一彦(2001.4～)／竹中滋祥(2002.2～)／北川直之(2006.7～)／池野弘和(2009.5～)／尾木雄二(2012.5～)／藤居正一(2014.7～)／神谷正彦(2016.7～)／宮川恒人(2018.7～)／寺脇裕幸(2021.7～)／前田正隆(2023.4～)



エリア探訪

羽柴秀吉と柴田勝家が覇権を争った戦いの戦場跡「賤ヶ岳古戦場」。羽衣伝説や菊石姫伝説が残る神秘の湖「余呉湖」。紅葉の名所として多くの人が散策に訪れる「鶏足寺」。眼の仏様として著名で大縁日には全国各地から参拝客が訪れる「木之本地蔵院」。このように当エリアには多くの観光スポットが集積しています。



余呉湖

七条支店

店舗コード:005 開設:1955(昭和30)年8月
所在地:長浜市七条町字東三反田447番地の1 TEL:0749-62-7221

「^{だい}一 ^{だい}万 ^{だい}吉」の精神で地域を元気に

営業エリアは、北陸自動車道より以東の長浜と米原の2市にまたがります。長浜エリアの多くは農業振興地域ですが、複数の工業団地が形成され新築移転も目立ちます。米原エリアは、伊吹山の天然資源や観光資源を活用した経済圏が形成されています。両エリアとも人口減少が避けられないな

か、地域・業界を牽引する企業やブランド力を持つ事業所も数多く存在します。

当店は「共存同栄」の理念のもと地域の課題と真摯に向き合い、お客様の将来に「つなげる」営業活動に情熱を持って取り組んでいます。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1955. 8●七条支店開設
1965. 7○伊吹山ドライブウェイ全面開通
1980. 4○北陸自動車道長浜IC開通
1980.10●現在地へ新築移転
1980.—○加納・西上坂工業団地の形成
1996.—○長浜市による東上坂工業団地竣工
2002. 3○新横山トンネル開通
2016. 3○新観音坂トンネル開通

歴代支店長

小林重蔵(1962.10～)／川口陸郎(1967.7～)／古澤善隆(1968.10～)／北川司羽男(1972.5～)／古澤善隆(1976.6～)／国友一衛(1982.3～)／桂田全啓(1985.5～)／多賀太四郎(1987.4～)／松村義美(1990.4～)／横田幸造(1994.2～)／安賀正男(1996.3～)／清水重幸(1999.2～)／大谷隆(2001.4～)／梅本哲男(2002.2～)／清水孝一(2005.7～)／福永礎(2006.7～)／伊吹誠(2009.5～)／藤居正一(2011.4～)／大依裕治(2014.6～)／井上豊治(2017.6～)／寺脇裕幸(2019.7～)／前田正隆(2021.7～)／赤井靖(2023.4～)



エリア探訪

戦国時代の知将・石田三成の生誕地・長浜市石田町は、三成ファンの聖地として歴史愛好家が訪れ、11月には三成祭が営まれます。また、秀吉との出会いの場(三献の茶)の逸話が残る大原観音寺が米原市朝日町にあります。三成の旗印が「大ー・大万・大吉」(一人が万民のため万民は一人のために尽くせば天下の人々は幸福に)です。



石田三成像(石田会館)

米原支店

店舗コード:006 開設:1959(昭和34)年3月
所在地:米原市下多良一丁目100番地 TEL:0749-52-3131

コミュニティマネージャーとして地域に良い循環を

当店の営業エリアは旧米原町と彦根市の一部で個人取引が主体です。米原は交通の要所であるものの駅周辺は商業施設が少ない状況でしたが、近年は西口方面で大規模な分譲地開発が進展中で発展が期待されます。

当店は信用金庫の独自性・特性を活かしながら、お客様や地域の成長・発展に役立つ取組みにより存在意義を高め、地域に必要とされるコミュニティバンクであり続けることを目指しています。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1959. 3●米原支店開設
1986.11●現在地へ新築移転
2005. 2○米原町・山東町・伊吹町が合併して米原市が誕生
2005.10○近江町が米原市と合併
2009. 3●支店開設50周年
2021. 5○米原駅東口に米原庁舎が開庁

歴代支店長

川口陸郎(1961.5～)／山下俊雄(1963.7～)／小林重蔵(1967.7～)／川口陸郎(1968.10～)／茂森輝男(1970.5～)／岩脇俊雄(1974.4～)／北川司羽男(1976.6～)／岩中利秀(1978.7～)／川村義夫(1981.6～)／多賀太四郎(1984.2～)／松村義美(1987.4～)／堤範夫(1990.4～)／川村隆司(1991.4～)／武藤清和(1995.2～)／清水重幸(1997.5～)／藤居伝逸(1999.2～)／小倉伊左男(2000.4～)／清水孝一(2003.6～)／杉野榮一(2004.10～)／宮竹茂樹(2006.6～)／小倉伊左男(2008.9～)／雨森則雄(2009.5～)／大依裕治(2011.4～)／宇治原隆(2014.7～)／寺脇裕幸(2017.6～)／田川豊(2019.7～)／山崎剛司(2021.7～)／東野孝(2023.4～)



エリア探訪

米原市は交通都市とも言え、鉄道網により関西・中京圏へのアクセスが良好のほか、道路網でも国道や高速道路が分岐し結節点の役割を果たしています。米原曳山まつりも有名で、歴史・文化・自然が共存する町です。当店は「まいばらノリ乗りフェス」にボランティア参加するなど地域密着の活動を推進しています。



米原曳山まつり

醒井支店

店舗コード:007 開設:1964(昭和39)年3月
所在地:米原市醒井560番地 TEL:0749-54-1066

「ふれあい」を大切に地域と共に

醒井地域は、古くから中山道の宿場町（柏原宿や醒井宿）として栄え、旧街道沿いには今も風情ある街並みが残ります。木彫りや仏壇仏具の製造、開業時は東洋一を誇った醒井養鰯場の関連事業が栄えた土地柄で、現在は国道21号

や名神高速道路・北陸自動車道が分岐する交通の要衝です。当店は感謝の気持ちを忘れず、より多くのお客様と接し、地元地域の皆様と共に歩み、存在感のある店舗を目指し全力で取り組みます。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1964. 3 ●醒井出張所として開設
1972. 9 ●支店に昇格
1979.12 ●醒ヶ井駅前から現在地へ新築移転
2005. 2 ○米原町・伊吹町・山東町が合併し米原市が発足
2014.11 ●支店開設50周年

歴代支店長

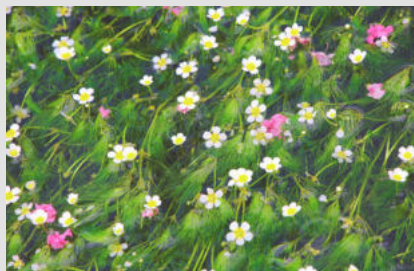
西田利平(1969.3～)／北川司羽男(1969.7～)／岩脇俊雄(1972.5～)／吉川廣太郎(1974.5～)／国友一衛(1978.7～)／川瀬九平(1982.3～)／中澤正実(1985.5～)／山崎英士(1989.4～)／中川忠雄(1992.4～)／中川孫彦(1995.2～)／野村重喜(1998.4～)／竹中滋祥(2000.4～)／中山良雄(2002.2～)／福田泰弘(2004.7～)／小倉伊左男(2008.7～)／改田八郎(2009.5～)／宇治原隆(2011.4～)／角田峰治(2014.7～)／久保俊文(2017.6～)／東野孝(2019.7～)／池野浩文(2020.7～)／高田光規(2022.4～)／法山照人(2023.4～)



エリア探訪

醒井地区には地名の由来ともなった「居醒の清水」を源流とする地藏川が流れ、「梅花藻」が有名で観光客で賑わいます。醒井養鰯場は歴史あるマス類の養殖施設で「溪流魚の里」として知られます。

上丹生地区は「木彫りと仏壇の里」として知られ、伝統の技を受け継ぐ職人さんたちが集まり暮らす地域です。



梅花藻

南支店

店舗コード:008 開設:1978(昭和53)年12月
所在地:長浜市平方町892番地の3 TEL:0749-63-9555

心に響く支援をモットーに全員営業を推進

長浜市南部を営業エリアとして開設された当店は、移転前の卸売市場やちりめん産業など個人取引を中心にスタートしました。1990年代以降は新興住宅地が形成され、施設整備や商業施設の出店も進み、アパートやマンションなども建

設され世帯・人口ともに増加傾向にあります。当店では取引先の心に響く支援をモットーにきめ細かなサービスの向上に努め、ネット取引の推進などにも取り組んでいます。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1978.12 ●南支店開設
1987.10 ○支店前の国道8号が県道へ変更
1990. 5 ○卸売市場が田村町へ移転。公営市場長浜地方卸売市場として開場
1990. - ○大型分譲開発が進み周辺人口が急増
1995. 1 ○卸売市場跡に長浜市初的大型マンション竣工
2003. 4 ○長浜バイオ大学が田村町に開校
2014. - ○田村町の市街化区域編入により宅地分譲開発開始。10年間にわたる田村駅整備計画が開始
2021. - ○ドラッグストアなどが進出、商業化が進む

歴代支店長

岩脇俊雄(1978.12～)／川瀬九平(1979.7～)／古澤善隆(1982.3～)／山田敏美(1986.2～)／中川忠雄(1989.4～)／中川孫彦(1992.4～)／野中孝雄(1995.2～)／大谷隆(1999.2～)／杉野榮一(2001.4～)／伊吹誠(2004.7～)／清水孝一(2006.7～)／伊藤義弘(2008.7～)／池田宗弘(2011.4～)／宮川恒人(2013.5～)／井上豊治(2015.5～)／安野重幸(2017.6～)／前田正隆(2019.7～)／赤井靖(2021.7～)／多賀昭弘(2023.4～)



エリア探訪

長浜地方卸売市場は鮮度の高い生鮮食品などを豊富に揃える「湖北の台所」です。湖岸周辺では道の駅のほか新たにグランピング施設もオープンし、都市部からの観光客やピワイチサイクリングの利用客を集めています。また村落領主の屋敷跡として下坂氏館跡が残り、戦国時代を思わせる屋敷構えから国史跡に指定されています。



下坂氏館跡

神照支店

店舗コード:009 開設:1981(昭和56)年9月
所在地:長浜市神照町696番地の3 TEL:0749-63-3833

課題解決を通じ地域金融機関の役割を果たす

当店は旧長浜市北部の10町を営業エリアとして開設されました。当初は農村地帯でしたが、長浜バイパスが国道8号に指定されたこともあり、宅地開発が進むとともに飲食店や小売業などの進出が盛んとなりました。

当店は個人取引が主体です。1人でも多くのお客様と会話を重ね、課題解決に取り組むとともに、地域経済の発展と幸せ豊かな生活の実現に向け地域金融機関としての役割を果たしていきます。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1981. 9●神照支店開設
1987.10○長浜バイパスが国道8号に指定
1996. 3●支店預金量100億円達成
2016. -●支店開設35周年感謝運動の実施
2023. 3●支店預金量200億円達成

歴代支店長

桂田全啓(1981.9～)／富田進牟(1985.5～)／堤範夫(1987.4～)／安賀正男(1990.4～)／小西敏一(1992.11～)／清水重幸(1994.2～)／藤居伝逸(1997.5～)／中山良雄(1999.2～)／秋野喜久夫(2002.2～)／堀田正和(2003.6～)／伊藤義弘(2004.7～)／藤居正一(2006.7～)／矢野三知夫(2007.6～)／宮川恒人(2010.7～)／神谷正彦(2013.5～)／三家重人(2016.7～)／田邊勇次(2018.7～)／久保俊文(2019.7～)／多賀昭弘(2021.7～)／高田光規(2023.4～)



エリア探訪

国友町は最盛期には70軒の鍛冶屋と500人以上の職人で賑わった一大鉄砲産地です。1987年に火縄銃専門のミュージアム「国友鉄砲ミュージアム(国友鉄砲の里資料館)」が開館、約50挺の火縄銃が展示され、火縄銃の歴史が学べます。火縄銃体感コーナーや当時の鉄砲鍛冶の様子を知るミニシアターもあります。



国友鉄砲ミュージアム

高月支店

店舗コード:010 開設:1984(昭和59)年4月
所在地:長浜市高月町高月598番地 TEL:0749-85-4141

“深度”ある対話を大切に、最も身近な金融機関に

営業エリアの中央にJR高月駅があり、国道8号と国道365号が通るなど交通の便に恵まれた地域です。大手メーカーの工場と関連企業が点在し、こうした会社に勤める方々や兼業農家などの皆様との取引が主体です。

当店は最も身近な金融機関と認めていただけるように、お取引先へ足を運ぶ機会を増やし、回数だけでなく深度ある対話を大事にしながら、お客様の信頼を得ることを目標に取り組んでいます。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1984. 4●高月支店開設
1996.10●湖北町役場に店外ATM開設
1998. 3●きたのキャンズ(高月町)に店外ATM開設
2010. 1○高月町など長浜市と合併
2014. 4●支店開設30周年運動実施
2017. 3○北陸自動車道に小谷城スマートインター開設

歴代支店長

中澤正実(1984.4～)／山崎英士(1985.5～)／横田幸造(1989.4～)／松村義美(1994.2～)／山崎久徳(1997.5～)／青井一彦(2000.4～)／福永礎(2001.4～)／伊藤義弘(2006.6～)／土田保夫(2008.7～)／尾木雄二(2010.7～)／森秀行(2012.7～)／宮川恒人(2015.5～)／三家重人(2018.7～)／安野重幸(2019.7～)／東野孝(2020.7～)／伏木貴英(2023.4～)



エリア探訪

高月町など長浜市北部では観音像が守り継がれ、国宝や国指定重要文化財などに指定された著名な観音像も数多くあり、「観音の里」として多くの観光客が拝観されています。毎年開催される「観音の里ふるさとまつり」には、当店でも門市に模擬店を出店するなどボランティア活動を展開し、地域との親睦を深めています。



渡岸寺観音堂

宮司支店

店舗コード:011 開設:1984(昭和59)年10月
所在地:長浜市宮司町字前田913番地1 TEL:0749-64-1200

対応スキルを向上させ、お客様と共に成長する

当店は南北に細長い地域を営業エリアとしています。かつては農村田園地帯でしたが宅地開発が進み、近年も室町で大型分譲住宅が生まれつつあります。また国道8号沿いには様々な店舗が進出しています。

当店は幹線道路沿いという立地の良さから来店数が大変多い店舗です。お客様のニーズは多様化し、求められるスキルも年々高くなっています。必要なスキルを十分認識し、お客様と共に成長できる店舗を目指します。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1984.10●宮司支店開設
1984.—○この頃から宅地開発が進む
1987.10○長浜バイパスが国道8号に指定。以降、沿線に商業施設が進出
1988. 3●西友長浜楽市にATM設置
1996.11●アルプラザ長浜店にATM設置
2014.10●支店開設30周年

歴代支店長

松村義美(1984.10～)／川村隆司(1987.4～)／武藤清和(1991.4～)／中川忠雄(1995.2.～)／青井一彦(1998.4～)／清水孝一(2000.4～)／小倉伊左男(2003.6～)／土田保夫(2006.7～)／尾木雄二(2008.7～)／森秀行(2010.7～)／三家重人(2012.7～)／田邊勇次(2016.7～)／田中伸一(2018.7～)／伏木貴英(2020.7～)／吉田健太郎(2023.4～)



エリア探訪

宮司町の「総持寺」は、国分寺の試寺として開山され、姉川の合戦のころ焼失しましたが豊臣秀吉の寄進で復興しました。重要文化財の仏像があり「ぼたん寺」としても有名です。加田町の「神田山公園」からは伊吹山や琵琶湖が一望でき、神田溜(豊島池)では桜や紫陽花、蓮などが四季を通じ咲き誇ります。



総持寺

びわ支店

店舗コード:012 開設:1991(平成3)年3月
所在地:長浜市曾根町1284番地1 TEL:0749-72-2111

CS(顧客満足度)向上を通じ、愛され親しまれる店舗に

当店のエリアは東に伊吹山、西に琵琶湖と竹生島を望み、姉川の清流と豊かな田園地帯から形成されます。古くから農業が盛んで分譲地開発は少ない一方、2つの工業団地があり大手企業の工場が進出しています。また観光ぶどう園

があり、直売所で地元農産物とともに販売されています。

当店はお客様との出会いを大切にし、職員全員が三配り(目配り・気配り・心配り)で連携を深め、知恵を出し合い切磋琢磨して邁進します。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1991. 3●びわ支店開設
2000. 2●神照支店より旧虎姫町(宮部、三川除く)を営業エリアに移管
2005. 3●支店預金量100億円達成
2006. 2○びわ町が長浜市と合併
2010. 1○虎姫町が長浜市と合併

歴代支店長

清水重幸(1991.3～)／藤居伝逸(1994.2～)／田辺悦雄(1997.5～)／藤居伝逸(2000.12～)／高橋利幸(2001.4～)／矢野三知夫(2002.2～)／小倉伊左男(2005.7～)／伊吹康裕(2008.7～)／角田峰治(2011.4～)／安野重幸(2014.7～)／広部正淑(2017.6～)／高田光規(2020.12～)／小倉健一(2022.4～)／梅本一成(2023.4～)



エリア探訪

神の島と呼ばれる「竹生島」には、日本三大弁財天に数えられる宝厳寺などがあり信仰を集めています。富田町の「富田人形会館」では、伝統を誇る人形浄瑠璃が定期公演されます。細江町の「安楽寺」は足利尊氏とゆかりがある寺で、また虎姫町の「五村別院」は五村御坊とも呼ばれ湖北の真宗門徒ゆかりの寺です。



竹生島

やわた中山支店

店舗コード:013 開設:1992(平成4)年3月
所在地:長浜市八幡中山町146番地 TEL:0749-65-1211

皆様から頼りにされる店舗づくりに邁進

当店は各支店(三ツ矢・七条・神照・宮司)の営業区域から一部を移管し、12番目の店舗として開設されました。当金庫内で最も少人数で運営する支店ですが、八幡中山町を始め6町にわたる営業エリアでは、風の街キャンシティ2が

開業するなど、新たな商業地として発展を続けています。

当店では「face to face」の営業をモットーに、職員が一丸となり地域の金融機関として皆様に頼りにされる店舗づくりを目指しています。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1980. 4○長浜市立長浜北小学校が移転し開校
1992. 3●やわた中山支店開設
2000.11●支店預金量50億円達成
2020. 4●支店預金量100億円達成
2022. 3●支店開設30周年

歴代支店長

野中孝雄(1992.3～)／山崎久徳(1995.2～)／大谷隆(1997.5～)／杉野榮一(1999.2～)／勝木一郎(2001.4～)／宮竹茂樹(2002.2～)／赤堀美智雄(2004.7～)／尾木雄二(2007.6～)／雨森則雄(2008.7～)／井上豊治(2009.5～)／平居孝太郎(2012.7～)／田邊勇次(2015.5～)／寺脇裕幸(2016.7～)／東野孝(2017.6～)／多賀昭弘(2019.7～)／梅本一成(2021.7～)／中居寛(2023.4～)



エリア探訪

かつては地場産業のちりめん製造が盛んな地域でしたが、幹線道路の整備とともに大型スーパーや外食産業、家電量販店、ホームセンターなどが出店する商業地に変貌しました。北陸自動車道長浜ICもあり他府県へのアクセスも便利です、長浜市のもう一つの中心地となっています。



川崎交差点から見た商業地の風景

浅井支店

店舗コード:014 開設:1993(平成5)年4月
所在地:長浜市内保町732番地1 TEL:0749-74-1131

地域の繁栄に貢献していく使命と誇り

営業エリアは、旧浅井町全域と旧虎姫町の三川、宮部にまたがり広域です。地域の主要産業であった製材や林業は衰退し、もぐさ事業も大手2社に集中してきました。現在の地域経済は、あらゆる業種で小規模企業や個人事業者が大半を

占め地域が支えられています。

他行が撤退・規模縮小するなか、当店の存在が地域の繁栄に貢献するとの誇りを持ち、切磋琢磨しながら地域金融機関の使命を果たしていきます。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

1993. 4●浅井支店開設
1996. 9○五先賢の館開館(北野町)
2000. 9○第1回あざい(現・長浜あざい)あっぱれ祭り開催
2004. 4○健康パークあざいオープン(野瀬町)
2006. 2○浅井町が長浜市と合併
2008.12●支店預金量100億円達成
2010. 1○虎姫町が長浜市と合併
2011. 1○江・浅井三姉妹博覧会で「江のドラマ館」開催
2017. 3○道の駅「浅井三姉妹の郷」開駅
2022. 8●当店底地購入
2023. 4●支店開設30周年、預金量200億円達成

歴代支店長

安賀正男(1993.4～)／野村重喜(1996.3～)／中川孫彦(1998.4～)／安藤暁(2000.4～)／勝木一郎(2002.2～)／土田保夫(2003.6～)／矢野三知夫(2005.7～)／池野弘和(2007.6～)／宇治原隆(2009.5～)／三家重人(2011.4～)／井上豊治(2012.7～)／平居孝太郎(2015.5～)／伏木貴英(2018.7～)／赤井靖(2020.7～)／富田進一朗(2021.7～)



エリア探訪

9月に開催される「長浜あざいあっぱれ祭り」は、あざい文化スポーツ公園を舞台としたよさこいスタイルのお祭です。22回目となる2023年は、25のよさこいチームが素晴らしい演舞を披露し3万5,000人の観客を沸かせました。当店職員も毎年ボランティア参加し、中学生や商工会員と共に盛り上げています。



長浜あざいあっぱれ祭り

近江支店

店舗コード:016 開設:1998(平成10)年10月
所在地:滋賀県米原市宇賀野21番地14 TEL:0749-52-8181

若さを源に成長する地域の未来に貢献

当店は旧近江町の全域を営業エリアとしています。店舗周辺では近年、複数の商業施設が新規出店したほか宅地分譲開発なども進み、若年世帯が増加するなど発展が続いています。また利便性の良さからATM利用者が非常に多いこ

とも特徴的です。

当店は職員の半数以上が20代以下という若さあふれる店舗です。経験の浅い部分は先輩がフォローしながら、地域の未来に貢献していきます。



支店と地域のあゆみ ○:地域事項

- 1998.10 ● 近江支店開設
- 2005.10 ○ 近江町が米原市と合併
- 2008. 3 ● 支店預金量100億円達成
- 2018.10 ● 20周年記念感謝運動実施
- 2019. 4 ● 支店預金量150億円達成
- 2022. 6 ● 店舗外壁改修工事によるリニューアル

歴代支店長

福永礎(1998.10～)／北川直之(2001.4～)／金森亮(2003.6～)／宮竹茂樹(2004.7～)／伊吹誠(2006.6～)／日比野圭宏(2009.5～)／神谷正彦(2010.7～)／広部正淑(2013.5～)／田中伸一(2016.7～)／前田正隆(2018.7～)／山崎剛司(2019.7～)／居林秀久(2021.7～)



エリア探訪

琵琶湖岸の道の駅「近江母の郷」は、野菜や花のほか地域の特産品が販売され賑わっています。“母の郷”の命名は、歴史に残る女性（山内一豊の妻千代など）を輩出したことや、特産品の近江真綿が女性の手で製造された伝統に由来すること。また公家奴振りで知られる福田寺（長沢御坊）などの名所もあります。



福田寺

業務本部



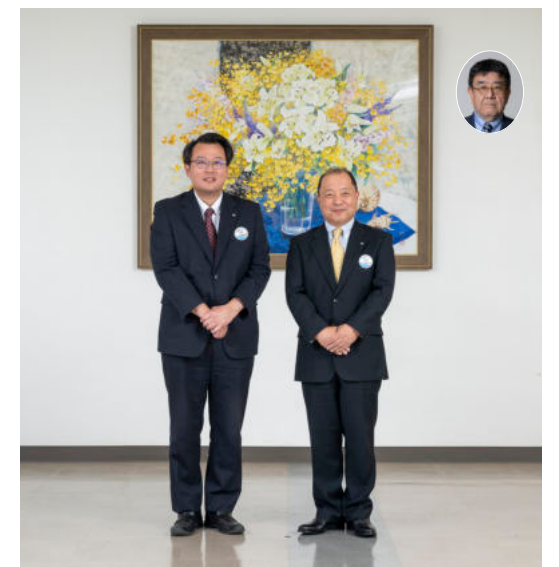
融資本部



内部統制部門



リスク管理室



監査室



経営企画部



資金運用部



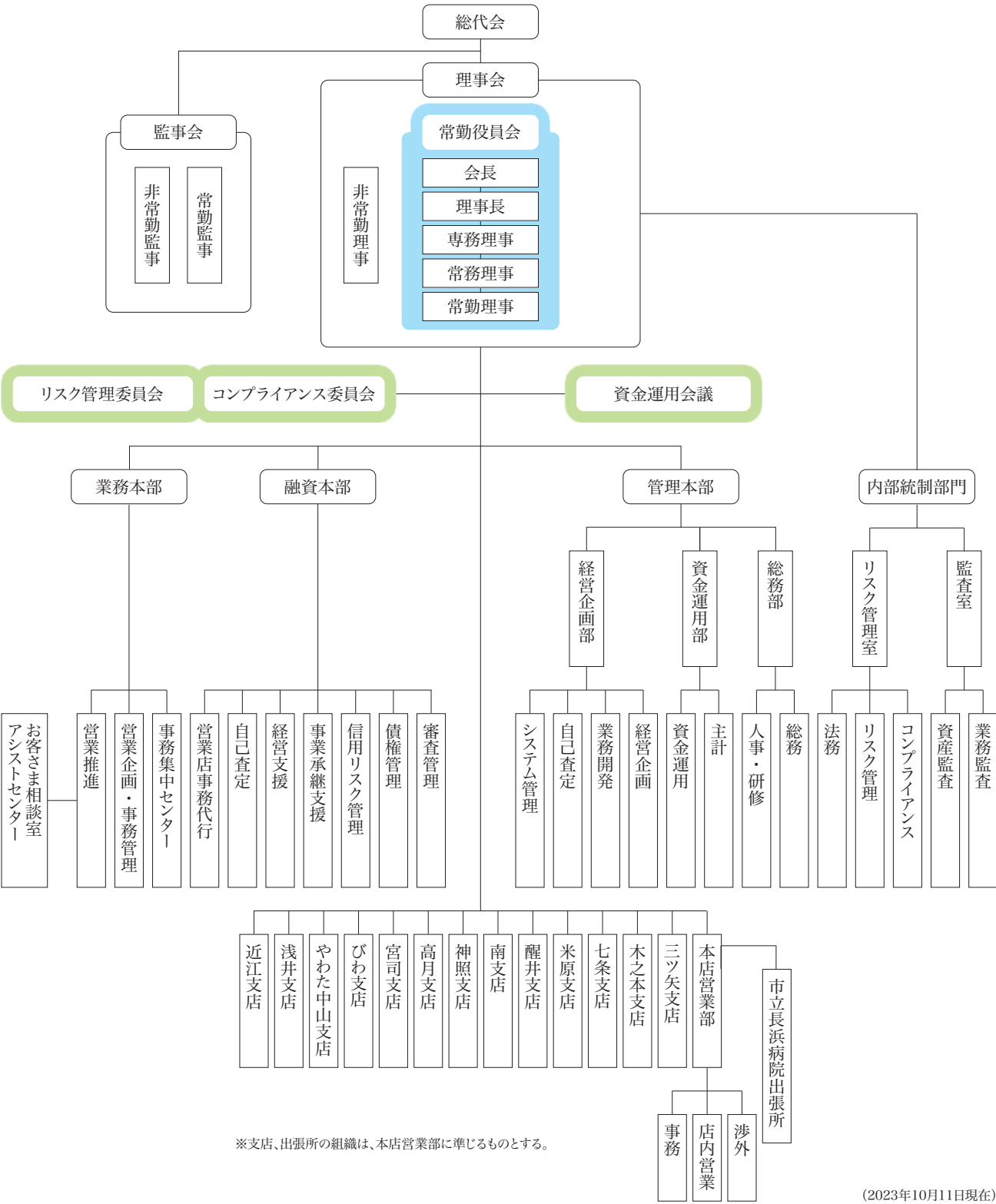
総務部

資料

概要／組織図

名 称	長浜信用金庫	会 員 数	11,676人
所 在 地	〒526-8686 滋賀県長浜市元浜町3番3号 TEL. 0749-63-3321	出 資 金	786百万円
創 業	1923(大正12)年10月11日	預 金 積 金	3,968億円
理 事 長	田邊 功	貸 出 金	1,441億円
		店 舗 数	15店舗
		役 職 員 数	205人

(2024年3月31日現在)



(2023年10月11日現在)

歴代組合長・理事長 (2023年10月11日現在)



吉田 作平
初代
1923(大正12)年8月21日～
1925(大正14)年4月11日



日比 久太郎
第2代
1925(大正14)年6月1日～
1936(昭和11)年3月5日



西島 庄五郎
第3代
1936(昭和11)年3月23日～
1967(昭和42)年8月8日



北村 常三
第4代
1967(昭和42)年9月8日～
1985(昭和60)年4月27日



森 忠雄
第5代
1985(昭和60)年4月27日～
1998(平成10)年6月19日



西島 喜紹
第6代
1998(平成10)年6月19日～
2014(平成26)年6月13日



横田 幸造
第7代
2014(平成26)年6月13日～
2018(平成30)年6月14日



田邊 功
第8代
2018(平成30)年6月14日～



理事長
田邊 功



専務理事
池野 弘和



常務理事
藤居 正一



常勤理事
今村 進一



常勤理事
神谷 正彦



常勤理事
田邊 勇次



常勤理事
安野 重幸



常勤理事
三家 重人



常勤理事
宮川 恒人



常勤監事
森 秀行



監事(員外)
竹内 寛



監事(員外)
本庄 秀樹



理事会



監事会

役員任期一覧

相談役 | 会長 | 理事長・組合長 | 理事 | 監事

[illegible]

役員任期一覧

相談役 | 会長 | 理事長・組合長 | 理事 | 監事

氏名	年	1900年代								2000年代																															
		'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23								
森 忠雄		6.19							6.24																																
飯田 興史雄		4.28																																							
石居 良造		6.19																																							
西島 喜紹		6.19												6.13										6.14																	
文室 定次郎	3.31																																								
岩脇 俊雄		6.20																																							
吉田 精一		4.28																																							
田中 達雄	4.27	6.24																																							
清水 善之		6.18																																							
沢田 貞三	4.27	6.19																																							
伊夫貴 直彰	4.27	6.18																																							
横田 幸造						4.28	6.13															6.14				6.11		6.10													
川瀬 九平					4.28	6.25																																			
武田 充弘					4.28	6.16					6.24																														
西川 静雄					4.28	6.19																																			
山田 敏美						6.19	6.18																																		
中澤 正実									6.16	6.24		6.23																													
平居 貞夫										6.19	6.13																														
海原 旦										6.19	6.18										6.15																				
浅山 芳久										6.19	6.23																														
山崎 英士											6.24	6.27																													
伊部 明弥											6.24	6.20																													
安賀 正男													6.23	6.15																											
野中 孝雄													6.23	6.15																											
田邊 功																6.20	6.14																								
浅井 浩二																6.20	6.11																								
山崎 久徳																6.20	6.16																								
小西 敏一																6.20	6.15																								
竹内 寛																	6.23	6.12																							
増永 賢一																			11.16	6.16					6.14																
山崎 俊男																					6.15	6.11																			
竹中 滋祥																					6.15	6.12																			
青井 一彦																					6.15	6.16					6.14														
中島 宣夫																							6.13	6.10																	
池野 弘和																									7.21	6.11															
北川 直之																									7.21	6.11															
尾木 雄二																											6.14	6.11													
下村 裕彦																											6.14	6.11													
藤居 正一																											6.14	6.11													
今村 進一																													6.12	6.11											
神谷 正彦																															6.11										
田邊 勇次																															6.11										
安野 重幸																															6.11										
三家 重人																															6.11										
森 秀行																															6.11										
宮川 恒人																																6.10									
		'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23								

預金積金・貸出金の推移

年月	預金・積金(千円)	貸出金(千円)
1923(大12)年12月	67	38
1924(大13)年12月	232	158
1925(大14)年12月	452	236
1926(昭 元)年12月	748	316
1927(昭 2)年12月	599	354
1928(昭 3)年12月	850	504
1929(昭 4)年12月	960	608
1930(昭 5)年12月	1,098	657
1931(昭 6)年12月	1,165	693
1932(昭 7)年12月	1,205	712
1933(昭 8)年12月	1,364	726
1934(昭 9)年12月	1,452	674
1935(昭10)年12月	1,591	660
1936(昭11)年12月	1,579	596
1937(昭12)年12月	1,703	552
1938(昭13)年12月	2,055	531
1939(昭14)年12月	2,635	550
1940(昭15)年12月	3,204	500
1941(昭16)年12月	3,675	394
1942(昭17)年12月	4,469	409
1943(昭18)年 3月	4,799	384
1944(昭19)年 3月	6,208	450
1945(昭20)年 3月	8,592	526
1946(昭21)年 8月	12,654	449
1947(昭22)年 3月	11,225	216
1948(昭23)年 3月	18,546	4,385
1949(昭24)年 3月	34,939	18,136
1950(昭25)年 3月	50,751	26,635
1951(昭26)年 3月	66,634	43,386
1952(昭27)年 3月	115,144	64,588
1953(昭28)年 3月	180,395	107,741
1954(昭29)年 3月	225,223	153,310
1955(昭30)年 3月	301,378	186,698
1956(昭31)年 3月	374,545	221,416
1957(昭32)年 3月	507,018	269,181
1958(昭33)年 3月	634,763	372,406
1959(昭34)年 3月	794,557	471,423
1960(昭35)年 3月	1,005,730	633,995
1961(昭36)年 3月	1,315,848	864,775
1962(昭37)年 3月	1,713,878	1,175,055
1963(昭38)年 3月	2,348,620	1,623,472
1964(昭39)年 3月	3,066,803	2,375,400
1965(昭40)年 3月	3,804,148	2,808,688
1966(昭41)年 3月	4,655,488	3,564,519
1967(昭42)年 3月	5,708,458	4,413,862
1968(昭43)年 3月	7,005,108	5,559,457
1969(昭44)年 3月	8,374,311	6,483,662
1970(昭45)年 3月	10,341,120	8,447,941
1971(昭46)年 3月	11,717,901	9,971,307
1972(昭47)年 3月	14,008,433	10,935,840
1973(昭48)年 3月	18,026,902	13,954,364

年月	預金・積金(千円)	貸出金(千円)
1974(昭49)年 3月	25,141,374	19,774,237
1975(昭50)年 3月	29,036,564	21,804,753
1976(昭51)年 3月	33,514,607	25,312,957
1977(昭52)年 3月	38,152,519	29,769,780
1978(昭53)年 3月	42,730,070	32,275,688
1979(昭54)年 3月	50,341,953	36,231,592
1980(昭55)年 3月	56,235,608	40,320,997
1981(昭56)年 3月	62,527,315	43,874,360
1982(昭57)年 3月	68,195,383	44,977,261
1983(昭58)年 3月	73,355,828	48,701,162
1984(昭59)年 3月	82,017,694	54,357,532
1985(昭60)年 3月	87,123,224	55,810,514
1986(昭61)年 3月	92,615,967	58,470,146
1987(昭62)年 3月	100,538,701	60,599,481
1988(昭63)年 3月	105,856,681	62,678,786
1989(平元)年 3月	113,889,855	66,358,698
1990(平 2)年 3月	126,150,620	74,580,598
1991(平 3)年 3月	139,014,077	77,779,658
1992(平 4)年 3月	152,144,237	86,406,411
1993(平 5)年 3月	155,731,559	91,065,898
1994(平 6)年 3月	163,938,079	95,875,221
1995(平 7)年 3月	174,263,480	99,753,013
1996(平 8)年 3月	178,160,403	105,060,448
1997(平 9)年 3月	183,391,733	105,096,762
1998(平10)年 3月	186,305,625	105,990,392
1999(平11)年 3月	191,000,981	111,301,395
2000(平12)年 3月	195,062,110	110,012,660
2001(平13)年 3月	203,378,493	111,572,410
2002(平14)年 3月	206,996,289	113,163,001
2003(平15)年 3月	209,791,599	112,164,818
2004(平16)年 3月	212,141,676	108,626,594
2005(平17)年 3月	215,737,037	102,984,984
2006(平18)年 3月	219,566,001	102,304,111
2007(平19)年 3月	223,579,960	101,741,459
2008(平20)年 3月	225,028,224	103,464,311
2009(平21)年 3月	228,175,594	105,804,566
2010(平22)年 3月	231,191,216	105,978,124
2011(平23)年 3月	238,878,384	106,008,244
2012(平24)年 3月	244,702,965	106,706,866
2013(平25)年 3月	250,514,636	104,151,159
2014(平26)年 3月	258,301,163	107,220,994
2015(平27)年 3月	263,893,442	110,626,208
2016(平28)年 3月	273,573,838	113,700,432
2017(平29)年 3月	281,679,476	118,646,286
2018(平30)年 3月	292,295,061	121,378,471
2019(平31)年 3月	309,429,601	124,139,887
2020(令 2)年 3月	325,648,594	127,223,794
2021(令 3)年 3月	340,824,282	134,963,472
2022(令 4)年 3月	369,990,589	137,766,438
2023(令 5)年 3月	382,442,466	140,732,253
2024(令 6)年 3月	396,843,329	144,139,361

当期利益・会員勘定の推移

年月	当期利益(千円)	会員勘定(千円)
1923(大12)年12月	0	231
1924(大13)年12月	6	239
1925(大14)年12月	9	245
1926(昭 元)年12月	11	249
1927(昭 2)年12月	0	239
1928(昭 3)年12月	-67	237
1929(昭 4)年12月	10	230
1930(昭 5)年12月	10	230
1931(昭 6)年12月	13	230
1932(昭 7)年12月	15	230
1933(昭 8)年12月	14	235
1934(昭 9)年12月	9	242
1935(昭10)年12月	7	243
1936(昭11)年12月	9	245
1937(昭12)年12月	7	246
1938(昭13)年12月	10	250
1939(昭14)年12月	9	253
1940(昭15)年12月	10	256
1941(昭16)年12月	13	263
1942(昭17)年12月	17	272
1943(昭18)年 3月	2	264
1944(昭19)年 3月	13	277
1945(昭20)年 3月	24	291
1946(昭21)年 3月	7	286
1946(昭21)年 8月	-81	273
1948(昭23)年 3月	50	231
1949(昭24)年 3月	91	559
1950(昭25)年 3月	410	2,660
1951(昭26)年 3月	903	3,882
1952(昭27)年 3月	1,092	8,363
1953(昭28)年 3月	2,595	10,563
1954(昭29)年 3月	3,398	18,103
1955(昭30)年 3月	5,382	23,991
1956(昭31)年 3月	7,515	28,603
1957(昭32)年 3月	6,026	30,831
1958(昭33)年 3月	9,882	30,215
1959(昭34)年 3月	12,621	53,395
1960(昭35)年 3月	18,020	61,028
1961(昭36)年 3月	26,047	71,598
1962(昭37)年 3月	49,224	86,366
1963(昭38)年 3月	67,667	114,813
1964(昭39)年 3月	69,911	157,649
1965(昭40)年 3月	74,303	275,912
1966(昭41)年 3月	47,213	320,196
1967(昭42)年 3月	77,817	396,675
1968(昭43)年 3月	87,748	488,960
1969(昭44)年 3月	131,293	629,580
1970(昭45)年 3月	151,005	798,558
1971(昭46)年 3月	180,532	981,602
1972(昭47)年 3月	186,530	1,170,276
1973(昭48)年 3月	136,382	1,309,393

年月	当期利益(千円)	会員勘定(千円)
1974(昭49)年 3月	153,088	1,468,178
1975(昭50)年 3月	309,895	1,808,919
1976(昭51)年 3月	349,367	2,182,276
1977(昭52)年 3月	472,352	2,680,495
1978(昭53)年 3月	501,818	3,184,124
1979(昭54)年 3月	466,433	3,640,153
1980(昭55)年 3月	373,683	4,001,734
1981(昭56)年 3月	476,569	4,465,857
1982(昭57)年 3月	324,380	4,775,831
1983(昭58)年 3月	332,360	5,091,743
1984(昭59)年 3月	526,743	5,604,591
1985(昭60)年 3月	486,079	6,055,207
1986(昭61)年 3月	438,663	6,464,701
1987(昭62)年 3月	475,464	6,910,639
1988(昭63)年 3月	425,209	7,298,402
1989(平 元)年 3月	498,620	7,773,184
1990(平 2)年 3月	575,256	8,322,110
1991(平 3)年 3月	738,488	9,028,924
1992(平 4)年 3月	703,025	9,700,970
1993(平 5)年 3月	603,012	10,270,620
1994(平 6)年 3月	530,067	10,739,558
1995(平 7)年 3月	625,405	11,299,925
1996(平 8)年 3月	645,249	11,892,876
1997(平 9)年 3月	386,997	12,167,227
1998(平10)年 3月	382,845	12,340,362
1999(平11)年 3月	545,710	12,841,624
2000(平12)年 3月	628,131	14,056,634
2001(平13)年 3月	641,839	14,657,712
2002(平14)年 3月	643,477	16,172,257
2003(平15)年 3月	413,425	16,307,091
2004(平16)年 3月	507,678	15,861,912
2005(平17)年 3月	605,340	17,308,733
2006(平18)年 3月	538,627	15,739,113
2007(平19)年 3月	645,577	17,772,907
2008(平20)年 3月	641,984	18,386,168
2009(平21)年 3月	360,683	18,719,072
2010(平22)年 3月	677,922	19,368,094
2011(平23)年 3月	424,650	19,762,703
2012(平24)年 3月	397,235	20,128,872
2013(平25)年 3月	696,684	20,794,473
2014(平26)年 3月	1,114,619	21,879,996
2015(平27)年 3月	1,506,654	23,367,769
2016(平28)年 3月	1,568,580	24,906,162
2017(平29)年 3月	1,534,179	26,449,429
2018(平30)年 3月	1,449,780	27,869,974
2019(平31)年 3月	1,510,894	29,350,596
2020(令 2)年 3月	1,374,519	30,693,805
2021(令 3)年 3月	1,888,868	32,553,358
2022(令 4)年 3月	2,099,073	34,621,157
2023(令 5)年 3月	2,035,605	36,625,394
2024(令 6)年 3月	1,806,811	38,400,807

会員数・役職員数の推移

年月	会員数(人)	役職員数(人)
1923(大12)年12月	1,522	
1924(大13)年12月	1,514	
1925(大14)年12月	1,469	
1926(昭 元)年12月	1,468	
1927(昭 2)年12月	1,452	
1928(昭 3)年12月	1,448	
1929(昭 4)年12月	1,460	
1930(昭 5)年12月	1,471	
1931(昭 6)年12月	1,475	
1932(昭 7)年12月	1,479	
1933(昭 8)年12月	1,465	
1934(昭 9)年12月	1,439	13
1935(昭10)年12月	1,437	13
1936(昭11)年12月	1,428	13
1937(昭12)年12月	1,422	13
1938(昭13)年12月	1,416	15
1939(昭14)年12月	1,401	16
1940(昭15)年12月	1,389	18
1941(昭16)年12月	1,377	18
1942(昭17)年12月	1,364	19
1943(昭18)年 3月	1,364	23
1944(昭19)年 3月	1,359	22
1945(昭20)年 3月	1,353	22
1946(昭21)年 3月	1,335	22
1946(昭21)年 8月	1,336	18
1948(昭23)年 3月	1,339	16
1949(昭24)年 3月	690	14
1950(昭25)年 3月	1,017	15
1951(昭26)年 3月	1,120	18
1952(昭27)年 3月	1,149	21
1953(昭28)年 3月	1,246	27
1954(昭29)年 3月	1,474	31
1955(昭30)年 3月	1,560	37
1956(昭31)年 3月	1,603	39
1957(昭32)年 3月	1,683	44
1958(昭33)年 3月	1,757	45
1959(昭34)年 3月	2,063	57
1960(昭35)年 3月	2,200	63
1961(昭36)年 3月	2,298	76
1962(昭37)年 3月	2,432	86
1963(昭38)年 3月	2,511	96
1964(昭39)年 3月	2,715	113
1965(昭40)年 3月	2,854	117
1966(昭41)年 3月	3,038	133
1967(昭42)年 3月	3,308	142
1968(昭43)年 3月	3,576	157
1969(昭44)年 3月	3,804	169
1970(昭45)年 3月	4,129	183
1971(昭46)年 3月	4,315	185
1972(昭47)年 3月	4,581	205
1973(昭48)年 3月	4,921	209

年月	会員数(人)	役職員数(人)
1974(昭49)年 3月	5,279	220
1975(昭50)年 3月	6,010	227
1976(昭51)年 3月	6,509	243
1977(昭52)年 3月	7,020	251
1978(昭53)年 3月	7,503	272
1979(昭54)年 3月	7,900	288
1980(昭55)年 3月	8,303	301
1981(昭56)年 3月	8,638	307
1982(昭57)年 3月	8,941	313
1983(昭58)年 3月	9,201	317
1984(昭59)年 3月	9,508	325
1985(昭60)年 3月	9,731	338
1986(昭61)年 3月	10,000	324
1987(昭62)年 3月	10,234	326
1988(昭63)年 3月	10,410	323
1989(平 元)年 3月	10,850	321
1990(平 2)年 3月	11,323	322
1991(平 3)年 3月	11,818	342
1992(平 4)年 3月	12,312	348
1993(平 5)年 3月	12,732	348
1994(平 6)年 3月	12,908	333
1995(平 7)年 3月	13,000	333
1996(平 8)年 3月	13,110	332
1997(平 9)年 3月	13,158	333
1998(平10)年 3月	13,147	319
1999(平11)年 3月	13,193	308
2000(平12)年 3月	13,197	294
2001(平13)年 3月	13,205	283
2002(平14)年 3月	13,222	277
2003(平15)年 3月	13,256	267
2004(平16)年 3月	13,287	260
2005(平17)年 3月	13,244	255
2006(平18)年 3月	13,159	244
2007(平19)年 3月	13,106	238
2008(平20)年 3月	13,037	238
2009(平21)年 3月	12,967	238
2010(平22)年 3月	12,850	236
2011(平23)年 3月	12,807	237
2012(平24)年 3月	12,780	231
2013(平25)年 3月	12,683	218
2014(平26)年 3月	12,613	226
2015(平27)年 3月	12,507	223
2016(平28)年 3月	12,458	228
2017(平29)年 3月	12,367	221
2018(平30)年 3月	12,358	214
2019(平31)年 3月	12,264	215
2020(令 2)年 3月	12,178	212
2021(令 3)年 3月	11,980	205
2022(令 4)年 3月	11,829	209
2023(令 5)年 3月	11,753	210
2024(令 6)年 3月	11,676	205

年 表

年	当金庫の出来事	地域・社会・業界の出来事
1923 (大12)	8.21 産業組合法による「有限責任長浜信用組合」として設立認可。 初代組合長に吉田作平長浜町長が就任 9.28 設立総会開催 10.11 長浜町錦64(現・長浜市大宮町7番14)にて事業開始	9 関東大震災発生 9 東京の銀行一部営業再開
1924 (大13)		4 長浜町開町350年記念祭が開かれる
1925 (大14)	6.15 第2代組合長に日比久太郎が就任 9. 9 市街地信用組合の認可を受ける	1 長浜町が市街地指定を受ける 5 普通選挙法公布
1926 (大15/昭和元)		1 大正天皇崩御、昭和に改元
1927 (昭和2)	5. 5 事務所を長浜市西本町4(現・元浜町2番9号)に移転	4 金融恐慌。近江銀行が休業し翌年5月に昭和銀行へ営業引継ぎ 2 第1回普通選挙実施
1928 (昭和3)	この年 近江銀行解散により預け金11万3,000円が切捨て。赤字6万7,000円計上	
1929 (昭和4)	10.11 三ツ矢出張所を長浜町大字三ツ矢245番地に開設	10 ニューヨーク株式市場大暴落、世界恐慌へ。日本へ波及(昭和恐慌)
1930 (昭和5)		10 12月にかけて地方銀行12行が休業
1931 (昭和6)		9 満州事変勃発
1932 (昭和7)		5 5・15事件起こる
1933 (昭和8)	この年 近江銀行預け金の切捨て損金補てん完了、剰余金4,700円余計上	3 日本、国際連盟を脱退
1934 (昭和9)		この年 東北地方大凶作、身売りなど続出
1935 (昭和10)		4 青年学校令公布
1936 (昭和11)	3.23 第3代組合長に西島庄五郎が就任	この年 商工組合中央金庫設立
1937 (昭和12)		7 盧溝橋事件勃発、日中全面戦争に突入
1938 (昭和13)		4 国家総動員法公布。軍需産業への転換進む
1939 (昭和14)		9 第2次世界大戦始まる
1940 (昭和15)		9 日独伊三国同盟調印
1941 (昭和16)		12 太平洋戦争勃発
1942 (昭和17)	この年 金融恐慌以降の借入金全額返済	4 金融統制団体令公布、施行
1943 (昭和18)	7.25 総代制の採用を決議、定款変更 8.20 市街地信用組合法による改組。名称を「長浜信用組合」に変更 この年 創立20周年を迎える。長浜統後奉公会に寄付、長浜国民学校児童に教科書寄贈	4 全国203番目の市制施行、長浜市誕生(人口41,655人) 4 市街地信用組合法施行 この年 学徒出陣。軍需会社への学徒動員開始
1944 (昭和19)	6.〜 国債貯金や国民貯蓄組合貯金の獲得に邁進 11.〜 男子就職制限禁止令の公布、女子職員採用	8 戦時非常金融対策要項発表 8 B29東京空爆、本土への空襲始まる
1945 (昭和20)		8 戦争終結の勅書放送。終戦
1946 (昭和21)	この年 福德定期貯金や無記名定期貯金を主とした救国貯蓄運動を展開	10 金融機関再建整備法公布
1947 (昭和22)		5 日本国憲法施行
1948 (昭和23)	4. 1 新勘定による経理スタート この年 出資金が実質ゼロに。従来の1口 20円を50円として出資加入運動を展開	12 GHQが経済安定9原則発表
1949 (昭和24)		7 中小企業等協同組合法施行
1950 (昭和25)	3. − 臨時総代会開催、定款変更(総代選挙規程の制定) 4. 1 中小企業等協同組合法による信用組合に改組	6 朝鮮戦争勃発、特需景気起こる
1951 (昭和26)	4. 1 三ツ矢出張所が支店昇格 10.20 信用金庫法による信用金庫に改組。「長浜信用金庫」と改称 10.22 三ツ矢支店を長浜市東三ツ矢14番地に移転 この年 観劇定期預金や観光積金を主力に預金の増強に努める	1 NHK、第1回紅白歌合戦ラジオ放送 6 信用金庫法施行 9 対日講和条約調印
1952 (昭和27)	3.31 預金量1億円達成 8.21 木之本支店を伊香郡木之本町大字木之本966番地に開設 この年 西島庄五郎理事長が緑綬褒章受章 地域の要請により陳情書を添え伊香郡一円での営業を申請	4 講和条約発効、日本の独立回復 6 第1回全国信用金庫大会開催 8 日本、IMFに加盟
1953 (昭和28)	6.15 営業地区を長浜市、坂田郡(一部)、東浅井郡、伊香郡へ拡大 10.11 創立30周年記念式典挙行、諸団体へ寄贈	2 NHKがテレビ本放送開始 8 金が15年ぶりに自由販売に
1954 (昭和29)	4. 5 三ツ矢支店を長浜市東三ツ矢南町140番地に移転 7.17 営業地区が湖北地域1市3郡に拡大	6 自衛隊発足 10 信用金庫振興預金制度発足
1955 (昭和30)	3.31 預金量3億円突破 4. − 内部体制強化へ向け職員採用方針決定 8.22 七条支店を長浜市七条町690番地に開設	6 初のアルミ貨幣(1円)発行 この年 神武景気始まる。電気洗濯機、冷蔵庫など家庭電化時代到来
1956 (昭和31)	4.28 木之本支店責任者の岩根岩太郎参事が理事に就任 12.24 本店を現所在地の長浜市東本町9(現・元浜町3番3号)に移転	7 経済白書が「もはや戦後ではない」と発表 12 日本の国連加盟が実現
1957 (昭和32)		4 全国信用金庫協会「信用金庫拡充3ヵ年計画」実施
1958 (昭和33)	9. 6 木之本支店を伊香郡木之本町大字木之本924番地に移転	12 1万円札発行
1959 (昭和34)	3.12 米原支店を坂田郡米原町米原544番地に開設	4 皇太子(現・上皇)ご成婚
1960 (昭和35)	3.31 預金量10億円達成 この年 西島庄五郎理事長が藍綬褒章受章	4 全国信用金庫協会「拡充第2次3ヵ年計画」を実施 12 政府、国民所得倍增計画発表
1961 (昭和36)		6 農業基本法公布

年	当金庫の出来事	地域・社会・業界の出来事
1962 (昭和37)	6. 1 米原支店を坂田郡米原町549番地に移転 この年 事務合理化のためパロース F250、E1100、テラズマシンなど導入	10 全国信用金庫協会「基本方向推進3ヵ年計画」を実施 この年 都市部で住宅難が深刻化
1963 (昭和38)	10.〜 創立40周年記念式挙行。長浜市民会館建設備品費として100万円寄付 12. − 預金量30億円達成	11 新1,000円札発行 この年 農村から都市への人口移動増加
1964 (昭和39)	3. 3 米原支店を母店とする醒井出張所を国鉄醒ヶ井駅前に開設	10 東海道新幹線開業、東京オリンピック開催
1965 (昭和40)	12.16 滋賀湖北福祉奉仕会を設立	この年 いざなぎ景気始まる。共稼ぎ世帯増加
1966 (昭和41)	9.30 預金量50億円達成 この年 西島庄五郎理事長が勲五等双光旭日章受章	この年 日本の総人口1億人突破。3C(カラーテレビ・カー・クーラー)が新三種の神器に
1967 (昭和42)	8. 8 西島庄五郎理事長逝去。17日に長浜市と合同葬 9. 8 第4代理事長に北村常三が就任 この年 西島庄五郎理事長、長浜市功労者に選ばれる	6 国内の自動車保有台数1,000万台突破 8 公害対策基本法公布 この年 農業就業人口が20%を割る
1968 (昭和43)	3.31 預金量70億円達成 11.25 三ツ矢支店を現所在地の長浜市三ツ矢元町8番26号に移転	6 金融二法の制定により信用金庫法一部改正 この年 日本のGNP(国民総生産)が米国に次いで第2位となる
1969 (昭和44)	3.17 醒井出張所を坂田郡米原町大字醒井612番地の7に移転 4. 1 躍進5ヵ年計画スタート 12.31 預金量100億円達成 この年 電算機導入委員会発足、システム設計スタート	5 東名高速道路全面開通(名神と結び東京―西宮間全通) 7 米アポロ11号、人類初の月面着陸
1970 (昭和45)	6. − 大阪万博旅行実施(6日間で1,650名参加) 10.23 湖西線開通を控え高島郡を営業地区とする	3 アジア初の万国博覧会、大阪で開催(入場者6,420万人) この年 マイカーが4世帯に1台に普及
1971 (昭和46)	7. 2 彦根市および犬上郡を営業地区とする	8 ドルショック、円が変動相場制へ移行 10 信用金庫20周年記念全国大会で「地域協調しんきん運動」提唱
1972 (昭和47)	2. 8 コンピュータ始動式。各営業店に端末機TC700配備 4. 1 地域協調しんきん運動開始 4.10 庫内報「雄飛」創刊 5. 1 本店新築のため飯店舗(旧本店)へ移転 8. 3 本店新築起工式 9. 1 醒井出張所が支店に昇格	2 冬季オリンピック札幌大会開幕 5 沖縄本土復帰、沖縄県発足 7 信用金庫業界資金量10兆円達成 9 日中国交正常化 この年 日本列島改造論で土地ブーム
1973 (昭和48)	4. 1 躍進第2次3ヵ年計画実施 8. 1 本店新築記念運動 8. − 預金量200億円達成 10.25 創立50周年記念式典・本店新築披露式、物故役職員追悼慰霊祭 11. 1 大阪ガス料金収納事務取扱開始 11. 5 新本店オープン、本店新築ご愛顧感謝デー(〜7日) 11.21 湖北1市12町へ社会福祉事業金500万円寄贈 12.24 日本銀行との当座取引開始	2 円が再び変動相場制に移行し急騰 10 第1次石油ショック この年 石油ショックで物不足、物価高騰
1974 (昭和49)	2. − ドルTC販売開始、本店に自動両替機導入 5. 1 電気料金収納事務取扱開始 6. − 当座勘定のオンライン集中処理実施 9. − テレファックス導入による本支店勘定処理開始 11.25 日本銀行蔵入代理店業務の取扱開始	3 大蔵省、信用金庫の卒業生金融の融資可能期間を延長 4 全信協、12万人ノーマス運動スタート 10 信用金庫に国家公務員、地方公務員の給与振込の取扱認められる この年 戦後初のマイナス成長、消費者物価24.5%上昇
1975 (昭和50)	3. − マイクロ・システム導入、手形現物集中処理体制整備 9. − 預金量300億円達成	4 しんきんネットキャッシュサービス開始 11 全国しんきん保証株式会社設立
1976 (昭和51)	3. 1 雇用保険給付金口座振込の取扱開始 3.11 国庫金振込(国家公務員の給与振込)取扱開始	4 信用金庫安定成長3ヵ年計画スタート 6 全国信用金庫の預金量20兆円を突破 10 全国信用金庫為替オンライン、データ通信システム稼動
1977 (昭和52)	8. 1 庫内報「雄飛」復刊 10. − 信金共同事務センター加盟。納税・普通預金のオンライン事務処理開始 11. 3 北村常三理事長が勲五等瑞宝章受章	この年 日本人の平均寿命世界一に
1978 (昭和53)	3. − 預金量400億円達成 5. 8 木之本支店を現所在地の伊香郡木之本町大字木之本(現・長浜市木之本町)1557番地に移転 9. − 自営オンライン用電算機(パロースB2800)設置 12.12 南支店を長浜市平方町892番地の3に開設 12. − CD導入およびカード発行の取扱開始	2 全信協「しんきん教育ローン」の取扱開始 5 新東京国際空港(成田空港)開港 8 日中平和友好条約調印 12 全信協「小口融資制度(応急ローン)」の取扱開始
1979 (昭和54)	3. − 預金量500億円達成 4. 1 第2次安定成長3ヵ年計画スタート 8. − オンライン照会業務の取扱開始 11.26 支店に最初のCD設置 12. 3 醒井支店を坂田郡米原町醒井560番地に移転	1 第2次石油ショック 6 東京サミット(先進国首脳会議)開催 8 信用金庫給与振込システム導入
1980 (昭和55)	10.20 七条支店を現所在地の長浜市七条町字東三反田447番地の1に移転 この年 長浜城天守閣建設資金として長浜市へ滋賀湖北福祉奉仕会より1,000万円寄贈	4 北陸自動車道 米原―敦賀間開通 11 158金庫でCD・ATMオンライン提携開始

年 表

年	当金庫の出来事	地域・社会・業界の出来事
1981 (昭56)	3. 7 職員による交通死亡事故発生 3. 9 市立長浜病院に初の店外CD設置 4. - ベスト預金の取扱開始 6. 1 しんきんVISAカードの取扱開始 6. - 満期月指定預金の取扱開始 9.10 神照支店を長浜市神照町696番地の3に開設 10.27 長浜市役所に店外ATM設置 この年 長浜城歴史博物館建設資金として長浜市へ滋賀湖北福祉奉仕会より500万円寄贈	3 神戸ポートアイランド博覧会(ポートピア'81)開幕 この年 宅配便が郵便小包の取扱数を抜く
1982 (昭57)	1.12 ながしん交通安全を推進する会設立 5. 9 両替商業務開始 7.15 金売買業務の取扱開始 7. - 七条支店、醒井支店にCD設置 9. - 財形期日指定定期預金の取扱開始 10. 1 滋賀県年金住宅福祉協会業務の取扱開始 11. - エール積金の取扱開始	3 信用金庫法施行令改正 4 信用金庫独自性発揮3ヵ年計画スタート 4 500円硬貨発行 10 しんきん保証基金、しんきんスピードローン保証の取扱開始
1983 (昭58)	5. - 両替商業務の取扱開始 6. 1 国債等窓販業務の取扱開始 7. - 米原支店にCD設置、全店CD設置完了 10.22 創立60周年記念式典举行 11. - 日本銀行国債代理店業務の取扱開始	3 しんきんネットキャッシュサービス網完成 4 長浜城(長浜市長浜城歴史博物館)オープン 4 長浜出世まつり開催(～5/8) 8 金融機関、第2土曜日休日を一斉実施
1984 (昭59)	2. 1 フタバヤ長浜店に店外ATM設置 4.24 高月支店を現所在地の長浜市高月町高月598番地に開設 10.15 宮司支店を現所在地の長浜市字前田宮司町913番地1に開設	11 15年ぶりに1万円、5,000円、1,000円の新札発行 この年 生活程度を「中流」と考える人が90%に
1985 (昭60)	3.20 伊香病院組合立湖北総合病院(現・長浜市立湖北病院)に店外ATM設置 3. - 市場金利連動型預金の取扱開始 4. 1 金融自由化対応3ヵ年計画スタート 4.27 第5代理事長に森忠雄が就任 5. - 職能資格制度導入専門委員会発足 7. - 勘定系事務処理を信金・大阪共同事務センターへ移行	2 しんきん情報システムセンター設立 3 科学万博つくば'85開幕 4 信用金庫金融自由化対応3ヵ年計画を実施 4 公社民営化によりNTT、JT(日本たばこ産業)発足 12 全国信用金庫預金量50兆円突破
1986 (昭61)	6. - 大口定期預金の取扱開始 11.17 米原支店を現所在地の坂田郡米原町(現・米原市)下多良一丁目100番地に移転、米原支店 中町出張所開設(店外ATM)	4 男女雇用機会均等法施行 11 信金オンライン提携システムをしんきん情報システムセンターに移管 この年 都心の地価高騰、郊外へ波及。急激な円高・ドル安
1987 (昭62)	3.31 千成運動で預金量1,000億円達成 6.15 カードローンの取扱開始 10.31 第1回芸術版楽市楽座(アート・イン・ナガハマ)に協賛、ボランティア参加(以降、継続)	4 国鉄分割民営化、JR発足 10 ニューヨーク株式市場大暴落(ブラック・マンデー)
1988 (昭63)	3.31 長浜楽市に店外ATM設置 5. - 第3次オンラインシステム稼働 8. 8 滋賀銀行とのCD相互利用開始	1 全信協、信用金庫のディスクロージャー統一開示基準を制定 3 東京ドーム球場開場 4 信用金庫第2次金融自由化対応3ヵ年計画スタート
1989 (昭64/平成元)	3.29 西島庄五郎翁胸像除幕式 6. 5 スーパーMMC (市場金利連動型定期預金)発売 7. 1 資本参加した黒壁スクエアオープン	1 昭和天皇崩御、平成に改元 2 金融機関、完全週休2日制実施 4 3%の消費税導入
1990 (平成2)	1. 4 アンサーバンキングサービスの取扱開始 2. 1 近畿7労働金庫とのCD相互利用開始 6. 1 ATM振込サービスの取扱開始 7.16 都銀・地銀とのCD相互利用開始 10. 1 長浜地方卸売市場に店外ATM設置 10. 1 「スーパーウイングクラブ」発足	3 大阪で国際花と緑の博覧会開幕 7 信用金庫と都市銀行・地方銀行のCDオンライン提携スタート
1991 (平成3)	3.25 びわ支店を東浅井郡びわ町大字曾根(現・長浜市曾根町)1284番地1に開設 4. 1 新3ヵ年計画ながしんHOP21スタート 10. 1 米原・高月支店で両替商業務の取扱開始 10. 5 ウイングイベント「森高千里元気印コンサート」(以降、イベントを各年開催) 12. - 預金量1,500億円達成	1 湾岸戦争勃発 4 全信協「長期経営計画しんきんHOP21」実施 9 経企庁、いざなぎ景気を超えたと発表
1992 (平成4)	2.17 サンデーバンキング開始 3.25 やわた中山支店を長浜市八幡中山町146番地に開設 4. - 新パッケージ商品「ザ・ウイング」発売 11. - ハンディ端末機導入	6 地球環境サミット初開催(リオ宣言採択) 9 学校週5日制スタート

年	当金庫の出来事	地域・社会・業界の出来事
1993 (平成5)	4. 1 創立70周年記念キャンペーン 4. 1 スーパー積金「貯まる君」発売 4.21 浅井支店を東浅井郡浅井町大字内保(現・長浜市内保町)732番地1に開設 5.23 経済講演会開催(講師・加藤寛氏) 6.13 長浜信用金庫理事長杯争奪少年野球大会協賛(～7月11日) 10. 3 文化講演会開催(講師・櫻井よしこ氏) 11. 3 創立70周年記念式典举行 この年 びわこ長浜ソーデーマーチへの協賛、湖北地区親善ゲートボール大会への協賛を開始。以降、毎年継続	6 徳仁皇太子殿下・雅子さま(現・天皇皇后両陛下)ご成婚 12 全国信用金庫の預金量90兆円達成 この年 長浜市制50周年
1994 (平成6)	1.30 ワボウ電子株式会社に店外ATM設置 4. 1 社会福祉・医療事業団の業務取扱開始 4. 1 3ヵ年計画「ながしんSTEP21」スタート 4. 1 自動振替元受システム稼働 5. 2 「アシストカード」登場 5.28 経済講演会開催(講師・広瀬嘉夫氏) 11. 3 森忠雄理事長が黄綬褒章受章	2 しんきん信託銀行設立 3 全信協、パソコン通信しんきんふれ愛ネットスタート 6 米NY外為市場で初の1ドル=100円突破 7 全国信用金庫の会員数8,000万人突破 9 関西国際空港開港 11 全国の信用金庫店舗数が8,500店達成
1995 (平成7)	2.13 「ラッキーエンゼル」発売 6.10 経済講演会開催(講師・俵孝太郎氏) 10. 8 文化講演会開催(講師・石井苗子氏) 11. 1 余呉町役場前に店外ATM設置 11.20 「ドリームエンゼル」発売 11. - グランドウイング年金サークル発足	1 阪神・淡路大震災発生 3 地下鉄サリン事件発生 4 東京外為市場 1ドル=79.75円の戦後最高値 8 戦後50年
1996 (平成8)	3.11 懸賞金付定期預金「秀吉」発売 5. 1 本店営業部 市立長浜病院出張所開設、店外ATM設置 6. 1 経済講演会開催(講師・高野孟氏) 10. 1 「ほのぼのロダン」登場 10. 8 長浜キャノン株式会社に店外ATM設置 10.21 湖北町役場に店外ATM設置 11.15 アル・プラザ長浜店に店外ATM設置 11.16 文化講演会開催(講師・野際陽子氏)	4 携帯電話が1,000万台突破 4 北近江秀吉博覧会開催(～11/30) 6 信用金庫業界、「信用金庫の日」で初のキャンペーン展開 11 全信協、「信用金庫社会貢献賞」の創設決定
1997 (平成9)	4. 1 3ヵ年計画「しんきんJUMP21」スタート 6. 7 経済講演会開催(講師・森田実氏) 8. 1 山東町役場に店外ATM設置 11.15 文化講演会開催(講師・田嶋陽子氏)	4 消費税率5%に引上げ 12 全国信用金庫預金量100兆円突破 この年 北海道拓殖銀行、山一證券など破たん
1998 (平成10)	3.26 きたのキャンズに店外ATM設置 6.19 第6代理事長に西島喜紹が就任 6.27 経済講演会開催(講師・渡部昇一氏) 9.19 文化講演会開催(講師・宮崎緑氏) 10.28 近江支店を坂田郡近江町大字宇賀野(現・米原市宇賀野)21番地14に開設 11. 8 やわた中山支店にながしんサンデープラザ開設	2 長野冬季オリンピック開幕 3 大手21行に公的資金を資本注入 6 金融監督庁発足
1999 (平成11)	1. - テレビCM開始 3.19 お取引先従業員接遇対応実践セミナー開催 3.29 郵貯とのATM提携開始 4. 1 CI導入 4.17 経済講演会開催(講師・植草一秀氏) 5.17 「ながしんウイング」が県下信金の共通商品となる 7. 1 本店営業部で投資信託の取扱開始 7.12 インターネットバンキングのサービス開始 9.20 iモードによるモバイルバンキングサービス開始 9.30 米原支店中町出張所閉鎖(店外ATM) 11. 6 文化講演会開催(講師・うつみ宮土理氏) 11.29 高月・びわ両支店で宝くじ業務の取扱開始 この年 長浜曳山博物館建設資金として滋賀湖北福祉奉仕会より1,000万円、当庫より500万円を寄贈	1 EU通貨統合、ユーロ発行 7 信用金庫のイメージソング「笑顔の贈り物」を決定 12 全信協、PR誌「Face to Face」(季刊)創刊 12 全信協しんきんふれ愛ネット中央情報を開設

年 表

年	当金庫の出来事	地域・社会・業界の出来事
2000 (平12)	3. 6 デビットカード取扱開始 4. 1 3ヵ年計画「ながしんフロンティア21」スタート 5.20 経済講演会開催(講師・中坊公平氏) 6.19 監査法人トーマツを会計監査人を選任 6.－ 預金量2,000億円達成 7.28 HOT SPAR山東井之口店・彦根鳥居本店にマルチメディアキオスク(MMK)設置 9.27 ジャスコ長浜店に店外ATM設置 10. 2 提携住宅ローン発売 10.14 文化講演会開催(講師・福島敦子氏) 11. 3 森忠雄相談役が勲五等瑞宝章受章 12. 4 しんきんゼロネットサービス開始 12. 8 ながしんテレホンバンキングサービス取扱開始	4 介護保険制度スタート 4 長浜曳山博物館開館 7 金融庁発足(金融監督庁と大蔵省金融企画局を統合) 12 BSデジタル放送開始
2001 (平13)	4. 2 長期火災保険「しんきんグッドすまいる」取扱開始 4.21 経済講演会(講師・樋口廣太郎氏) 4.24 お取引先従業員接遇対応実践セミナー 6.25 長浜赤十字病院に店外ATM設置 9.－ スペシャル定期預金「セレクト」発売 9.22 文化講演会開催(講師・田村亮子氏) 10. 6 函館・北東北への観光旅実施 12.17 住宅ローン債務返済支援保険「しんきんグッドサポート」取扱開始	1 中央省庁再編(1府22省庁から1府12省庁に再編) 3 政府、戦後初めて「緩やかなデフレ状態」と表明 3 日本銀行、デフレ対策で量的金融緩和政策を導入 9 米国同時多発テロ発生
2002 (平14)	3. 1 ながしん新福祉定期ゆとり発売 5.11 経済講演会(講師・薦信彦氏) 5.22 スマイ・るサークルの開設 9.21 文化講演会(講師・吉行和子氏) 9.－ 庫内報「雄飛」100号発刊 10. 1 生命保険窓口販売取扱開始 10.－ 個人年金保険の取扱開始 11. 1 スーパーウイングをリニューアル	4 ベイオフ制度導入 5 サッカーW杯日韓大会開幕 8 住民基本台帳ネットワーク稼動
2003 (平15)	1.16 きたのキャンサスATMを大垣共立銀行と共同化 2.－ 個人向け国債の募集開始 4. 1 3ヵ年計画「ながしんチャレンジ21」 4. 1 住宅ローンゼロ金利感覚体感キャンペーン開始 4. 1 創立80周年感謝企画「ザ・2倍!!」発売 5.31 創立80周年記念講演会開催(講師・原田和明氏) 7.24 滋賀湖北福祉奉仕会を「ながしん福祉奉仕会」に名称変更 9. 1 パーソナルローン「楽々」発売 9.20 「ながしんスマイ・るセミナー」開催 10. 1 iモード携帯電話向け「ウイングーアイ」サービス開始 10.17 文化講演会開催(講師・市田ひろみ氏) 10.20 事業ローン「楽縁」発売 11.12 創立80周年記念「ドリームキャンペーン80」発売 11.13 西島喜紹理事長が黄綬褒章受章 11.－ 創立80周年記念事業として1市12町へ福祉車両15台寄贈 12.24 法人インターネットバンキングサービスの取扱開始	3 新型肺炎SARSがアジア中心に広まる 3 金融庁、「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」を公表 4 日本郵政公社発足 4 長浜バイオ大学開学 4 日経平均株価 7,607円88銭とバブル崩壊以降最安値記録 6 信金中央金庫、自己資本比率6%を下回る信金に資本の予防注入決定 この年 大卒内定率過去最低、就職氷河期続く
2004 (平16)	1.23 新春経営革新セミナー開催 4.－ エコアクション21認証・登録取得 5.29 経済講演会開催(講師・福岡政行氏) 6.26 スマイ・るセミナー開催 7.15 経営革新セミナー開催 9.18 文化講演会開催(講師・京唄子氏) 10.－ 投資信託の取扱を全店に拡充 12.－ 決済用普通預金の取扱開始	4 国立大学が国立大学法人に 7 彦根・近江八幡信金合併、滋賀中央信用金庫に
2005 (平17)	2. 8 新春経営革新セミナー 4.23 ながしん講演会開催(講師・佐々淳行氏) 8. 1 長期固定金利型住宅ローン「フラット35」の取扱開始 8.24 インターネット24時間ローン仮審査申込受付サービス開始 10. 3 ながしんプラザ(日曜相談コーナー)開設(やわた中山支店) 11. 3 文化講演会開催(講師・渡辺えり子氏)	2 地球温暖化防止の「京都議定書」発効 3 「愛・地球博」が愛知県で閉幕 4 ベイオフ本格実施(普通預金にも拡大) この年 2月に山東町、伊吹町、米原町の3町が合併し米原市誕生。10月に近江町が合併し新たな米原市に

年	当金庫の出来事	地域・社会・業界の出来事
2006 (平18)	1.19 新春経営革新セミナー開催(講師・大竹美喜氏) 4. 3 セブン銀行とATM提携 7.11 経済講演会開催(講師・財部誠一氏) 10.14 J R長浜駅にインフォメーションディスプレイ寄贈(ながしん福祉奉仕会) 12.－ 営業エリアを滋賀一円に拡張	1 北近江一豊・千代博覧会開催(～12/4) 2 長浜市と浅井町、びわ町の1市2町が合併
2007 (平19)	2.15 経営革新セミナー開催 6.－ 金利優遇定期「燦々」発売 7.20 日本赤十字社より感謝状授与 7.－ カードローン「きやつする」の取扱開始 7.－ 経済講演会開催(講師・塩川正十郎氏) 7.－ 事業ローン「楽縁ワイド」の取扱開始 10.－ 新生活応援プランおめでとうキャンペーン 11.－ 経営革新セミナーを開催 11.－ 金利優遇定期預金「益梅」発売	6 米国でサブプライムローン問題が顕在化 10 郵政民営化
2008 (平20)	1.－ ながしん経営塾開塾 2.－ 観光旅行預金・観光旅行積金「優雅」発売 2.－ 全店窓口に携帯助聴器、簡易筆談器、「耳マーク」表示板設置 3.－ フリーローン「Myライフ」の取扱開始 3.－ 生体認証ICキャッシュカードの取扱開始 3.－ カードローン「セットプラン」の取扱開始 3.－ 資産運用セミナー開催(本店) 3.－ 全店窓口にコミュニケーションボード設置 4. 1 創業支援サポートローン「近江翔人」の取扱開始 6.16 懸賞金付定期預金「Goチャレンジ!」発売 6.29 創立85周年記念講演開催(講師・三宅久之氏) 10. 4 創立85周年記念文化講演会開催(講師・住田裕子氏) 11.13 西島喜紹理事長が旭日双光章受章 11.－ 「おめでとうキャンペーン」で「ニュー教育プラン」「ニューカーライフプラン」の金利優遇 11.－ 金利優遇定期預金「益梅」発売	4 後期高齢者医療制度開始 9 米国証券会社リーマン・ブラザーズ経営破たん、世界金融恐慌へ この年 非正規雇用の労働者数が過去最多に
2009 (平21)	2.－ しんきん携帯電子マネーチャージサービスの取扱開始 2.－ ネット口座振替受付サービスの取扱開始 2.－ 金融庁の外国為替検査 2.－ 西日本建設業保証株式会社の業務調査(本店営業部・三ツ矢支店・七条支店) 4.－ 3ヵ年計画「ながしん『つなぐ力』発揮2009」 6.15 金利上乘せ定期預金「きらめき」発売 7.22 経営革新セミナー開催(講師・河合保弘氏) 10.10 ながしん講演会開催(講師・青山繁晴氏) 10.14 金利優遇定期預金「お江」発売 10.－ エコカーキャンペーン 10.－ 教育資金応援キャンペーン 10.～ 長浜まちづくり株式会社設立、出資	4 業界の長期経営計画「しんきん『つなぐ力』発揮2009」スタート 5 裁判員制度がスタート 9 消費者庁発足
2010 (平22)	1.－ 長浜市がん検診受診率向上プロジェクト協定書調印 1.－ 預金保険機構検査 2.－ 滋賀県収納代理金融機関検査 6. 1 金利優遇定期預金「茶々」「初」「江」発売 6.15 エコチャレンジ積金発売 7.17 ながしん講演会開催(講師・勝谷誠彦氏) 9. 1 子育て応援普通預金口座「のびのびフォト通帳」発売 11. 2 経営革新セミナー開催(講師・平林都氏) 11.15 金利優遇定期預金「江go」発売 この年 全国信金PRコンクール入賞	1 旧長浜市、虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町の1市6町が合併し新・長浜市発足 1 日本年金機構発足
2011 (平23)	4. 1 フリーローン「モア・プラス」の取扱開始 4.15 江・浅井三姉妹博覧会記念定期預金「茶々」「初」「江」発売 7. 9 ながしん講演会開催(講師・岩見隆夫氏) 11.14 金利優遇定期預金「益梅」発売	1 江・浅井三姉妹博覧会開催(～12/4) 3 東日本大震災発生 7 地上デジタル放送に完全移行
2012 (平24)	1.17 経営革新セミナー開催(講師・木村勉氏) 6.15 金利優遇定期預金「ひまわり」発売 6.－ 預金量2,500億円達成 8. 4 ながしん講演会開催(講師・寺島実郎氏) 9.－ 認知症サポーター養成講座実施 9.－ 本店耐震補強工事完成 12. 3 経営革新セミナー開催	2 復興庁発足 4 業界の長期経営計画 第2次「しんきん『つなぐ力』発揮3ヵ年計画スタート 5 東京スカイツリーオープン

年	当金庫の出来事	地域・社会・業界の出来事
2013（平25）	2.－ 電子債権記録サービスの取扱開始 3.26 本店・本部でAED講習会 3.－ 経営革新等支援機関の資格取得 4.－ 日本銀行考査 6.15 ながしん講演会開催（講師・屋山太郎氏） 7. 1 退職金特別定期預金「顔プラチナ」発売 8.19 資産運用「ベアブラン」発売 8.－ 滋賀県警察とサイバー犯罪に対する対処協定締結 8.－ NISA口座開設キャンペーンを実施 9.25 経営革新セミナー開催 9. 2 教育資金一括贈与専用普通預金「まごころ」発売 10.－ 役職員物故者追弔法要 11. 1 創立90周年記念定期預金「盆梅」発売 11.－ 滋賀県内3信金、日本政策金融公庫と創業分野での連携開始 11.－ 臨時総代会開催 この年 本店耐震改修工事完成 創立90周年記念事業として、長浜市へ黒壁製壁時計、米原市へ福祉車両購入資金など寄贈・寄付 オリジナルキャラクター「ながたん」誕生	4 日本銀行「大規模な金融緩和（量的・質的金融緩和）」に転換 6 富士山が世界文化遺産に登録決定 9 初の特別警報を京都・滋賀・福井で発表（台風18号に伴う大雨）
2014（平26）	1.20 無担保住宅ローン、シニアライフローンの取扱開始 2.－ ホームページリニューアル。スマートフォン専用ホームページ開設 6. 2 金利優遇定期預金「官兵衛」発売 6.13 第7代理事長に横田幸造が就任 11.14 経営革新セミナー開催 11.17 相統定期預金発売 11.27 ながしん講演会開催（講師・櫻井よしこ氏） 12.－ 長浜市役所新庁舎に店外ATMオープン	4 消費税率5%から8%に引上げ 4 総人口の4人に1人が65歳以上に（総務省発表人口推計） 6 全国信用金庫預金量130兆円突破
2015（平27）	1. 5 ファミリーサポート定期積金「たのしみプラス」発売 1.15 納税顕功法人知事感謝状の贈呈式および三日月知事との対談会 2. 2 ATM入出金手数料の終日無料化実施 5.30 ながしん講演会開催（講師・金美齢氏） 6. 1 傷害保険付定期預金「お守りプラス」発売 6. 1 金利優遇定期預金「ながたん」発売 7. 1 「長浜町家応援ローン」「長浜まちなか応援ローン」の取扱開始 7. 1 投資信託キャッシュバックキャンペーン 8. 3 「資産活用応援ローン」の取扱開始 8. 3 「職域サポートローン」「職域サポートカードローン」の取扱開始 8.25 女性防犯セミナー開催 8.27 「えきちか住促ローン」「えきちかにぎわいローン」の取扱開始 11. 2 滋賀県医師共同組合会員向け融資「ドクタープラチナムフリー」の取扱開始 11. 5 経営革新セミナー開催 11.16 東日本大震災復興応援定期預金「しんきんの絆」発売	3 北陸新幹線 長野―金沢間開業 4 業界の長期経営計画「しんきんスクラム強化3ヵ年計画」スタート 10 マイナンバー法施行
2016（平28）	1.18 日本政策金融公庫とのパッケージ商品「近江翔人・W」取扱開始 1.27 ながしん若手経営者の会「新春セミナー」開催 2. 1 「カーライフプラン for Ladies」「女性向けカードローン」取扱開始 3. 6 「滋賀どこでもATMネット」の取扱開始 3. 7 日本政策金融公庫とのパッケージ商品「農業応援ローン」取扱開始 4. 1 子育て応援定期預金「わくわく」取扱開始 4.21 地域クラウドファンディングサービス「FAAVO滋賀」とパートナーシップ契約締結 5. 2 個人型確定拠出年金（iDeCo）の取扱開始 6. 1 ユネスコ無形文化遺産登録応援定期預金「曳山〜湖北から世界へ〜」発売 7.20 滋賀県と県内3信用金庫および信金中央金庫との産業振興に関する協定締結 8.－ 自動車事故費用共済の取扱開始 10. 8 ながしん講演会開催（講師・田崎史郎氏） 11.16 若手経営者の会「オープンセミナー」開催	1 黒田官兵衛博覧会開催（～12/28） 1 日本銀行、マイナス金利導入を決定 4 熊本地震発生 9 金融庁、金融機関の営業時間規制を弾力化。昼休みの閉店や半日営業可能に 12 長浜曳山祭がユネスコ無形文化遺産に登録決定

年	当金庫の出来事	地域・社会・業界の出来事
2017（平29）	2. 1 iDeCo新規ご加入キャンペーン 2. 8 若手経営者の会「特別セミナー」開催 2.10 教育カードローン取扱開始 4.10 バイオビジネス創出研究会と「小谷城スマートIC周辺6次産業化拠点構想策定支援に係る覚書」締結 5.13 びわ湖長浜ソーデーマーチ第25回記念式典で長浜市より感謝状 5.22 満70歳以上のお客様のATM振込制限開始 6. 1 人型ロボットPepperを活用した感謝キャンペーン 7. 3 ながしん創業助成金制度創設 7. 3 金銭信託商品の取扱開始（「こころのボタン」「こころのリボン」） 7. 3 投資信託キャンペーン実施 8.23 若手経営者の会オープンセミナー開催 10. 1 滋賀県下3信用金庫合同消費者ローンキャンペーン 10.14 ながしん講演会開催（講師・手嶋龍一氏） 11.15 遺言・相続全国一斉相談会開催 11.21 ながしん経営セミナー開催	3 政府、働き方改革実行計画を決定 4 総務省の総人口推計1億2,693万人余で6年連続減少
2018（平30）	1.15 「つみたてNISA」対象商品の販売開始 2. 6 ながしん若手経営者の会「第1回特別セミナー」開催 4. 2 スーパー定期預金「ながしんW」発売 4. 2 相統定期預金および子育て応援定期預金「わくわく」を通年商品化 5. 8 滋賀県・滋賀労働局と「働き方改革推進のための包括連携協定」を締結 6. 1 貸金庫新規ご契約キャンペーン 6. 1 後見支援預金の取扱開始 6. 1 プレゼント付定期積金「ドキドキ」発売 6.14 第8代理事長に田邊功が就任 8.－ 預金量3,000億円達成 10.16 グランドウィング年金サークル日帰り旅行（名古屋） 10.20 ながしん講演会開催（講師・ケント・ギルバート氏）	4 信金業界の長期経営計画「しんきん『共創力』發揮3ヵ年計画」スタート 6 成人年齢 18歳に引き下げる改正民法成立
2019（平31/令和）	2. 6 ながしん若手経営者の会特別セミナー開催 2.－ 信金キャピタル株式会社と「M&A仲介業務に関する協定書」締結 4. 1 スーパー定期預金「ながしんW」発売 4.14 キャッシュカード1日あたり出金限度額を50万円に引下げ 6. 1 しんきん「地域応援」キャンペーンを実施 8. 1 県下3信金合同消費者ローンキャンペーン 8.－ 「フリーローン（WEB完結型）」の取扱開始 9.20 LINE公式アカウント開設 11. 8 ながしん若手経営者の会「オープンセミナー」開催	1 訪日外国人旅行者3,000万人超（2018年統計発表） 5 天皇陛下即位、令和に改元 9 ラグビーW杯日本大会で8強入 10 消費税率8%から10%に引上げ
2020（令和2）	2.13 ながしん若手経営者の会「新春セミナー」開催 3.23 「Hi-Co（ハイコ）通帳」の取扱開始 5. 2 ゴールデンウィーク休日融資相談窓口の設置（～5/6） 5.27 新型コロナウイルス感染症対策のため長浜市に寄付 5.29 新型コロナウイルス感染症対策のため米原市に寄付 7.13 生活資金支援ローンの取扱開始 9.27 長浜市の次世代を担う人材育成講演会に協賛（講師・坂口志文氏） 10. 1 リバースモーゲージローン「おうみのくらし」取扱開始 11.－ 横田幸造理事相談役が旭日双光章受章	3 WHO、新型コロナウイルス感染症でパンデミック（世界的流行）宣言 3 東京オリンピック・パラリンピックの1年延期決定 4 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言（以降、計4回発出） この年 春夏の甲子園（高校野球大会）中止、各地で行事等の中止相次ぐ
2021（令和3）	3.25 ながしんSDGs宣言 4.－ 「遺言信託・遺産整理業務」契約に伴う媒介開始 4.－ ローソン銀行とATM直接提携 5.－ 米原市役所新庁舎に木彫「石橋の獅子」寄贈 6.24 第24回信用金庫社会貢献賞を受賞 11.11 滋賀県と県内3信金が「事業承継促進に関する協定締結	2 新型コロナワクチン接種開始 7 東京オリンピック開幕（原則無観客） 9 デジタル庁発足 11 大谷翔平が米メジャーリーグでMVP
2022（令和4）	5.－ 民事信託取扱に伴う顧客紹介業務開始 この年 第1回ながしんCup U-10少年サッカー大会開催	9 安倍晋三元首相国葬 10 円安1ドル150円突破
2023（令和5）	3.－ バンキングアプリサービス取扱開始 4. 1 業務本部改編、3本部制へ移行 11.22 創立100周年記念講演会（講師・モーリー・ロバートソン氏）、総代会開催 12.－ 預金量4,000億円達成	3 WBCで日本が14年ぶり優勝 5 新型コロナウイルス感染症が5類移行 9 夏（6～8月）の平均気温過去最高（気象庁発表） この年 ガソリン 価格過去最高、物価高続く

あとがき

当金庫創立100周年の記念事業の一環として、湖北と息づくながしんのあゆみを綴った「長浜信用金庫100周年記念誌」がこのたび刊行の運びとなりました。

50年史80年史に続く本誌は、「あゆみ」をキーワードに100年の様々な局面を、“見やすく読みやすい年史”を目指して、2022年7月より編纂に取り組んで参りました。

本誌の構成は、歴史を語る「ながしん100年のあゆみ」使命を語る「まちのあゆみ」地域を語る「店舗のあゆみ」の3部構成と資料編としております。巻頭に配しました、観音開きのビジュアル年表につきましては、特に時代と当金庫の関わりを文字通り“見やすく”展開することを旨といたしました。

作業を通じ、日頃の業務の中では認識が希薄になりがちな、金庫や地域の先人の皆さんの、当金庫への思いや願いの強さを痛感いたしました。私どもが今ある姿には、100年の歴史が礎となっている点を、つぶさに感じとることができたことは、編纂作業に関わることができた宝物であります。

むすびにあたり、本誌制作にあたりご協力いただいた各位をはじめ、とりわけ企画立案の段階から終始参画いただきました、TOPPAN株式会社ならびに株式会社エトレの皆様には深甚なる謝意を表します。

創立100周年記念誌編纂委員会事務局

主要参考文献 (順不同)

『温故知新一創立50周年をむかえて』 長浜信用金庫
『長浜信用金庫80周年記念誌』 長浜信用金庫
『信用金庫60年史』 全国信用金庫協会
『信金中央金庫七十年史』 信金中央金庫
『尼崎信用金庫百年史』 尼崎信用金庫
庫内報『雄飛』 長浜信用金庫
『長浜市史第4巻 市民の台頭』 長浜市役所
『長浜の企業人列伝』 長浜市、長浜城歴史博物館

写真・資料提供 (順不同・敬称略)

(公社)びわこビジターズビューロー
吉田一郎
山崎俊男
毎日新聞社
朝日新聞社
中日新聞社

湖北と息づく ながしんのあゆみ

長浜信用金庫100周年記念誌

2024(令和6)年6月13日発行

編集・発行 長浜信用金庫

滋賀県長浜市元浜町3番3号

編集協力 株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ 年史センター

印刷 TOPPAN株式会社